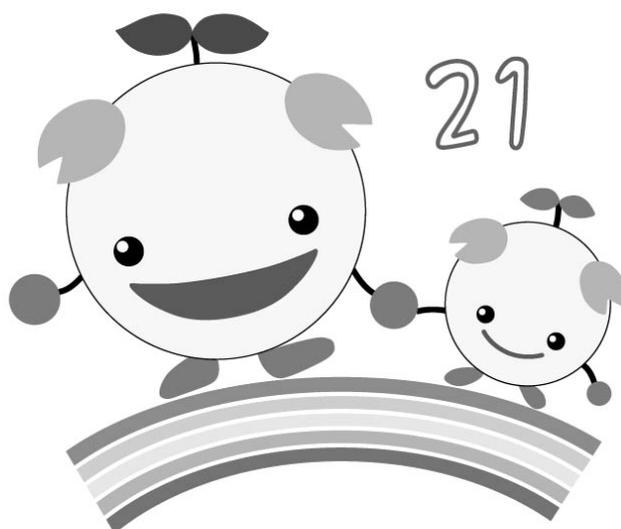


平成18年度

# 保健活動のまとめ



健康おおぐち21シンボルマーク

大口町保健センター

## 大口町健康の町宣言

健康は、まちの財産であり、しあわせの源であります。

心身ともに健康であることは、町民すべての願いであり、活力あるまちづくりのうえで、最も大切なことでもあります。

私たち大口町民は、一人ひとりが健康でしあわせな、明るい活力ある大口町を築くため、ここに「健康の町」を宣言します。

- 1 スポーツやレクリエーションをとおして、健康なところとからだをつくれます。
- 2 町民一人ひとりが調和のある、健康で豊かな家庭をつくれます。
- 3 健康づくりを地域にひろめ、健康で豊かなまちをつくれます。

# 目 次

## 1 大口町の概要

1	町の位置及び紹介	1
2	大口町医療機関等分布図	2
3	人口	2
4	人口動態統計年次推移	5
5	選択死因別死亡数年次推移	5
6	大口町組織図	7
7	保健センターの概要	8
8	保健活動の変遷	10

## 2 母子保健活動

1	母子保健事業の取り組み	19
2	母子健康手帳の交付・妊婦相談	21
3	妊婦・乳児健康診査	22
4	パパママ教室	23
5	フレッシュママの会	25
6	低体重児の状況	25
7	乳幼児健康診査	26
8	子育て相談室	31
9	家庭訪問	33
10	たんぽぽ教室	34
11	離乳食教室	35
12	子育て支援	37
13	「子どもの健康」に関する連絡会	39

## 3 成人保健活動

1	成人保健の取り組み	41
2	健康手帳の交付	43
3	基本健康診査	44
4	各種がん検診	47
5	わかば健診	54
6	骨密度測定	56
7	健康教育	58
8	健康相談	72
9	介護予防事業	76
10	保健師活動報告	81
11	栄養士活動報告	82
12	家庭訪問	83

## 4 歯科保健活動

1	歯科保健事業の取り組み	85
2	幼児期歯科健康診査	86
3	妊婦歯科健康診査	88
4	わかば健康診査時歯科健診	89
5	歯周病予防健診	91
6	歯の健康センター	94
7	8020・9018運動	94

## 5 健康推進事業

1	健康推進員活動	95
2	「健康おおぐち21」計画推進	102

## 6 感染症予防事業

1	予防接種	116
2	結核予防	120

## 7 救急医療

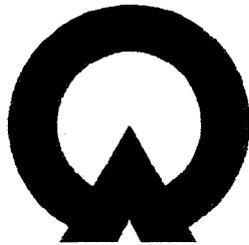
1	救急医療の取り組み	122
2	第一次救急医療	122
3	第二次救急医療	122

## 8 調査・研究等

1	学生実習指導	123
2	研究・発表等	123

# 1 大口町の概要

# 1 町の位置及び紹介

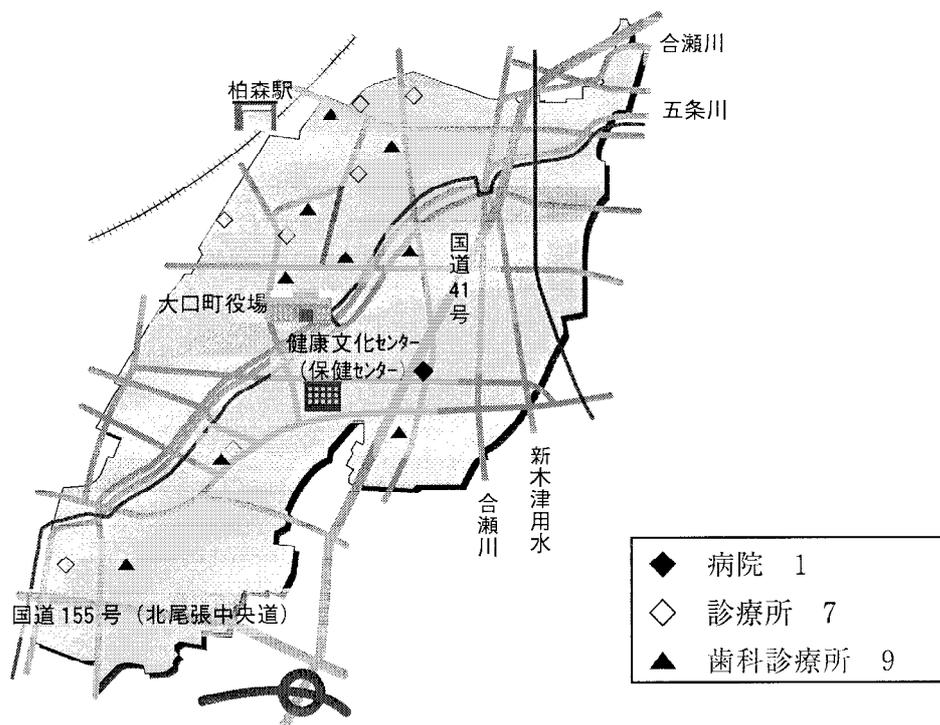


大口町は、愛知県の西北部にあり、犬山扇状地の東南部に位置しています。東西約3.6キロメートル、南北約6.1キロメートル、総面積13.58平方キロメートルです。北は扶桑町、北東は犬山市、北西から西は江南市、南から南東は小牧市に接しています。

名古屋市より直線距離にしてわずか18キロメートルの近郊地域に位置していますが、五条川をはじめとした恵まれた自然や田園地帯が広がることから、良好な環境を有する住宅地としての魅力が高まっています。

町中央部を国道41号線が南北に走るとともに、周辺には東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道、名古屋都市高速道路がネットワークを形成しています。また、近隣には県営名古屋空港があるなど国内外の地域や国々との交流条件が充実しています。

## 2 大口町医療機関等分布図



## 3 人口

(1) 地区別世帯数 (単位：世帯)

地区	区分	世帯
秋田		685
豊田		562
大屋敷		494
外坪		239
河北		451
余野		1,588
上小口		589
中小口		692
下小口		1,334
垣田		379
さつきヶ丘		300
合計		7,313

(2) 地区別人口 (単位：人)

地区	区分	人口		
		総数	男	女
秋田		2,187	1,104	1,083
豊田		1,944	956	988
大屋敷		1,439	712	727
外坪		803	398	405
河北		1,464	712	752
余野		4,516	2,332	2,184
上小口		1,683	900	783
中小口		2,089	1,054	1,035
下小口		3,512	1,813	1,699
垣田		982	440	542
さつきヶ丘		832	416	416
合計		21,451	10,837	10,614

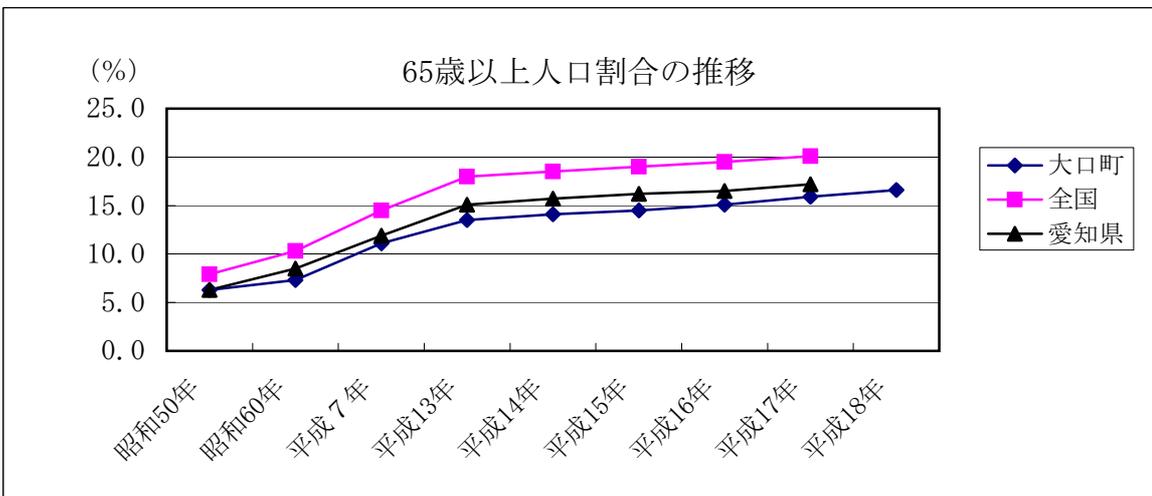
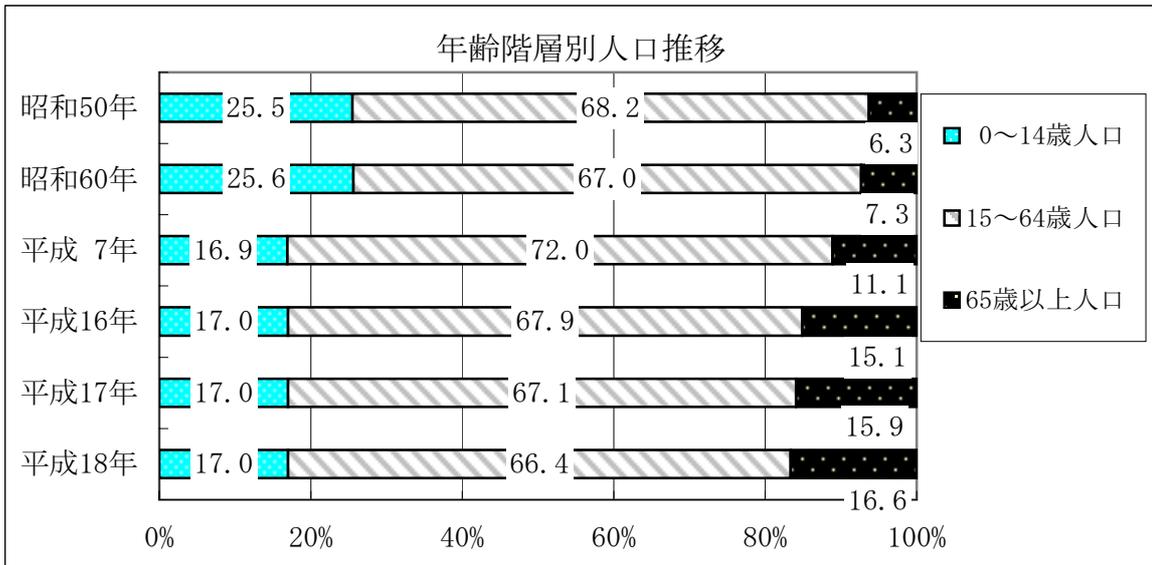
(平成18年10月1日現在 住民基本台帳より)

(3) 年齢階層別人口の推移

(単位 上段：人 下段：%)

		昭和50年	昭和60年	平成7年	平成16年	平成17年	平成18年
総人口		15,894	16,195	19,031	21,254	21,261	21,451
年齢階層区分	0～14歳人口	4,052	4,153	3,223	3,613	3,616	3,647
	比率	25.5	25.6	16.9	17.0	17.0	17.0
	15～64歳人口	10,840	10,852	13,702	14,440	14,257	14,235
	比率	68.2	67.0	72.0	67.9	67.1	66.4
	65歳以上人口	1,002	1,190	2,106	3,201	3,388	3,569
	比率	6.3	7.3	11.1	15.1	15.9	16.6
	40歳以上人口	4,466	5,216	8,648	10,004	10,189	10,303
	比率	28.1	32.2	45.4	47.1	47.9	48.0
	75歳以上	308	421	873	1,301	1,364	1,426
比率	1.9	2.6	4.6	6.1	6.4	6.6	
全国 65歳以上人口比率	7.9	10.3	14.5	19.5	20.1	-	
愛知県 65歳以上人口比率	6.3	8.5	11.9	16.5	17.2	-	

資料：全国・愛知県は、国勢調査及び「国民衛生の動向」より



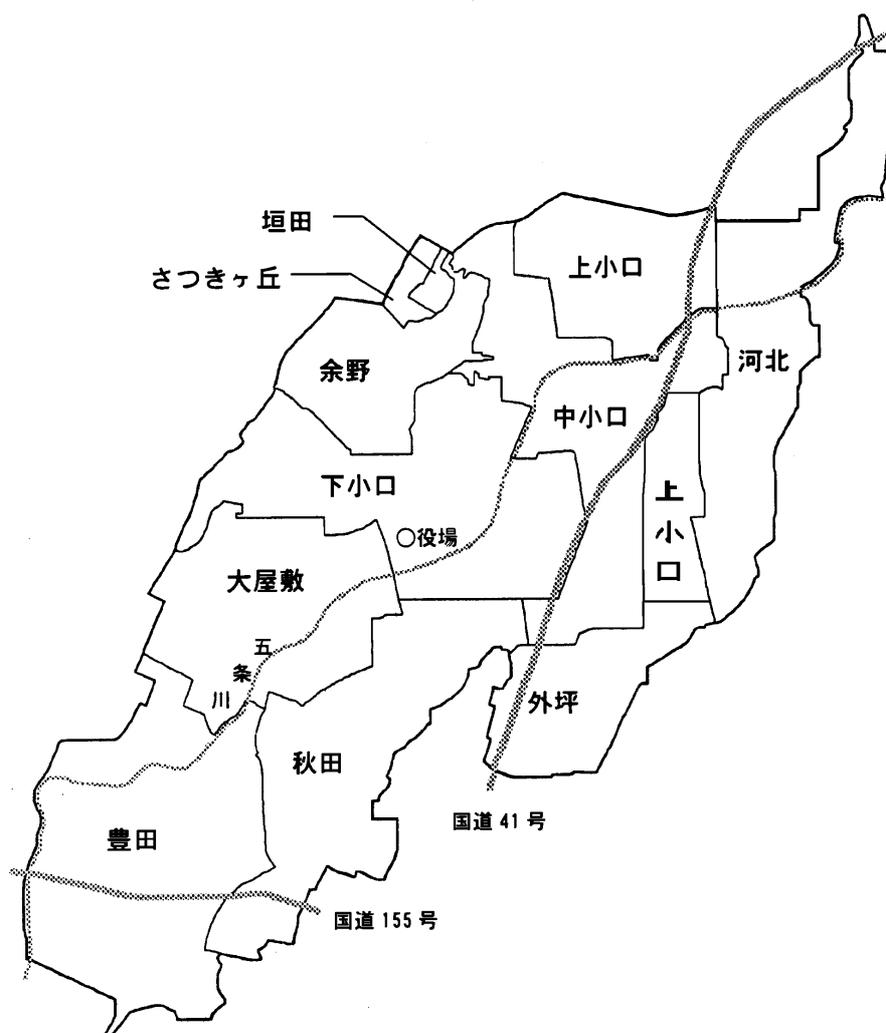
(4) 地区別高齢化率

(上段：人 下段：%)

地 区	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野
人 口	2,151	1,936	1,471	803	1,455	4,620
65歳以上人口	341	394	329	182	250	510
比 率	15.9	20.4	22.4	22.7	17.2	11.0
地 区	上小口	中小口	下小口	垣田	さつきヶ丘	合計
人 口	1,677	2,000	3,536	997	805	21,451
65歳以上人口	278	329	609	156	191	3,569
比 率	16.6	16.5	17.2	15.6	23.7	16.6

(平成18年10月1日現在 住民基本台帳より)

〈行政区域図〉



#### 4 人口動態統計年次推移

(単位：人 率：1,000 対)

年	種別	人口	出生				死亡				自然増加		乳児死亡(再掲)				新生児死亡		周産期死亡		死産		婚姻		離婚	
			総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
昭和	55	16,195	226	120	106	14.0	100	53	47	6.2	126	7.8	3	2	1	13.3	-	-	3	13.3	7	30.0	98	6.1	16	1.0
	60	17,247	199	111	88	11.5	86	42	44	5.0	113	6.6	-	-	-	-	-	-	-	-	9	43.3	88	5.1	14	0.8
平成	元	17,184	162	97	65	9.4	85	48	37	4.9	77	4.5	1	-	1	6.2	1	6.2	-	-	8	47.1	83	4.8	20	1.2
	6	18,822	233	127	106	12.4	103	58	45	5.5	130	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8.5	131	7.0	23	1.2
	14	21,170	279	152	127	13.2	117	61	56	5.5	162	7.7	1	-	1	3.6	1	3.6	2	7.1	4	14.1	145	6.8	44	2.1
	15	21,275	254	134	120	11.9	141	80	61	6.6	113	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3.9	145	6.8	37	1.7
	16	21,254	250	140	110	11.8	138	73	65	6.5	112	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	4	16.0	125	5.9	44	2.1
	17	21,602	229	123	106	10.7	157	83	74	7.4	72	3.3	1	1	-	4.4	-	-	-	-	9	37.8	139	6.5	44	2.1
	18	21,750	253	124	129	11.6	124	62	62	5.7	129	5.9	2	-	2	7.9	1	3.9	1	3.9	3	11.9	150	6.9	51	2.3
愛知県	H17	7,103,849	67,110	34,324	32,786	9.4	52,536	28,572	23,964	7.4	14,574	2.1	202	120	82	3.0	98	1.5	333	4.9	1,748	25.4	43,948	6.2	13,997	2.0
全国	H17	126,204,902	1,062,530	545,032	517,498	8.4	1,083,796	584,970	498,826	8.6	-21,266	-0.2	2,958	1,641	1,317	2.8	1,510	1.4	5,149	4.8	31,818	29.1	714,265	5.7	261,917	2.1

※人口は、大口町及び愛知県が愛知県企画振興部統計課発表の総人口、全国が厚生労働省大臣官房統計情報部試算の日本人人口で隔年10月1日現在である。

<率算出式>

$$\begin{aligned} \text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率} &= \frac{\text{出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率}}{\text{人口}} \times 1,000 \\ \text{死産率} &= \frac{\text{死産数}}{\text{出産(出生+死産)数}} \times 1,000 \\ \text{乳児死亡・新生児死亡率} &= \frac{\text{乳児死亡・新生児死亡}}{\text{出生数}} \times 1,000 \\ \text{周産期死亡率} &= \frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000 \\ \text{周産期死亡率} &= \frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数+妊娠満2週以後の死産数}} \times 1,000 \\ \text{死因別死亡率} &= \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 100,000 \end{aligned}$$

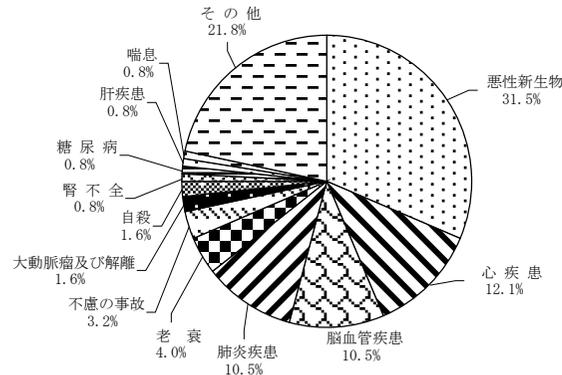
#### 5 選択死因別死亡数・率(人口10万対)年次推移

(単位：人)

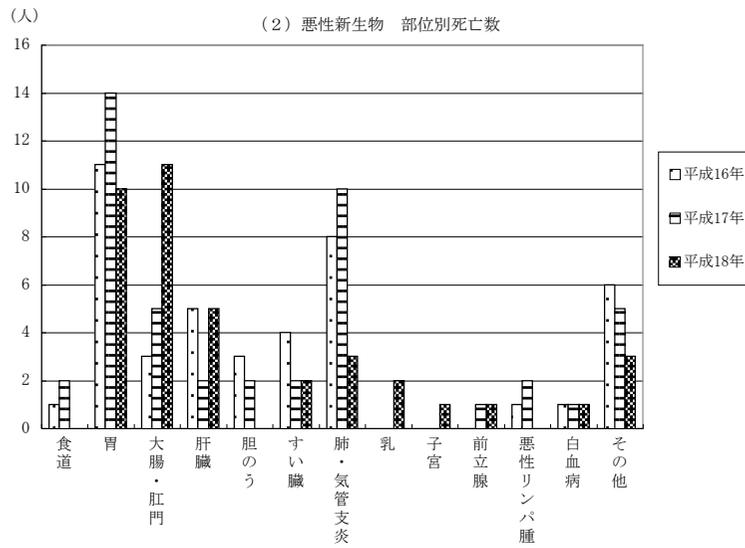
年	死因	総数		結核		悪性新生物		糖尿病		高血圧		心疾患		脳血管疾患		大動脈瘤及び解離		肺炎疾患		慢性閉塞性肺疾患		喘息		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率		
平成7年		119	5.3	1	5.3	37	194.5	2	10.5	2	10.5	14	73.6	16	84.1	-	-	12	63.1	1	5.3	-	-	1	5.3	2	10.5	4	21.0	7	36.8	3	15.8	17	89.3
13年		136	-	-	-	34	162.6	1	4.8	1	4.8	28	133.9	23	110.0	3	14.4	12	57.4	1	4.8	-	-	1	4.8	2	9.6	2	9.6	10	47.8	5	23.9	13	62.2
14年		117	-	-	-	32	151.2	2	9.4	1	4.7	16	75.6	11	52.0	2	9.4	13	61.4	2	4.8	-	-	2	9.4	3	14.2	4	18.9	6	28.3	2	9.4	21	99.2
15年		141	-	-	-	44	206.8	2	9.4	-	-	21	98.7	25	117.5	-	-	12	56.4	1	4.7	-	-	2	9.4	2	9.4	4	18.8	7	32.9	4	18.8	17	79.9
16年		138	1	4.7	4.7	43	202.3	1	4.7	-	-	27	131.7	15	70.6	-	-	13	61.2	-	-	-	-	3	14.1	2	9.4	4	18.8	5	23.5	3	14.1	20	94.1
17年		157	-	-	-	46	216.4	2	9.4	-	-	30	141.1	19	89.4	-	-	19	89.4	3	14.1	-	-	1	4.7	4	18.8	4	18.8	6	28.2	2	9.4	21	98.8
18年		124	-	-	-	39	179.3	1	4.6	-	-	15	69.0	13	59.8	2	9.2	13	59.8	-	-	1	4.6	1	4.6	1	4.6	5	23.0	4	18.4	2	9.2	27	124.1
愛知県	H17	52,536	129	1.8	1.8	15,876	223.5	586	8.1	203	2.8	8,767	123.4	6,196	87.2	618	8.7	4,862	68.4	586	8.1	148	2.0	732	10.3	926	13.0	1,431	20.1	2,064	29.1	1,466	20.6	7,946	109.5
全国	H17	1,083,796	2,296	1.8	1.8	325,941	258.3	13,621	11.6	5,835	4.6	173,125	137.2	132,847	105.3	11,392	9.0	107,241	85.0	14,416	11.4	3,198	2.5	16,430	13.0	20,528	16.3	26,360	20.9	59,863	31.6	30,553	24.2	140,150	111.0

※人口は各年10月1日現在のもの。

(1) 選択死因別死亡割合 (平成18年)



(2) 悪性新生物 部位別死亡数

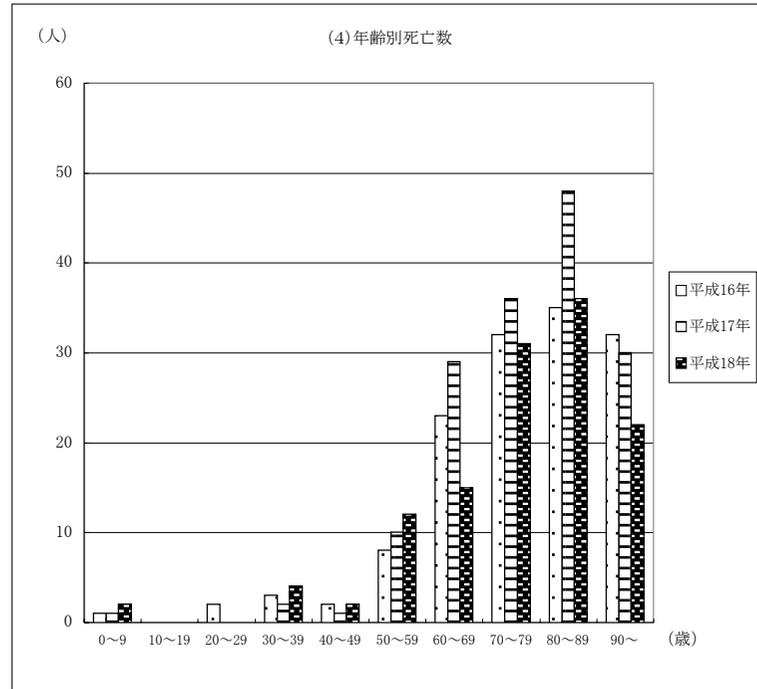


(3) 年齢別死亡数・死亡原因 (平成18年)

(単位:人)

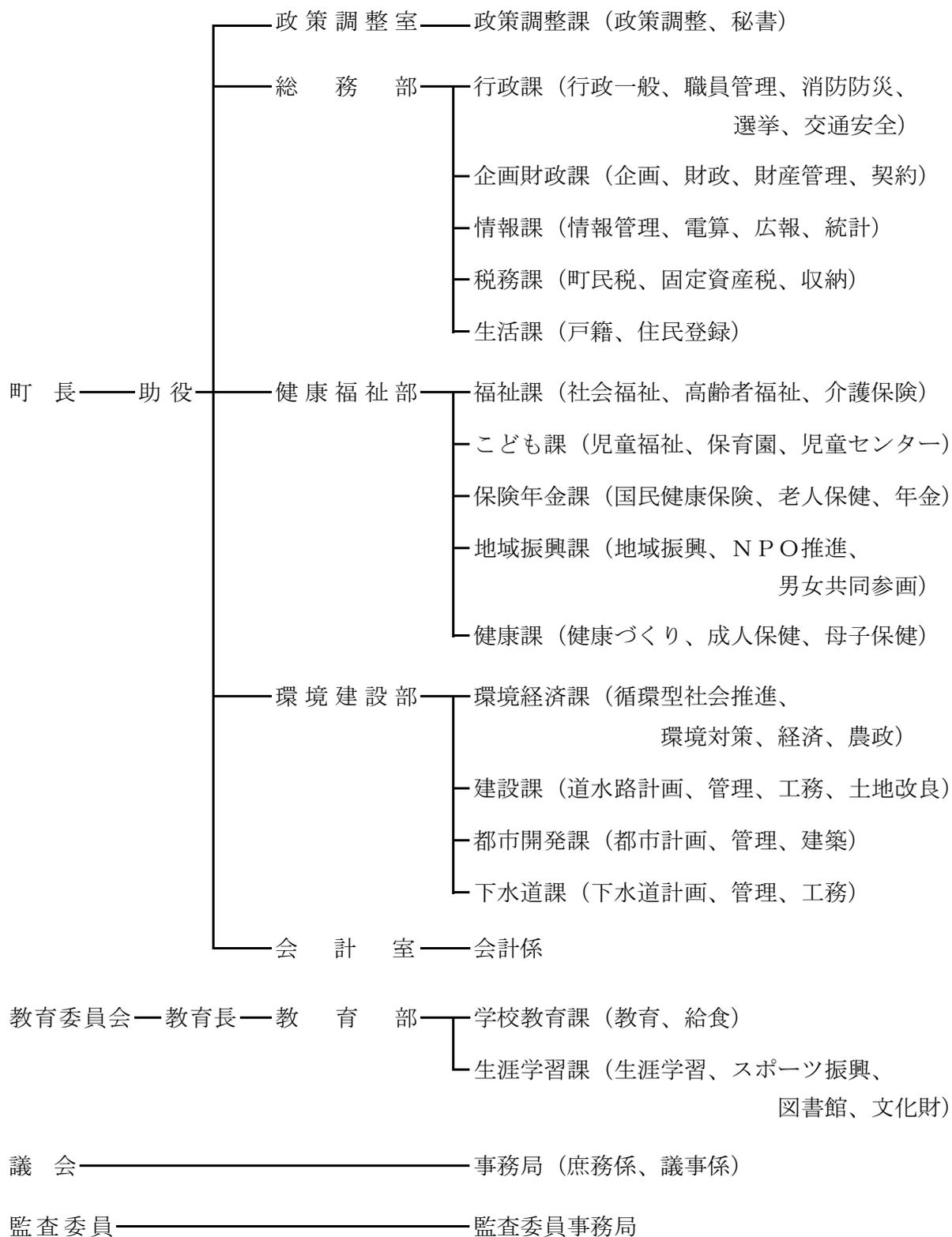
年齢	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤及び解離	肺炎疾患	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺	その他
(歳)	124	0	39	1	0	15	13	2	13	0	1	1	1	5	4	2	27
0~9	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
10~19	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20~29	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30~39	4	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
40~49	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
50~59	12	-	8	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
60~69	15	-	7	-	-	1	1	-	3	-	-	1	-	-	1	-	1
70~79	31	-	14	-	-	4	1	1	4	-	-	-	1	-	-	1	5
80~89	36	-	7	-	-	4	6	1	2	-	1	-	-	3	1	1	10
90~	22	-	1	1	-	4	3	-	4	-	-	-	-	2	1	-	6

(4) 年齢別死亡数



## 6 大口町組織図

(平成18年4月1日現在)



## 7 保健センター（健康文化センター）の概要

平成10年健康づくりの中核拠点、健康と福祉の交流拠点、歴史と文化のふれあい拠点として、健康文化センターが建設され、保健センターも健康文化センター内に移転した。

### (1) 施設の概要（健康文化センター含む）

- ・位置 丹羽郡大口町伝右一丁目35番地
- ・本館 構造 鉄筋コンクリート造5階建  
(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)

1階	1,847.40 m <sup>2</sup>	保健センター（専用面積 974.78 m <sup>2</sup> ）
2階	1,639.98 m <sup>2</sup>	保健センター（専用面積 611.92 m <sup>2</sup> ） 社会福祉協議会
3階	1,106.63 m <sup>2</sup>	歴史民俗資料館
4階	1,106.63 m <sup>2</sup>	研修センター
5階	1,106.63 m <sup>2</sup>	トレーニングセンター
PH階（機械室）	167.04 m <sup>2</sup>	
- ・機械棟 構造 鉄筋コンクリート造  
床面積 168.00 m<sup>2</sup>
- ・駐輪場 構造 鉄骨造  
床面積 40.00 m<sup>2</sup>  
(延床面積 7,182.31 m<sup>2</sup>)
- ・敷地面積 10,413.95 m<sup>2</sup>  
(内訳) 本体施設 5,069.95 m<sup>2</sup>  
ふれあい広場、駐車場 5,344.00 m<sup>2</sup>
- ・本体施設の工期  
着工 平成9年6月24日  
竣工 平成10年9月24日
- ・使用開始年月日  
平成10年11月9日

### (2) 保健センターの主要施設

- 1階 事務室・応接室・栄養実習室・栄養指導室・会議室・相談室・機能回復  
訓練室・作業室・多目的室・検査室・授乳室
- 2階 待合室・予診室・計測室・診察室・歯科室・保健指導室・聴力室・カルテ  
庫・消毒室・検査室・プレイルーム・授乳室

### (3) 事務分掌

- (1) 予防接種に関すること。
- (2) 結核予防に関すること。
- (3) 感染症に関すること。
- (4) 救急医療に関すること。
- (5) 保健センターの管理運営に関すること。
- (6) 地域保健対策に関すること。
- (7) 医療団体等に関すること。
- (8) 母子保健に関すること。
- (9) 成人保健に関すること。
- (10) 老人保健に関すること。
- (11) 健康増進に関すること。
- (12) 健康推進員に関すること。
- (13) 健康おおぐち21計画の推進に関すること。
- (14) 介護保険等の認定調査に関すること。
- (15) 健康文化センターの維持管理に関すること。
- (16) その他保健衛生に関すること。

### (4) 主な事業内容

母子保健…母子健康手帳交付説明会、妊婦相談、妊婦歯科健診、パパママ教室、フレッシュママの会、乳幼児健康診査（4か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児）、離乳食教室、子育て相談室、たんぽぽ教室、歯科健診、子どもの事故予防教育、子育てサークル等支援

成人保健…住民結核検診、基本健康診査（肝炎ウイルス検診）、がん検診（胃・子宮・肺・乳・大腸・前立腺）、わかば健康診査、骨密度測定、健康手帳交付、健康相談、栄養相談、歯周病予防健診、生活習慣病予防教室、高齢者の健康づくり教室（しなやかお達者教室、ひだまりの会）、生き生き体操、男性の健康づくり教室

予防接種…集団接種：急性灰白髄炎（ポリオ）、BCG接種  
個別接種：麻疹・風疹混合、三種混合、二種混合、日本脳炎、麻疹、風疹、インフルエンザ（65歳以上等）

家庭訪問…第1子出生児全員及び第2子以降の希望者、低出生体重児（2000g以上）及び里帰り等の希望者、乳幼児健診事後フォロー、虐待予防、健診事後フォロー、精神障害者、介護保険認定調査等

健康推進事業…健康おおぐち21計画推進事業、健康推進員活動（OB会も含む）、健康まつり等

その他…健康文化センター維持管理

## 8 保健活動の変遷

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法 ・ その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
昭和 40			<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和26年国民健康保険直営診療所開設</li> <li>・国保診療所改築 (1月)</li> </ul>
41			<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健センター設立 (5月) (助産業務中心)</li> </ul>
43			<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名退職</li> </ul>
48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦相談・出生児全戸訪問開始</li> <li>・0～3か月児健診</li> <li>・4～6か月児健診</li> <li>・7～12か月児健診</li> </ul>		
50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生児全戸訪問廃止</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦産休 (12月)</li> <li>・助産業務廃止 (3月) (保健指導業務のみとなる)</li> </ul>
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2歳児健診開始</li> <li>・歯科健診開始</li> <li>・母子健康手帳の交付 母子センターに移行</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名採用 (4月)</li> <li>・助産婦4名退職 (9月)</li> <li>・保健婦1名採用</li> </ul>
52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はは子教室(歯の健康教室)実施</li> <li>・1～2歳児健診廃止 (9月)</li> <li>・1歳6か月児健診開始 (10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般健康相談開始</li> <li>・地区巡回健康相談開始</li> <li>・寝たきり老人訪問開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産婦1名退職</li> </ul>
53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1子全戸家庭訪問実施</li> <li>・乳児健診改正 4か月児健診開始 6か月児健診開始</li> <li>・健診時集団保健指導開始</li> <li>・母親教室2回コースとなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉会館での健康相談開始</li> <li>・畜産婦人部への保健活動開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の健康づくり</li> <li>・市町村保健婦一体化になる</li> <li>・麻疹の予防接種について厚生省より通知個別接種になる (8月)</li> <li>・大口町総合福祉会館設立 (12月)</li> </ul>
昭和 54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6か月児健診廃止</li> <li>・9か月児健診開始</li> <li>・乳幼児健康カード改正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区巡回健康相談廃止</li> <li>・家庭介護教室開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大口町健康づくり推進協議会設置</li> </ul>
55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児教室開始 (7月) (1歳6か月児健診事後指導)</li> </ul>		
56			<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子センター係長設置</li> <li>・事務職員本庁配置となる</li> </ul>

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
57		<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳がん検診開始 (12月)</li> <li>・健康手帳交付開始 (2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名採用 (4月)</li> <li>・看護婦1名臨時採用 (4月)</li> <li>・老人保健法公布 (3月)</li> <li>・老人保健法施行 (2月)</li> <li>・国保診療所廃止</li> <li>・尾北歯科医師会による歯の健康センター開始</li> </ul>
58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児相談開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産婦人部への保健活動廃止</li> <li>・一般健康診査開始</li> <li>・成人病教室開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名採用 (4月)</li> <li>・看護婦1名臨時から雇いとなる</li> <li>・保健センター開設 (4月)</li> <li>・保健婦1名退職 (9月)</li> </ul>
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児教室をたんぽぽ教室に改名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操(エアロビクス)地区活動開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名採用 (4月)</li> </ul>
60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親教室3回コースとなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区巡回健康相談再開</li> <li>・健康(パネル)展開始</li> </ul>	
61		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大腸がん検診開始</li> <li>・寝たきり家族の会開始</li> <li>・一般健康診査廃止</li> </ul>	
昭和 62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがき教室開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本健康診査開始</li> <li>・70歳以上の老人健康実態調査</li> </ul>	
63		<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩く健康教室開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名退職 (3月)</li> </ul>
平成 元年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人歯科相談開始</li> <li>・大腸がん検診・肺がん検診を町内医療機関にも委託</li> <li>・健康(パネル)展をミニ健康展に改名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名採用 (4月)</li> <li>・国の高齢者保健推進「10年戦略ゴールドプラン」策定</li> <li>・高齢者サービス調整チーム会議開始</li> <li>・保健福祉調整会議</li> <li>・保健婦1名退職 (3月)</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦歯科相談開始</li> <li>・キッチンカー(県)による離乳食教室開始(年2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能訓練教室としてひまわり教室開始(年6回)</li> <li>・身体障害者を訪問しひまわり教室を紹介</li> <li>・乳がん検診町内医療機関に追加委託</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名採用 (4月)</li> </ul>

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児健診に視力検査追加(10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり教室毎月1回となる</li> <li>・ひまわり教室スタッフに作業療法士加わる</li> <li>・送迎用リフトバス配置(1月)</li> <li>・地区巡回健康相談廃止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月議会に「健康の町宣言」について一般質問</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親教室スタッフに栄養士加わる</li> <li>・3歳児健診に聴力検査追加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり教室毎月2回となる</li> <li>・生命の貯蓄体操開始</li> <li>・80歳以上老人及び要介護者の全戸訪問実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構改革により、保健センターに本庁より衛生係移転、センター職員が課長補佐兼衛生係長1名として加わり6名となる(4月)</li> <li>・8020運動推進対策事業開始(県)</li> <li>・東保育園に障害者保育「うさぎ組」開設</li> <li>・事務職雇1名採用(7月)</li> </ul>
平成 5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の貯蓄体操、国保とタイアップし前期・後期の2教室とする</li> <li>・ひまわり教室野外活動導入</li> <li>・作業療法士、年間18回となる</li> <li>・家庭介護教室(10回コースで実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大口町老人保健福祉計画を策定</li> <li>・大口町健康づくり企画推進委員会及び担当者部会設置</li> <li>・大口町議会定例会にて「大口町健康の町宣言」議決(12月)</li> <li>・老人福祉センター内にデイサービスセンター(D型)開設</li> </ul>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり教室半日から一日となる。作業療法士24回となる</li> <li>・男の料理教室開始・家庭介護教室(6回コース)で実施</li> <li>・家庭訪問に作業療法士加わる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦活動業務が母子、成人の業務分担制となる</li> <li>・保健所法の一部改正により地域保健法に改名(7月)</li> <li>・母子保健法の一部改正(7月)</li> <li>・予防接種法及び結核予防法の一部改正(10月)</li> <li>・「健康の町宣言」記念式典記念講演会及び第1回健康まつり実施(11月12日・13日)</li> <li>・国保人間ドック開始</li> </ul>

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児相談スタッフに助産婦、栄養士加わる (各6回)</li> <li>・保育園・保健センター連絡会開始 (12月に1回)</li> <li>・日本脳炎・三種(二種)混合・風しんが個別接種となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきウォーキング講座開始(8回コース)</li> <li>・ひまわり教室に理学療法士加わる(年2回)</li> <li>・家庭訪問に理学療法士(2回)</li> <li>・家庭訪問に作業療法士(6回)</li> <li>・骨検診開始(11月・1月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名採用(4月)</li> <li>・特別養護老人ホーム「御桜乃里」開設(4月)、在宅介護支援センター・デイサービスセンター(B型)が併設される(7月)</li> <li>・老人福祉センター内デイサービスセンターがC型に変更</li> <li>・大口町健康推進員設置(6月)</li> </ul>
平成 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親教室4回コースとなる(妊婦歯科相談を母親教室の中に組み入れる)</li> <li>・町で離乳食教室開始</li> <li>・「乳幼児相談」を「子育て相談室」に改名し、同時に2階にて「親子ふれあい広場」(生涯学習課)を開設</li> <li>・自主子育てサークル誕生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり教室理学療法士、年6回になる</li> <li>・ひまわり教室、花見交流会で豊山町来町・岩倉市来町</li> <li>・8020 運動歯の健康コンクール開催</li> <li>・歩く健康教室を歩く健康のつどいに改名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関するアンケート実施</li> <li>・母子保健計画策定</li> <li>・精神保健法の一部を改正する法律公布</li> <li>・健康まつりを「ふれあいまつり」に統合</li> <li>・管内栄養士会設立(1月)</li> <li>・老人保健施設「さくら荘」開設</li> <li>・保健センター内に健康課新設</li> <li>・(仮称)健康文化センター基本設計、実施設計</li> <li>・公衆衛生審議会で「生活習慣病」の概念を提言</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パパママ教室開始(年2回)</li> <li>・子育てサークル支援</li> <li>・3歳児健康診査、妊婦・乳児健康診査等、県より委譲される</li> <li>・歯科健診の対象者を2歳、2歳6か月児とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキング教室中止</li> <li>・ステップアップ教室開始</li> <li>・生命の貯蓄体操前期のみで終了</li> <li>・後期より太極拳教室開始</li> <li>・基本健康診査実施要領改正によりヘモグロビンA1c加わる(平成5年より町は実施)</li> <li>・町民歩け歩け大会開始(生涯学習課)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健法全面施行(4月)</li> <li>・母子保健法全面施行(4月)</li> <li>・保健サービス評価事業開始</li> <li>・地域福祉サービスセンター開設(4月1日)</li> <li>・健康推進員要綱改正</li> <li>・(仮称)健康文化センター建設工事着手(6月24日)</li> <li>・臓器の移植に関する法律施行(10月)</li> <li>・介護保険法制定(12月)</li> <li>・予防接種電算化</li> </ul>

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大口町健康文化センター竣工記念「ウォーキング大会」開催 (11月8日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大口町が医師会関係を取りまとめる (4月から)</li> <li>・栄養士1名採用 (4月)</li> <li>・訪問看護ステーション開設の準備、看護婦1名採用 (4月)</li> <li>・介護保険モデル事業実施</li> <li>・大口町介護保険事業計画及び新高齢者保健福祉計画策定のための町民意識調査実施</li> <li>・大口町健康文化センター竣工 (9月24日)</li> <li>・大口町健康文化センターの1・2階部分に保健センター移転 (11月9日)</li> <li>・保健センター内に機能訓練室、栄養実習室等整備される</li> <li>・がん検診に係る経費が一般財源化される</li> <li>・精神保健福祉法施行</li> </ul>
平成 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがき教室時母親に対しても染め出しブラッシング指導開始</li> <li>・子育て情報コーナー設置</li> <li>・乳幼児の救急蘇生と応急処置の講習会開始</li> <li>・離乳食教室(前期)を隔月実施に増設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわり教室を半日とし、毎週実施</li> <li>・健康情報コーナー設置</li> <li>・健康手帳発行を老人医療窓口の一部移管する</li> <li>・介護保険認定調査訪問開始 (10月)</li> <li>・基本健康診査の広域化(扶桑大口医療機関)</li> <li>・機能訓練自主活動発足を支援</li> <li>・地域リハビリ教室実施に向けて、ボランティアの研修会を実施</li> <li>・ひまわり教室(A型機能訓練)廃止 (3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健婦1名採用 (4月)</li> <li>・「精神薄弱」の用語が「知的障害」に改められる (4月)</li> <li>・訪問看護ステーション開設(4月)</li> <li>・伝染病予防法廃止 (4月)</li> <li>・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行 (4月)</li> <li>・西児童センター開設 (5月)</li> <li>・大口町障害者福祉計画実施</li> <li>・男女共同参画社会基本法公布 (6月)</li> <li>・結核非常事態宣言 (7月)</li> <li>・精神保健福祉法 一部改正</li> <li>・大口町新高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定(3月)</li> <li>・愛知県市町村保健行政栄養士連絡協議会設立 (3月)</li> </ul>

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
1 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレッシュママの会を母親教室時に開催(4月から)</li> <li>・児童センターでの赤ちゃん広場支援開始</li> <li>・乳幼児健診(4か月・9か月・1歳6か月)時の集団指導をグループ指導に変更</li> <li>・1歳6か月児健診時、歯の染め出し開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひだまりの会(B型機能訓練)を大屋敷学共にて開始</li> <li>・ひまわり教室(A型機能訓練)自主活動開始</li> <li>・成人歯科相談の名称を大人のための歯みがき教室と改める(後半)</li> <li>・介護者の健康実態調査実施</li> <li>・2か所目のB型機能訓練実施に向けボランティア研修会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センター事務室に他課(地域振興課)入る(4月)</li> <li>・介護保険スタート(4月)</li> <li>・地方分権一括法(4月)</li> <li>・21世紀における国民健康づくり運動「健康日本21」がスタートし2010年度をめぐりとした目標値を定めた</li> <li>・県が「健康日本21あいち」を策定(3月)</li> <li>・児童虐待の防止等に関する法律の施行(11月)</li> </ul>
平成 1 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はみがき教室廃止</li> <li>・母子保健計画策定のための「子育てに関するアンケート」実施</li> <li>・貧血予防セミナー開始</li> <li>・もぐもぐ教室(後期離乳食教室)開始</li> <li>・小児肥満予防教室開催</li> <li>・歯科健診時の染め出し実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小口地区ひだまりの会開催</li> <li>・介護者の健康実態調査をまとめ、介護保険説明会時、地区にて報告また、愛知県公衆衛生研究会にて発表</li> <li>・高齢者(65歳以上)のインフルエンザワクチン接種開始</li> <li>・ステップアップ糖尿病教室のまとめを県で発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センター事務室に地域振興課と入れ替えに福祉課が入る(4月)</li> <li>・国保人間ドック時に脳ドックを導入</li> <li>・総合健康指導事業と高齢者健康指導事業(国保補助事業)を実施し、健康に関する実態調査、健康教育を実施(13年、14年度)</li> <li>・大口町在宅医療等推進支援情報提供システム等、介護保険支援訪問事業実施</li> <li>・保健師2名産休(11月～)</li> <li>・保助看法の一部改正に伴い、保健師、助産師、看護師となる(3月1日)</li> <li>・大口町母子保健計画(見直し)策定(3月)</li> <li>・予防接種法の一部改正があり、二類疾病としてインフルエンザが追加される(11月7日)</li> <li>・健康推進員OB「ほほえみ会」3部会(ウォーキング、食、劇)となる</li> </ul>

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
1 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健推進連絡会議開催</li> <li>・貧血セミナー廃止</li> <li>・母親教室第4回(こパパママ教室を組み込む(年3回→年6回)</li> <li>・1歳6か月児、3歳児健診時、保育士配置</li> <li>・妊婦・乳児健康診査の県外受診も可とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝炎ウイルス検診を基本健康診査に加える</li> <li>・基本健診の期間変更(8月～10月)となる</li> <li>・福祉講演会・健康まつり時健康劇発表</li> <li>・ひだまりの会やろまい大祭に参加</li> <li>・(仮)健康おおぐち21策定に向けての準備</li> <li>・健診関係の電算化に向けての準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町制40周年</li> <li>・健康文化センターの管理が健康課担当となる</li> <li>・医師会関係事務の担当が犬山市になる(4月から)</li> <li>・栄養士法改正に伴い、管理栄養士・栄養士は別免許となり、管理栄養士が免許制となる(4月)</li> <li>・保健師2名育休(4月～12月)(4月～3月)</li> <li>・健康保険法等の一部を改正する法律施行(10月1日～)に伴い健康手帳の交付についての一部改正</li> <li>・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部改正(4月)</li> </ul>
1 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちゅーりっぷの会開催(月1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかば健康診査開始(20歳～39歳対象)</li> <li>・8020運動歯の健康コンクールに9018表彰を追加</li> <li>・住民検診時の検尿・身長体重計測等廃止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結核予防法施行令の一部改正により、小中学生のツベルクリン反応・BCG接種廃止(4月)</li> <li>・肝炎ウイルス検診等実施要領の一部改正により、HCV抗体検査で中力価及び低力価とされた検体に対してHCV抗原検査等実施となる</li> <li>・健康増進法施行(4月30日)</li> <li>・受動喫煙防止対策について通知(4月30日)</li> <li>・重症急性呼吸器症候群(SARS)、高病原性鳥インフルエンザで対応マニュアル、連絡会議等実施</li> <li>・健康日本21大口町計画策定委員会設置(7月1日～3月31日)</li> <li>・訪問看護ステーション看護師7月退職</li> <li>・次世代育成支援対策推進法(7月)</li> <li>・大口町巡回バス試行開始</li> <li>・大口町庁内グループウェア開始</li> <li>・市町村合併について任意の三市二町合併検討協議会を設置したが解散となる(3月)</li> <li>・第2次障害者福祉計画策定(3月)</li> <li>・「健康おおぐち21」策定(3月)</li> <li>・保健師2名産休育休(4月～3月)(11月～)</li> <li>・管理栄養士産休(3月～)</li> <li>・保健師1名退職(3月)</li> </ul>

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査に対する補助金一般財源化される(4月)</li> <li>・愛知県特定不妊治療費助成事業開始(7月1日)</li> <li>・赤ちゃん訪問を、第1子全員と第2子以降の希望者に実施(11月～)</li> <li>・母子保健システム、予防接種電算化推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団がん検診に、前立腺がん・乳がん(MMGを導入)を実施し、自己負担金を徴収する</li> <li>・住民検診時・わかば健診時に簡易体力測定を実施。まとめを愛知県公衆衛生研究会で発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅当番医制運営補助金一般財源化(4月)</li> <li>・保健師2名・看護師1名採用(4月)</li> <li>・保健師1名嘱託採用(4～3月)(訪問看護ステーション)</li> <li>・保健師1名育休(4月～3月)</li> <li>・管理栄養士1名育休(4月～3月)</li> <li>・愛知県広域災害救急医療情報システムの設置及び運営に関する協定書変更(6月)</li> <li>・児童虐待の防止等に関する法律の一部を改正する法律の施行(10月)</li> <li>・健康おおぐち21「元気体操」作成(2月)</li> <li>・「健康おおぐち21」推進イベント「春だ!笑顔だ!元気まつり」を大口町元気な町づくり事業(協働事業)で実施(3月5日)</li> <li>・健康おおぐち21シンボルマーク公募し決定(3月)</li> <li>・大口町次世代育成支援行動計画を策定(3月)</li> <li>・大口町訪問看護ステーション廃止(3月)</li> <li>・虐待防止連絡会担当者会議開始(3月)</li> <li>・愛知万博「愛・地球博」開催(3月)「おおぐちデイ」(3月28日)</li> </ul>
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健康に関する連絡会開催(月1回)</li> <li>・BCG直接接種となる(4月)</li> <li>・日本脳炎予防接種の積極的接種勧奨を見合わせる(5月)</li> <li>・日本脳炎予防接種第3期接種を廃止(7月)</li> <li>・二種混合予防接種第1期接種を廃止(7月)</li> <li>・ちゅーりっぷの会中止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本健康診査を除く各種検診を有料とする</li> <li>・歯周病予防健診(節目年齢)を医療機関委託で実施(8月～10月)</li> <li>・わかば健診時歯科健診実施</li> <li>・8020運動表彰を「健康ウォーク&amp;元気まつり」時に実施</li> <li>・介護予防教室(しなやかお達者教室)をあいち健康プラザとタイアップで実施</li> <li>・大屋敷ひだまりの会休止(3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法施行(4月)</li> <li>・発達障害支援法施行(4月)</li> <li>・医療観察法施行(7月)</li> <li>・健康おおぐち21推進イベントとウォーキング大会を1本化し協働事業で実施</li> <li>・健康おおぐち21シンボルマーク愛称公募し決定(11月)</li> <li>・第6次大口町総計画策定(3月)</li> <li>・保健師1名退職(3月)</li> <li>・大口町母子通園事業試行(4月～3月)</li> <li>・在宅介護支援センター廃止(3月)</li> <li>・看護師1名育休(1月～3月)</li> </ul>

区分 年度	保 健 衛 生 行 政		法・その他
	母 子 保 健	成 人 保 健	
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・麻しん風しん混合ワクチン接種施行（4月）</li> <li>・個別予防接種が二市二町共通要領にて実施となる（4月）</li> <li>・麻しん及び風しんの単抗原ワクチンも法定内接種となる（6月）</li> <li>・パパママ教室を育児編・栄養編として実施（年6回）</li> <li>・たんぼぼ教室を月2回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室（しなやかお達者教室）を豊田地区で実施</li> <li>・男性のための健康づくり教室</li> <li>・元気UPヘルシーライフ教室実施</li> <li>・住民結核検診の対象が40歳以上となる</li> <li>・ひだまりの会（中小口）の健康チェックをハートフルへ委託</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターを町直営で開始（保健師1名福祉課へ異動）</li> <li>・看護師1名育休（4月～3月）</li> <li>・管理栄養士1名育休（9月～3月）</li> <li>・改正介護保険法の施行</li> <li>・がん対策基本法の制定（6月）（施行は19年4月）</li> <li>・障害者自立支援法の施行（4月）</li> <li>・健康保険法等の一部改正法（医療制度改革関連法）制定・公布（7月）</li> <li>・歯科衛生士（臨時）1名常勤採用（4月）</li> <li>・母子通園事業本格実施</li> </ul>

## 2 母子保健活動

## 1 母子保健事業の取り組み

母子保健事業は、妊娠・出産・育児を通して母性や父性が育まれ、乳幼児が愛され、かつ心身ともに健やかに育つことを目指している。

平成18年度は①健診後のフォロー体制の整備・充実 ②乳幼児期の「基本的生活習慣の確立」に向けての啓発を重点課題に取り組んだ。

軽度発達障害のスクリーニングの機会となる乳幼児健診では、今年度問診票の見直しを図った。事後教室については発達に心配のある子どものスクリーニングの場として位置づけをし、教室参加後に必要な支援につながるよう相談体制を整え、継続的な支援体制をこども課、関係部署と共に進めてきた。

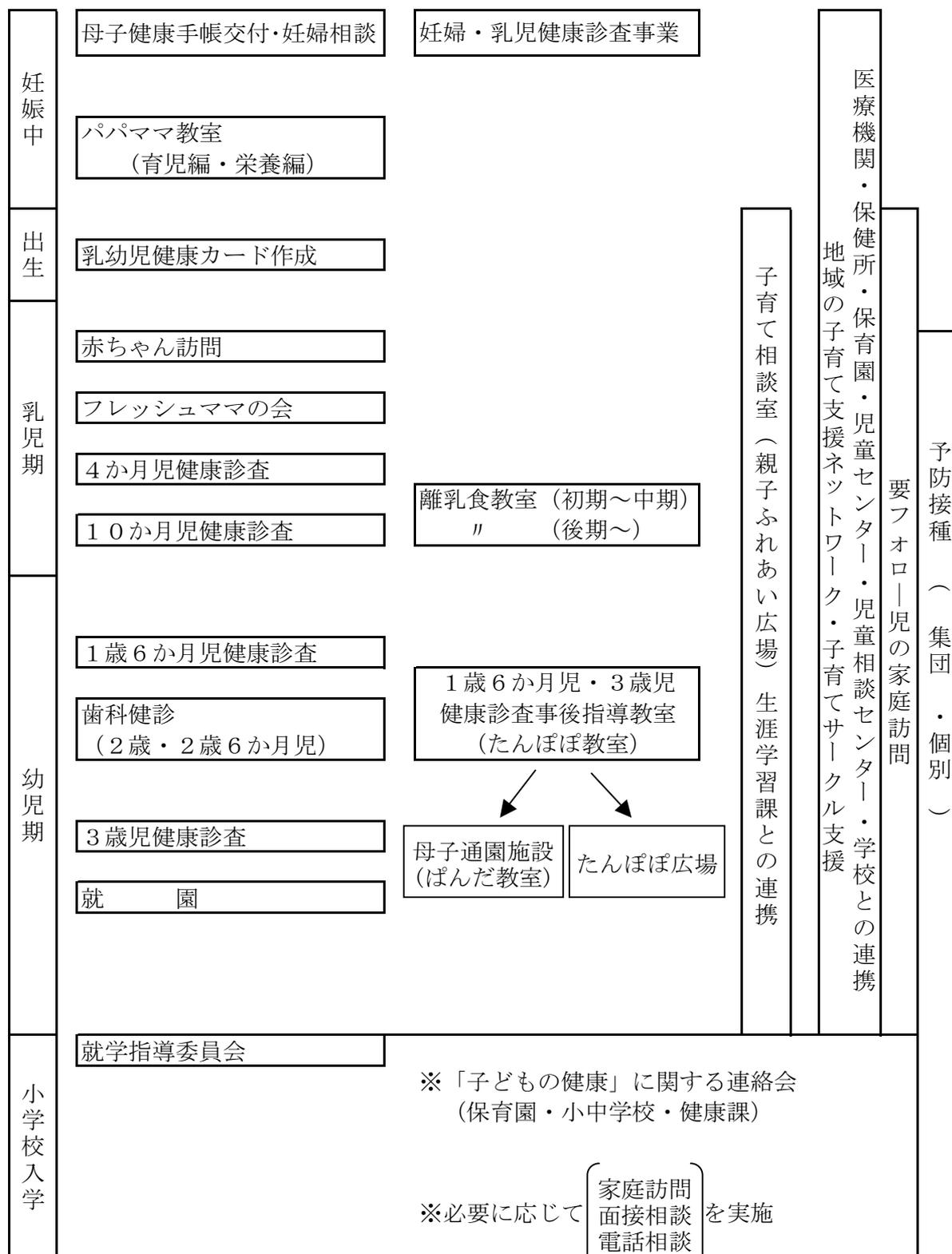
「子どもの健康を考える連絡会」の場で、大口町の子ども達の現状を話し合う中、夜更かしの状況は大口町の子どもも例外ではなく、基本的生活習慣は幼少期からの積み重ねによる影響が大きいことから、子どもの健やかな成長に欠かせない睡眠を取り上げ、健康課保育園、小中学校との連携のなか、睡眠調査という統一の取り組みをおこなった。

乳幼児期は、親の生活に子どもを合わせている傾向がある。子どもの成長のためには親が生活リズムを整える大切さに気づき、「子どもの生活リズムは親が意識して整える」ことをポイントに啓発をした。

様々な取り組みの中、子どもを取り巻く体制を整えていくには関係機関が共通認識のもと、連携していくことが不可欠である。今後も話し合いを重ねながらよりよい体制ができるよう取り組んでいきたい。



# 母子保健 管理体系



## 2 母子健康手帳の交付・妊婦相談

### (1) 目的

妊婦の健康を守り健全な児を生ま育てることができるよう保健指導する。

### (2) 対象

妊婦

### (3) 日時

第1・3月曜日 午前10時～ ・ 随時（希望により）

### (4) 内容

ア 母子健康手帳の交付及び活用方法の説明

イ 保健センターの行事内容説明と案内

### (5) 妊娠届出状況

ア 届出時の妊娠週数

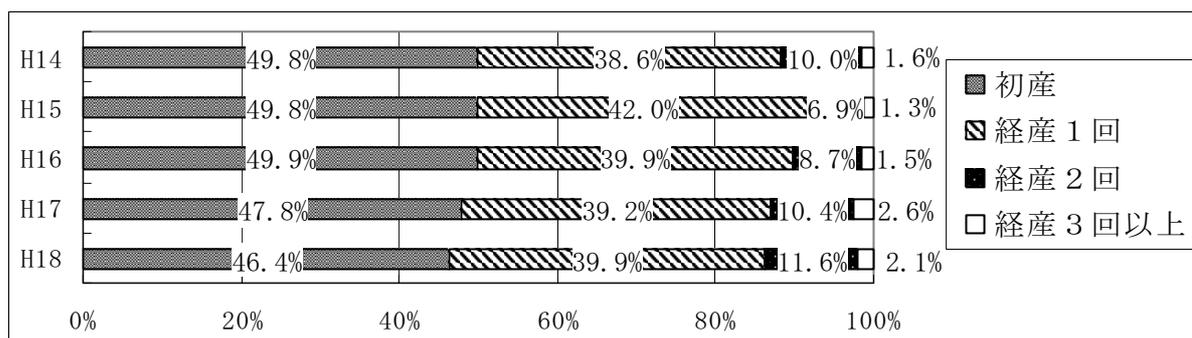
(単位:上段・人 下段・%)

区分 年度	総数	妊 娠 週 数					就業	喫煙	飲酒	年齢	
		11週以内	12～21週	21～27週	28週以降	不詳				20歳未満	40歳以上
14	251 (100.0)	82 (32.7)	162 (64.5)	4 (1.6)	2 (0.8)	1 (0.4)					
15	233 (100.0)	72 (30.9)	157 (67.4)	3 (1.3)	1 (0.4)	0 (0.0)	85 (36.5)	5 (2.1)		5 (2.1)	5 (2.1)
16	263 (100.0)	79 (30.0)	177 (67.3)	3 (1.2)	4 (1.5)	0 (0.0)	97 (36.9)	9 (3.4)		2 (0.8)	1 (0.4)
17	268 (100.0)	98 (36.6)	166 (62.0)	2 (0.7)	2 (0.7)	0 (0.0)	100 (37.3)	9 (3.4)		2 (0.7)	6 (2.2)

区分 年度	総数	妊 娠 週 数					就業	喫煙	飲酒	年齢	
		11週以内	12～19週	19～27週	28週以降	不詳				20歳未満	40歳以上
18	233 (100.0)	81 (34.8)	148 (63.5)	4 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	95 (40.8)	8 (3.4)	1 (0.4)	1 (0.4)	15 (6.4)

※母子手帳発行時のアンケートにおいて「喫煙していたがやめた」と答えた妊婦は35名、「飲酒していたがやめた」と答えた妊婦は52名いた。

### イ 年次別経産・初産の割合



### 3 妊婦・乳児健康診査

#### (1) 目的

妊婦・乳児に対し異常を早期に発見し適切に対処することで妊娠の正常な経過や安全な分娩、乳児の個々にあった発達を支援する。

#### (2) 対象

妊婦および乳児（平成18年4月～平成19年3月受診者）

#### (3) 内容

母子健康手帳発行時に、妊婦健康診査受診票2枚（第1回・第2回）、乳児健康診査受診票2枚（第1回・第2回）を発行し、医療機関委託で実施している。

平成14年度より県外受診も補助対象にした。

#### (4) 結果

##### ア 妊婦健康診査受診結果

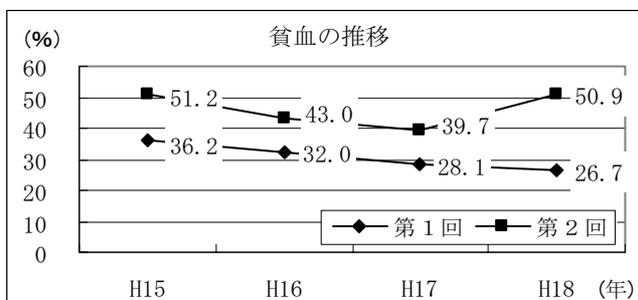
（単位：人・％）

	受診票 交付数 ※1	受診 人員 ※1	受診率	受 診 結 果					
				異常なし	所見あり（延件数）				
					高血圧 蛋白尿	尿糖	貧血	HBs抗原 陽性	その他
第1回	241(7)	225(4)	93.4	159	2	0	60	3	1
第2回	254(9)	232(9)	91.3	111	0	2	118		1
計	495(16)	457(13)	92.3	270	2	2	178	3	2

※1（ ）内は県外受診の再掲

##### 所見あり基準

高血圧：140/90mmHg  
 貧血：11.0g/dl未満  
 尿蛋白：++以上  
 尿糖：++以上



##### イ 乳児健康診査受診結果

（単位：人・％）

	受診票 交付数 ※1	受診人員 ※1	受診率	受診結果	
				異常なし	所見あり (延件数)
第1回	263(16)	251(17)	95.4	248	3*①
第2回	280(3)	176(2)	62.9	171	5*②
計	543(19)	427(19)	78.6	419	8

※1（ ）内は県外受診者の再掲

\*①左移動精巣1、右陰のう水腫1、両側口唇口蓋裂1

\*②湿疹2、停留精巣1、体重停滞1、下痢1

## 4 パパママ教室

### (1) 目的

- ア 子供を産み育てることを夫婦のこととして捉え、妊娠期から夫婦が互いに尊重しあい、コミュニケーションを図りながら親となる心構えを育む。
- イ 妊娠をきっかけに、家族の食生活を振り返り、貧血予防を始め、胎児や家族の健康の基盤である食生活について学ぶ。
- ウ 地域の中ですべてに子育てしていく仲間と交流を持つ。

### (2) 対象

妊婦及びその夫

### (3) 日時

- 栄養編 奇数月第4金曜日 午前9時30分～11時45分
- 育児編 偶数月第4金曜日 午後1時30分～4時
- (育児編 年2回 土曜開催 午前9時30分～12時)

### (4) 内容及び従事者

	内 容	従事者	実施回数
栄養編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活チェック</li> <li>・妊娠中の栄養</li> <li>・調理実習 ～バー入りトト煮込みのハンバーグ～</li> <li>・試食</li> </ul>	管理栄養士 在宅栄養士 保健師	6回
育児編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師からのメッセージ</li> <li>・リラックス法</li> <li>・実習 赤ちゃんのお風呂</li> <li>・先輩ママと生後1～3か月児との交流会</li> <li>・妊婦疑似体験（妊婦シミュレーター使用）</li> <li>・ビデオ『お父さんへ～赤ちゃんからのメッセージ～』</li> </ul>	助産師 保健師	6回

### (5) パパママ教室参加状況

(単位：人・%)

年度	対象者	栄養編			育児編		
		妊婦 参加数	妊婦 参加率	父親 参加数	妊婦 参加数	妊婦 参加率	父親 参加数
16	263 (131)	/			43 (39)	16.3 (29.8)	22
17	268 (128)				48 (39)	17.9 (36.1)	16
18	233 (108)	37 (21)	15.9 (19.4)	3	48 (39)	20.6 (36.1)	31

※参加数の（ ）内は初産婦を再掲

## (6) 栄養編

### ア 食生活チェックの結果

食事のバランスが偏っている人が参加者の86.8%であった。なかでも野菜の摂取量が少なく、1食のうちで野菜不足または全く摂取していない人が89.4%であった。自分の食生活を見直すことにより、何が不足しているか、何が過剰かということを知ることができ、今後の自分、家族、生まれてくる子どもの食生活について見つめ直す機会となった。

### イ 参加者の感想

- ・野菜が摂れていないので話を聞いて摂ろうかと思いました。
- ・子どもの栄養がしっかり摂れていなくて反省した……。これからは野菜をたくさん摂ろうと思う。
- ・食べる量や間食に気をつけようと思いました。普段、昼間ずっと一人なので今日は楽しかったです。
- ・苦手なレバーでしたが、今回は調理することで食べることができたので、ぜひ家でもやってみたいです。
- ・ただ単に食べる量を減らせばよいということではないんだなと思った。これからはバランスを考えて摂りたいと思いました。
- ・夫と参加して、とても今後の参考になったと思います。楽しく食生活を送りたいと思います。
- ・実習があることは、説明だけよりわかりやすく、より実際にやってみようと思えたのでよかったです。



## (7) 育児編

### ア 父親の参加動機の内訳

すすんで参加した	15人
あまりその気はなかったが、ママに誘われ参加した	13人
ママに誘われたので仕方なく参加した	3人

### イ 参加者の感想（父親・母親）

#### 〈母の感想〉

- ・お腹にいるときから子育てが始まっていると実感しました
- ・早く赤ちゃんの顔がみたくなった
- ・赤ちゃんをお風呂に入れるのは大変だけど慣れるまで頑張ります
- ・赤ちゃんが抱けたり、先輩ママの妊娠中からの話が聞けて参考になった
- ・無事に産んで早く今日の先輩ママのようになりたいと思いました。

#### 〈父の感想〉

- ・今日からいっぱい話しかけたい
- ・産まれる前からのコミュニケーションが大事だと思った
- ・父親の必要性がわかりました
- ・大変そうだけど毎日お風呂に入りたい
- ・育児になるべく協力したい
- ・赤ちゃんが可愛かった
- ・妊婦体験をして、日常生活が大変だと思った
- ・一人目を大事にしつつ、生まれてくる二人目も大事にしたい

## 5 フレッシュママの会

### (1) 目的

出産をして間もない時期は、外出する機会も少なく、母親が1人で育児の悩みを抱えやすい。同じ立場の母親たちと集うことにより、母親同士が共感し前向きに育児に取り組めるよう支援する。

### (2) 対象

生後1～3か月頃の乳児と母親

### (3) 日時

偶数月第4金曜日 午後2時～3時30分（パパママ教室と一部同時開催）

### (4) 内容及び従事者

内 容	従事者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・座談会</li> <li>・予防接種の説明</li> <li>・赤ちゃんの計測（希望者）</li> <li>・ベビーマッサージ</li> <li>・妊婦さんとの交流</li> </ul>	保健師 助産師



### (5) 参加状況

年度	実施回数	参加者数（初産）
16	6	78組
17	6	68組（55組）
18	6	71組（52組）

## 6 低体重児の状況

（単位：人・％）

分類 年度	出生 児数	低体重児 出生数	率	1,300g 未満	1,300～ 1,499g	1,500～ 1,799g	1,800～ 1,999g	2,000～ 2,299g	2,300～ 2,499g
14	279	30	10.8	—	2	2	2	11	13
15	253	28	11.1	1	1	0	6	6	14
16	250	22	8.8	3	0	0	0	4	15
17	229	29	12.7	1	2	0	1	9	16
18	254	21	8.3	1	0	0	3	5	12
愛知県 (H17)	67,110	6,626	9.9	362	159	368	502	1,875	3,360

※2,000g以上の低体重児は町の保健師が訪問している。

## 7 乳幼児健康診査

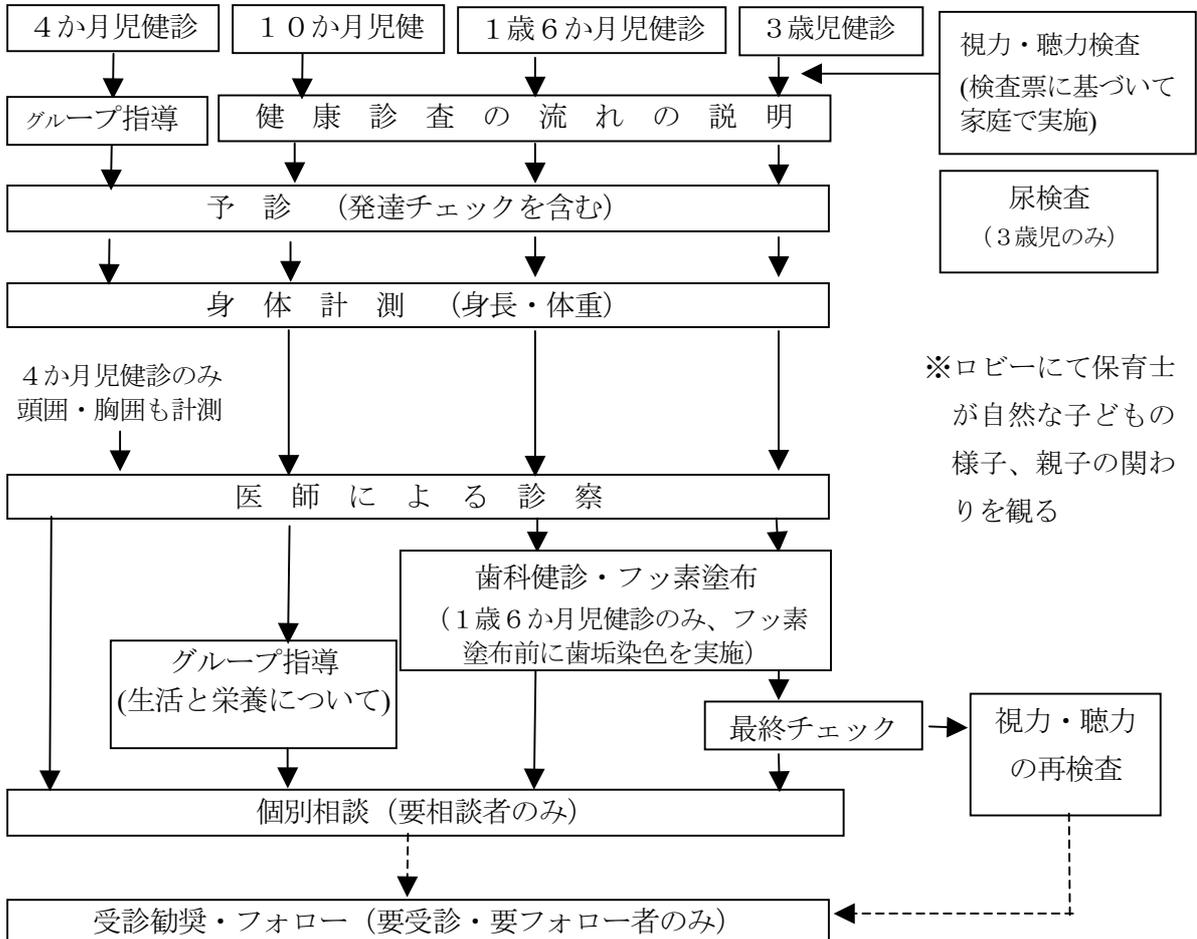
### (1) 目的

乳幼児期の大切な節目である時期に、発育発達状況を確認することで、疾病や心身障害の早期発見に努める。また、個々の成長、育児に合わせた保健指導を行い、子育てを支援する。

### (2) 対象・日時・従事者等

事業名	対象児	実施日	従事者	個人通知
4か月児健康診査	4か月児	毎月第4水曜日	医師・保健師・看護師 管理栄養士・歯科衛生士 事務	有
10か月児健康診査	10か月児	毎月第2火曜日	医師・保健師・看護師 管理栄養士・歯科衛生士 事務	平成18年 度より実施
1歳6か月児健康診査	1歳6か月児	毎月第3火曜日	医師・歯科医師・歯科衛生士 保健師・看護師・管理栄養士 心理相談員・保育士・事務	有
3歳児健康診査	3歳児	毎月第1水曜日	医師・歯科医師・歯科衛生士 保健師・管理栄養士 看護師・保育士・心理相談員 事務	有

### (3) 内容



(4) 実施状況

ア 4か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
14	13	287	274	95.5	190	44	31	15			
15	12	249	245	98.4	174	45	24	18			
16	12	245	238	97.1	177	31	22	11	3	3	0
17	12	230	227	98.7	155	13	40	11	8	11	0
18	12	254	246	96.9	186	9	43	15	4	0	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位4項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
運動・感覚器発達異常	11	6	5	1	10	0	0	0
体重増加不良	11	1	10	1	10	0	0	0
湿疹・皮膚炎	7	4	3	3	2	0	0	2
開排制限	7	2	5	0	0	4	0	3

◆保育・家庭環境分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	2	0	2	2	0	0
睡眠	1	0	1	1	0	0
哺乳	1	0	1	1	0	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類(降順) ※平成17年7月～平成18年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	56	41	15	4	11	35	8	2
聴力障害(疑)	14	14	0	0	0	11	1	2
運動・感覚器発達異常	11	11	0	0	0	11	0	0
体重増加不良	8	8	0	0	0	3	5	0
開排制限	4	0	4	2	1	3	0	0
その他の疾患	19	8	11	2	10	7	2	0

◆保育・家庭環境分類(降順) ※平成17年7月～平成18年6月受診者

(単位：人)

保育環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要措置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	11	11	0	0	6	3	2
育児能力	6	6	0	0	5	1	0
家庭環境	4	4	0	0	0	2	2

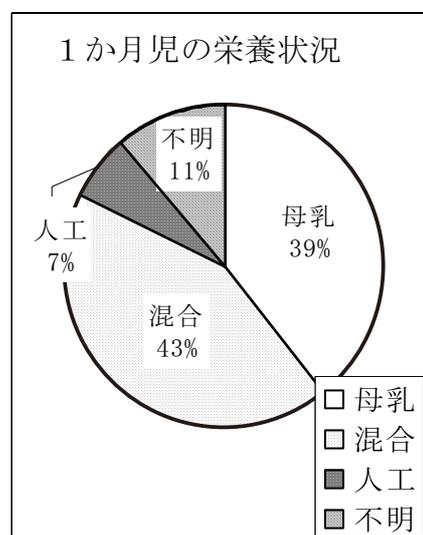
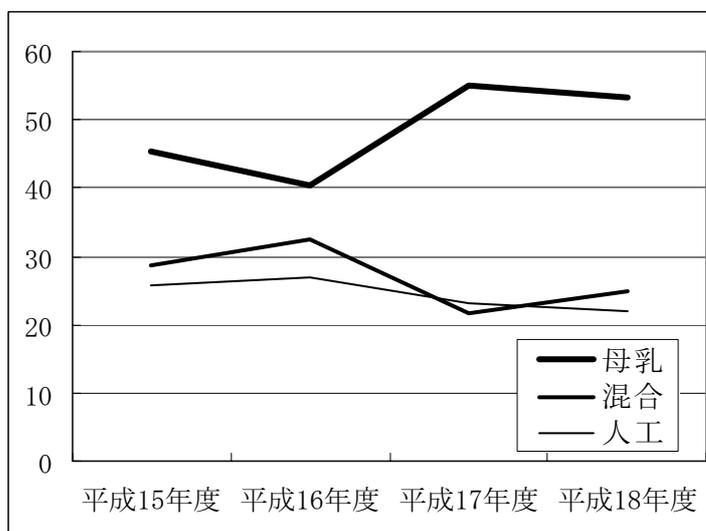
(エ) 4か月児の栄養状況

(単位：上段・人 下段・%)

年度・出生		栄養方法	合計	母乳	混合	人工
15 年 度	第1子		117 (100.0)	46 (39.3)	40 (34.2)	31 (26.5)
	第2子以降		123 (100.0)	63 (51.2)	29 (23.6)	31 (25.2)
	合計		240 (100.0)	109 (45.4)	69 (28.8)	62 (25.8)
16 年 度	第1子		130 (100.0)	48 (36.9)	49 (37.7)	33 (25.4)
	第2子以降		107 (100.0)	48 (44.9)	28 (26.2)	31 (28.9)
	合計		237 (100.0)	96 (40.5)	77 (32.5)	64 (27.0)
17 年 度	第1子		107 (100.0)	60 (56.1)	30 (28.0)	17 (15.9)
	第2子以降		109 (100.0)	59 (54.1)	17 (15.6)	33 (30.3)
	合計		216 (100.0)	119 (55.1)	47 (21.8)	50 (23.1)
18 年 度	第1子		124 (100.0)	63 (50.8)	30 (24.2)	31 (25.0)
	第2子以降		122 (100.0)	68 (55.7)	31 (25.4)	23 (18.9)
	合計		246 (100.0)	131 (53.2)	61 (24.8)	54 (22.0)

※対象者は、4月から翌年3月までの4か月児健康診査受診者

(オ) 栄養方法の年次推移



イ 10か月児健康診査

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
14	12	255	233	91.4	178	25	24	14			
15	13	266	233	87.6	178	30	24	8			
16	12	255	223	87.5	161	17	19	11	12	9	0
17	12	232	202	87.1	156	8	11	10	22	7	0
18	12	239	230	96.2	173	5	28	15	16	4	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

ウ 1歳6か月児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果

(単位：回・人・%)

区分 年度	実施 回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
14	12	261	253	96.9	176	20	61	17			
15	13	273	266	97.4	174	51	42	18			
16	12	246	240	97.6	146	28	52	14	6	15	0
17	12	238	231	97.1	123	17	78	15	10	14	0
18	12	212	206	97.2	97	5	90	12	14	13	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
言語発達	45	29	16	0	45	0	0	0
精神発達	25	16	9	0	25	0	0	0
運動・感覚器発達異常	6	2	4	1	3	0	0	2

◆保育・家庭環境分類(上位3項目)

(単位：人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
食事・おやつ	9	4	5	9	0	0
情緒・行動	7	5	2	1	6	0
離乳	4	3	1	2	2	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類(降順) ※平成17年7月～平成18年6月受診者

(単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	86	77	9	1	8	9	62	7
言語発達	56	56	0	0	0	6	47	3
精神発達	10	10	0	0	0	0	8	2
運動・感覚器発達異常	5	4	1	0	0	1	3	1
その他の疾患	15	7	8	1	8	2	4	1

◆保育・家庭環境分類（降順） ※平成17年7月～平成18年6月受診者 (単位：人)

保育・家庭環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要借置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	14	14	0	0	6	3	5
育児能力	6	6	0	0	4	0	2
離乳	3	3	0	0	1	0	2
情緒・行動	3	3	0	0	0	2	1

エ 3歳児健康診査

(ア) 受診状況・受診結果 (単位：回・人・%)

区分 年度	実施回数	対象児数	受診状況		健診結果				保育・家庭環境分類		
			受診者数	受診率	問題なし	要指導	要観察	要医療 要精検 要継続医療	要指導	要観察	要措置 要管理
14	12	268	249	92.9	146	20	68	29			
15	12	252	250	99.2	164	29	53	26			
16	12	242	231	95.5	135	16	59	62	6	8	0
17	13	247	238	96.4	141	7	77	44	7	11	0
18	12	244	236	96.7	128	9	106	41	7	7	0

※要指導・要観察・要医療・要措置・要管理等は延べ人数

(イ) 受診結果分類

◆疾病分類(上位4項目) (単位：人)

	合計	男	女	健診結果				
				要指導	要観察	要精検	要医療	要継続医療
精神発達	47	38	9	1	45	0	0	1
眼科検査未実施	38	27	11	0	37	1	0	0
視力障害・斜視(疑)	22	12	10	1	0	19	0	2
言語発達	17	11	6	2	15	0	0	0
聴覚障害(疑)	9	6	3	0	0	9	0	0

◆保育・家庭環境分類(上位2項目) (単位：人)

	合計	男	女	要指導	要観察	要措置
育児能力	6	4	2	3	3	0
食事・おやつ	4	2	2	3	1	0

(ウ) 追跡結果分類

◆疾病分類(降順) ※平成17年7月～平成18年6月受診者 (単位：人)

疾病分類	追跡対象			精密検査 実施数	追跡結果			
	計	要観察	要精検 要医療		異常あり	異常なし	保留	その他
総数	126	77	49	37	20	40	47	19
眼科検査未実施	35	35	0	2	1	11	14	9
視力障害・斜視(疑)	21	1	20	14	2	8	8	3
言語発達	18	18	0	0	1	2	13	2
聴覚障害(疑)	15	0	15	12	2	9	4	0
精神発達	13	13	0	4	7	0	4	2
その他	24	10	14	5	7	10	4	3

◆保育・家庭環境分類（降順） ※平成17年7月～平成18年6月受診者 (単位：人)

保育・家庭環境分類	追跡対象			追跡結果			
	計	要観察	要借置等	問題あり	問題なし	保留	その他
総数	11	11	0	0	5	4	2
育児能力	6	6	0	0	3	2	1
食事・おやつ	2	2	0	0	1	1	0

※平成18年度から10か月児健診においても個人通知を実施したところ、全ての健診において受診率は95%以上となった。その後のフォローについては電話や子育て相談、訪問等にて行っている。

また、健診における要観察の内容の内訳は、乳児期では、体重増加不良や運動発達、湿疹などが多く、幼児期では、精神発達や言語発達が多かった。

1歳6か月児健診終了後、3歳児健診までには間隔があるため、歯科健診（2歳・2歳6か月児対象）時の母子手帳返却時に個別相談を行っている。

健診の機会には子どものみではなく、子育てに主に関わっている母親、それをとりまく背景にも目を向け、支援をしていく姿勢で取り組んでいる。

## 8 子育て相談室

母の育児を認め、個々の発育・発達を確認し、的確な指導が受けられることは、母親にとってひとつの支えとなっている。また、要観察児の経過観察の機会ともなり、母親同士の交流、子どもの遊び場としての利用もできるため、来所者は多い。

### (1) 目的

- ア 親子との交流を通して、不安の軽減や仲間づくりを支援する。
- イ 児の発育・発達を確認する。
- ウ 児の成長発達に合わせた育児を具体的に支援する。
- エ 妊娠中から子どもの姿を見たり、触れたりする機会を持つことで、これからの子育てに向けて心の準備ができる。

### (2) 対象

乳幼児とその育児者、妊婦

### (3) 日時

第1・第3木曜日 午前9時30分～11時30分（第3木曜日は予約制）

### (4) 内容

第1木曜日：身体計測（身長・体重）・個別相談

第3木曜日：身体計測（身長・体重）・個別相談・尿検査・視力検査・聴力検査

### (5) 従事者

第1木曜日：保健師・管理栄養士・助産師・歯科衛生士・事務員

第3木曜日：保健師・管理栄養士

(6) 実施状況

ア 来所者数

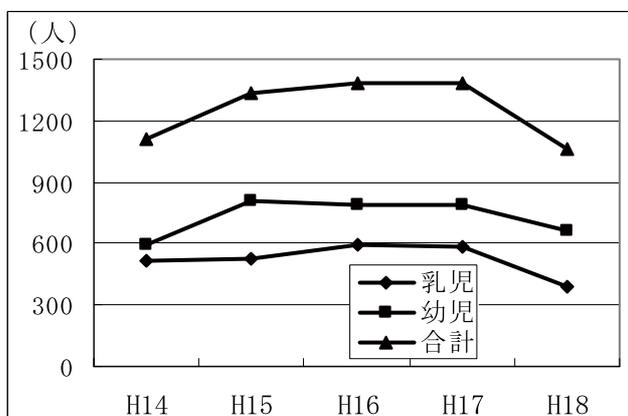
(単位:人)

	延人員	実人員	乳児			幼児			要観察の内容 (再掲)		
			延人員	実人員	要観察児 (再掲)	延人員	実人員	要観察児 (再掲)	身体	精神	育児
第1	950	221	347	100	17	603	121	24	105	110	7
第3	107	51	46	24	8	61	27	16	27	30	6

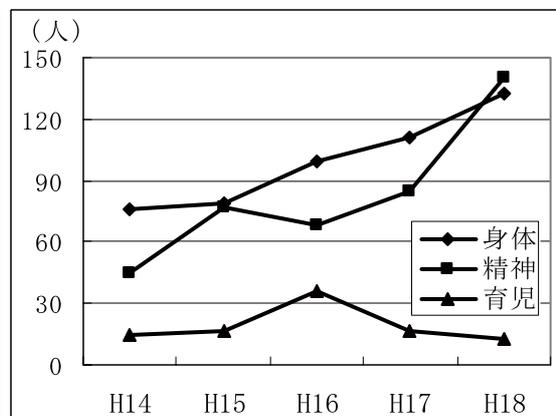
\*延人員には計測のみの人数を含む。また、要観察児の再掲は実人員

\*要観察の内容は延べ件数(重複あり)

イ 相談者の推移 (延べ人数)



ウ 要観察の相談者の推移 (件数)



エ 相談内容

(単位:人)

	乳児	幼児	計
身体 (発達・発育)	78	73	151
栄養 (母乳・離乳食等)	118	62	180
育児・生活	84	111	195
予防接種	10	1	11
その他	10	22	32
計	300	269	569



※今年度、相談体制をさらに充実化させるため、第1木曜日は昨年同様、第3木曜日は予約制にし、個室でゆっくりと相談できるよう体制を整えた。

その結果、来所者の延人員は減少したが、第1木曜日は、一回当たりの来所者数は平均5.7人から平均7.9.2人に増加した。また第3木曜日は、ゆっくりと相談することができ、要観察児の来所者は213件から285件に増加した。

来年度は、要観察児への相談体制をより充実化させるため、各月の第3木曜日(年6回)は、心理相談員による心理相談を実施する。

## 9 家庭訪問

### (1) 赤ちゃん訪問

#### ア 目的

初めての出産・育児で不安や悩みの多い第1子と、第2子以降の希望者に対し、家庭訪問により児と母親の健康状態を確認し、個々に応じた適切な保健指導を行う。

#### イ 対象

第1子（全戸）及び第2子以降の希望者の母親・家族

#### ウ 日時

訪問希望届により随時

#### エ 内容

児の体重計測等発達発育チェック・育児相談・保健指導

#### オ 従事者

保健師・在宅助産師

#### カ 訪問状況

(単位：人)

	訪問件数		内訳		
	保健師	助産師	新生児	未熟児	その他
第1子	67	45	13	9	90
第2子以降	43	26	12	4	53
産婦	109	71			
計	111	71	25	13	143

\* 双胎1件

\* 新生児・未熟児の重複1件

### (2) 要観察児等訪問

#### ア 目的

若年、妊娠中毒症などのハイリスク妊婦、発達・発育に問題のある乳幼児、育児不安や家庭環境に問題のある母子等、健診未受診者に対し、家庭にあったきめ細やかな保健指導を行い、安心して育児ができるよう支援する。

#### イ 対象

ハイリスク妊婦

要観察児と家族、健診未受診者

#### ウ 日時

随時

#### エ 内容

児の体重計測等発達発育チェック

育児相談・保健指導

#### オ 従事者

保健師

#### カ 訪問状況

(単位：人)

	実人員	延人員
妊婦	0	0
乳児	0	0
幼児	28	34
計	28	34

## 10 たんぽぽ教室

### (1) 目的

ア 1歳6か月・3歳児健診の事後指導の一環として、親子で集団の場を体験しながら、子どもに合わせた関わりを学び、考えていくことでよりよい発達を促す。

イ 経過観察していく中で必要に応じ、療育や地域の子育て支援、個別支援へと繋ぐ。

### (2) 対象

ア 健診時に育児及び発達上問題があると思われる、経過観察が必要な児とその母親

イ その他、育児環境等に問題があると思われる児とその母親

### (3) 日時・回数

ア 毎月第2・4木曜日 午前9時15分～正午

午後1時～3時 (スタッフ間でカンファレンス)

イ 回数 3か月(6回) 1クール(必要に応じ2クールまで継続参加も可)

### (4) 内容

時 間	内 容
AM9:15～ 9:45	スタッフ間の事前カンファレンス
9:45～10:25	親子遊び(設定遊び) 手遊び 体操 親子遊びなど
10:25～10:35	トイレ おやつ 排泄、手洗い、あいさつ、後片付けの面で指導
10:35～11:35	母親グループ 話し合い(育児などについて話し合う) 子どもグループ 集団遊び(他児やスタッフとの関わり合い、自由遊び)
11:35～11:45	担当者と母親との話し合い 母子分離している間の児の様子について

※ 随時個別面接(心理判定員、家庭児童相談員) 18年度は44名面接

### (5) 従事者

(うち、受診中または受診勧奨者21名)

言語聴覚士(月1回)・心理相談員(月1回)・保健師・保育士・一宮児童相談センター(心理判定員(年3回))、家庭児童相談員(年4回)

### (6) 実施状況

(単位:人)

項目 年度	実施 回数	対象児数	参加親子組数 (延べ)	平均参加組数
15	12	20(12)	122	10.2
16	12	21(11)	139	11.6
17	12	25(19)	90	7.5
18	24	49(29)	339	14.1

参加者の年齢の内訳

生まれ月	人数
H15.4～H16.3	29
H16.4～H17.3	19
H17.4～H18.3	1

( ) は新規対象児の再掲

### (7) 参加者の状況

(単位:人)

精神発達の問題	精神発達・運動発達両方の問題	診断名がついている児(再掲)
48	1	1

### (8) 参加者のその後の状況

(単位:人)

母子通園施設	たんぽぽ広場	卒業	転出	継続
14	23	4	1	7

たんぽぽ教室3回目と6回目終了後に個別相談を行い、母子に応じた関わり方の支援を心がけた。また、母子通園施設への見学同行など継続フォローに努めることができた。

## 1 1 離乳食教室

### (1) らくらく離乳食教室（離乳食初期・中期）

#### ア 目的

離乳食の準備期から中期の意義について正しく理解し、一生のうちで離乳食期が食習慣の形成に大切な時期であることを認識する。

#### イ 対象

離乳食準備期から中期の乳児とその保護者

#### ウ 日時

奇数月 第3水曜日 午前10時～11時30分

#### エ 場所

保健センター1階 栄養実習室・栄養指導室

#### オ 内容

- ・離乳食初期～中期頃についての講話
- ・離乳食のデモンストレーションとその試食
- ・個別相談（希望者）

#### カ 従事者

管理栄養士 保健師

#### キ 参加状況

##### (ア) 参加延べ人数及び月齢別人数

年度	項目	実施回数	参加延人数	5か月未満児	5・6か月児	7か月以上児
17		6回	81人 (平均13.5人)	35人 (43.2%)	45人 (55.6%)	1人 (1.2%)
18		6回	99人 (平均16.5人)	45人 (45.5%)	53人 (53.5%)	1人 (1%)

##### (イ) 参加者出生順位別人数

年度	項目	第1子	第2子
17		73人	8人
18		82人	17人

##### (ウ) 個別相談実施人数

29人

\* 5か月未満児で、離乳食開始前の乳児の参加が多く、教室を受講後に離乳食を始めようと考えている親の参加が多かった。

デモンストレーションでは、家族全体の食を捉えて離乳食の初期段階でもできる取り分け方を中心に実施し、主に旬の野菜を用いて食品の進め方を啓発し好評を得ている。試食では、未開始の児も多いことから親自身に試食を呼びかけ、舌触りや素材の味を体験してもらっている。野菜そのものやだし汁の味を味わいながら、親自身の食生活の乱れや野菜不足についても気づいてもらうことができた。

個別相談の内容は、スプーンでの与え方や離乳食初期の食品の扱い方の質問が多い。また、ベビーフードを利用する保護者もあり、口腔の発達に合わせた離乳食を進める必要性を正しく認識できるよう進めていきたい。

## (2) もぐもぐ教室（離乳食後期）

### ア 目的

生活を営むうえで基本となる食事も、離乳食の量・回数がともに増え、ますます親の食事が基本となるこの時期に、離乳食だけではなく、家族の食事としての充実を図る。また、咀嚼の促しや歯の萌出に合わせた離乳食の形態について具体的に指導する。

### イ 対象

離乳食後期以降の乳児とその保護者

### ウ 日時

偶数月 第3水曜日 午前9時30分～11時30分

### エ 場所

保健センター1階 栄養実習室・栄養指導室

### オ 内容

- ・離乳食後期以降の進め方についての講話
- ・実習（親の食事からの取り分け食）とその試食
- ・個別相談（希望者）

### カ 従事者

管理栄養士 保健師

### キ 参加状況

#### (ア) 参加延べ人数及び月齢別人数

実施回数	参加延人数	9か月未満児	9・10か月児	11か月以上児
6回	52人 (平均8.7人)	18人 (34.6%)	33人 (63.5%)	1人 (1.9%)

#### (イ) 参加者出生順位別人数

第1子	49人
第2子	3人

#### (ウ) 個別相談実施人数

27人

※ 今年度から定期（隔月年6回）の開催とし、対象者を9か月以降の児としたため離乳食の進み具合をまとめることができ、参加者同士がお互いの質問等も参考になったようである。参加者からは実習・試食をして普段の食事の味つけや形態が児にあっていなかった等、気づくことができたという声が多かった。また、離乳食が進まない児では、生活リズムが整っていなかったり、まだ授乳時間が一定でなかったりする児が目立ち、親自身の生活リズムが不規則であり、食生活の乱れが根底にあるように感じた。

個別相談では、実際に試食する児の様子を観察しながら、咀嚼の促しや離乳食の形態を指導していった。また、摂取する食品の量や種類が多くなっていく頃なので、献立や調理方法などの質問も多かった。

多くの親が様々な不安を抱えながら離乳食を進めていることから、生活リズムを身につけ、食べる楽しさを体験していくことができるよう、一人一人の離乳食の進め方への支援が必要である。

## 1 2 子育て支援

### (1) 育児サークル支援

平成8年度から、子育て相談室と同時開催で始まった「親子ふれあい広場」に来所しているお母さんの中から、地域で子どもを遊ばせる場がほしいという声があり、子育てネットワークや保健師のアドバイスにより子育てサークルが誕生した。

サークル運営等の相談に応じたり、掲示板で活動の紹介、子育てサークルからの要請により支援を行なっている。

#### ア 「リトルベアーズ西・南」への支援状況（平成10年より定期的に支援）

	月 日		参加者 (親子)		内 容 (約1時間)	スタッフ	
	西	南	西	南		西	南
1	6月14日	6月21日	17組	21組	・食中毒の予防・夏の病気・水分の摂り方	保健師 1	保健師 1
2	11月8日	11月15日	14組	10組	・インフルエンザ・おたふく風邪・風邪の予防	保健師 1	保健師 1
3		2月7日		12組	・風邪の時の対処法と予防・事故予防		保健師 1

### (2) 児童センター支援

#### ア 西児童センター赤ちゃん広場時健康教育

月 日	参加者	内 容	スタッフ
5月10日	15組	子どもの事故予防について 災害時の備えについて 事故予防 ・ その他 Q&A	保健師 1
10月25日	15組		保健師 1
1月24日	4組		保健師 1

\*対象は7か月～1歳前の親子。

#### イ 「なかよし」時健康教育

月 日	参加者	内 容	スタッフ
6月6日	10組	元気体操・子宮がん・乳がん（自己検診法）・生活習慣病・検診の啓発・親子でバランスチェック	保健師 1
6月13日	18組		保健師 1
7月4日	23組		保健師 1
10月10日	8組	生活リズムについて	保健師 1
10月17日	5組		保健師 1
10月24日	9組		保健師 1
12月5日	10組	朝ごはんについて 「早起き・早寝・朝ごはん」	栄養士 1・保健師 1
12月12日	2組		栄養士 1・保健師 1
12月19日	24組		栄養士 1・保健師 1
2月6日	6組	幼児期の課題と期待・目指そう8020・歯の健康づくり得点・保護者の方に口腔内観察	歯科衛生士 1・保健師 1
2月13日	4組		歯科衛生士 1・保健師 1
2月27日	13組		歯科衛生士 1・保健師 1

\*対象は、2歳児親子

### (3) たんぽぽ広場

たんぽぽ教室終了後から就園するまでの間の親子のフォローの場として平成18年10月より、南児童センターで月2回実施。

スタッフ：保育士（母子通園施設・児童センター・各園）、心理相談員、保健師

※心理相談員、保健師は全体の見守りと母親フォローのために月1回参加。

月 日	参加者	内 容
10月12日	12組	9時30分～ ・自由遊び
10月26日	10組	10時～11時 ・体操
11月30日	9組	・親子ふれあい遊び
12月14日	10組	・名前呼び
1月25日	12組	・設定遊び
2月15日	8組	・親子で自由遊び ・あいさつ

### (4) 中学生子育て体験

#### ア 目的

(ア) 大口町次世代育成支援行動計画の次代の親を育むための教育事業の一環として実施する

(イ) 子どもたちと触れ合う貴重な体験を通して、自分の成長を振り返り、大切に育ててもらった両親に感謝をし、自分を大切にすることや生命の尊さ、人を思いやる心を養う

#### イ 対象

大口中学校1年生7名（男子生徒1名、女子生徒6名）

#### ウ 日時

平成18年8月21日（月）午前10時～11時30分

#### エ 内容

- ・講話 乳幼児の発達（発達の経過・月齢に合わせた遊び）
- ・ふれあい体験 「めだか広場」参加児とのふれあい

#### オ 従事者

保健師2名

#### カ まとめ

参加学生が男子は1名だったため、「一人だから恥ずかしい」と講義の部屋に入るまでに時間がかかったが、女子は反応良く、真剣に話を聞いていた。

また、両親から自分の幼い頃のことを聞いたことがない学生が多いことに驚いた。交流時は、学生達は緊張することなく、自然体で上手に子どもたちとふれあい、遊んでいた。

## 1 3 「子どもの健康」に関する連絡会

### (1) 目的

この会は、保育園・小学校・中学校・保健センターが一緒になり、大口町の子どもたちの健康を考え、役立てることを目的とする。

### (2) 平成18年度のテーマ

「早起き 早寝 朝ごはん！」

社会全体の急速な夜型の影響を受け、子どもの夜更かしが日常化している今日、この会で大口町の子どもたちの実態を話し合ったところ、大口町の子ども達も例外でなく、それぞれに睡眠の乱れからくる問題を抱えることが明らかになった。

幼少期からの生活の積み重ねの影響が大きい基本的生活習慣、各年代を通しての取り組みが必要であると認識し今年度は、子どもの成長に欠かせない睡眠について発信していった。

### (3) 構成員

町内4保育園（保育士） 町内3小学校（養護教諭）  
町内2中学校（養護教諭） 保健センター（保健師） その他

### (4) 開催回数

延べ9回

### (5) 主な活動（全体としての取り組み）

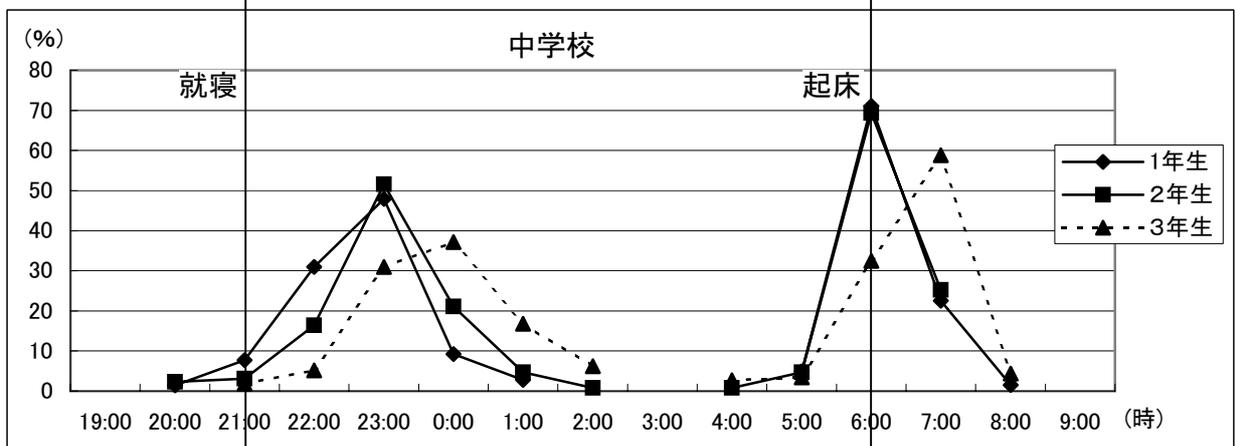
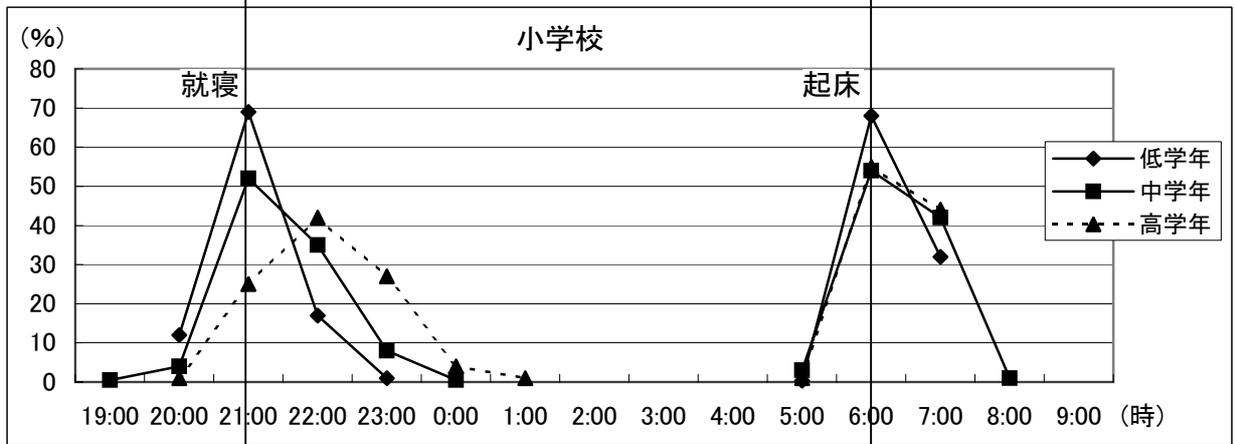
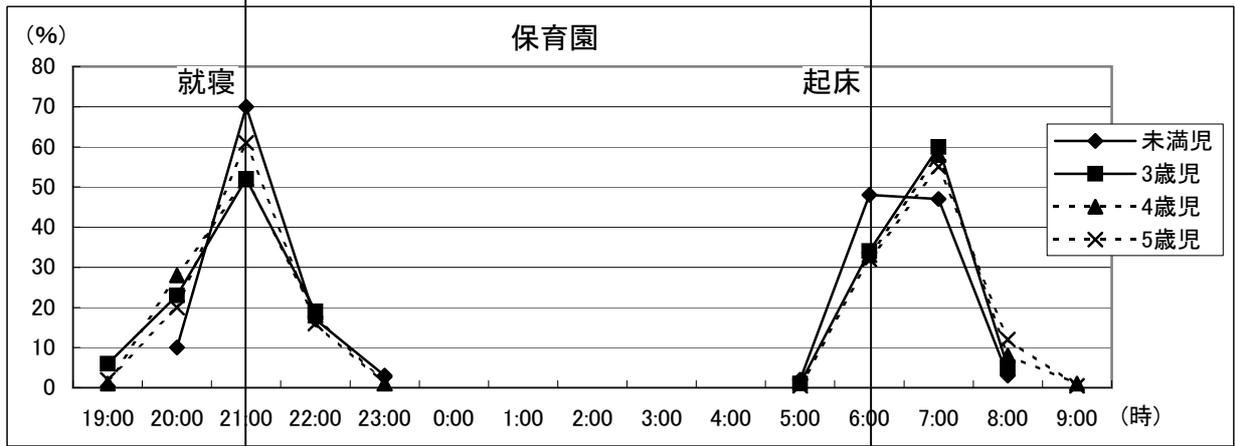
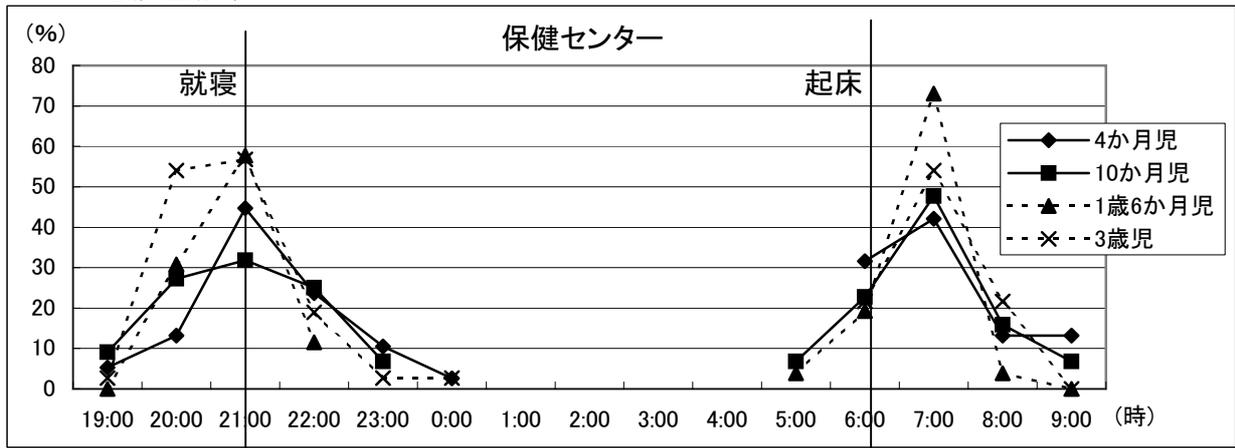
睡眠記録実態調査	統一の取り組みとして、それぞれの保護者、児童・生徒に対し、睡眠記録を取った。 (調査の結果はP40) *保健センターでは、乳幼児健診の通知時に記録用紙を送付
ふれあいまつり2006 「健康まつり」での活動紹介 (平成18年11月5日)	18年度の取り組み状況 「早起き早寝朝ごはん!」「睡眠記録実態調査」をパネルにし、紹介

### (6) 平成18年度のまとめ

連絡会が発足して2年目にとなり、大口町の子どもたちの健康を考える中で、「基本的生活習慣の確立」に問題があり、今年度も昨年度に引き続き「基本的生活習慣の確立」を目指し、「早起き早寝朝ごはん!」をキャッチフレーズに各部署での取り組みとして睡眠記録実態調査を試みた。それぞれの部署でおこなった結果を、大口町の子ども全体の結果として見ることで、日頃関わっている子どもたちの傾向や取り巻く環境、状況を広い視野で捉えることができた。

課題は多々あるが、今後も大口町の子どもの健康に携わるものが会の目標達成に近づけるよう連携しあい、一步一步取り組んでいきたい。

睡眠実態調査結果



### 3 成人保健活動

## 1 成人保健の取り組み

大口町は、平成5年12月に「健康の町」宣言をし、平成16年3月には大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と行政とともに策定し、地区住民の意識の高揚と地区活動を積極的に推進してきている。

健康おおぐち21の大目標に掲げた「健康で 笑顔のおおぐち 今日も元気 明日も元気」に向かって計画推進3年目の18年度は、①介護予防の取り組み ②生活習慣予防病 ③がん予防の3つの活動目標をかかげ、事業を展開してきた。

介護予防の取り組みでは、17年度のモデル事業を足がかりに、身近で気軽に集い、楽しく筋力の維持向上ができる場として「しなやかお達者の会 豊田」を新規に立ち上げ継続的な場へと移行させた。また、大口町の高齢者の全体像を捉え取り組みの方向性を定めるための検討をしてきた。

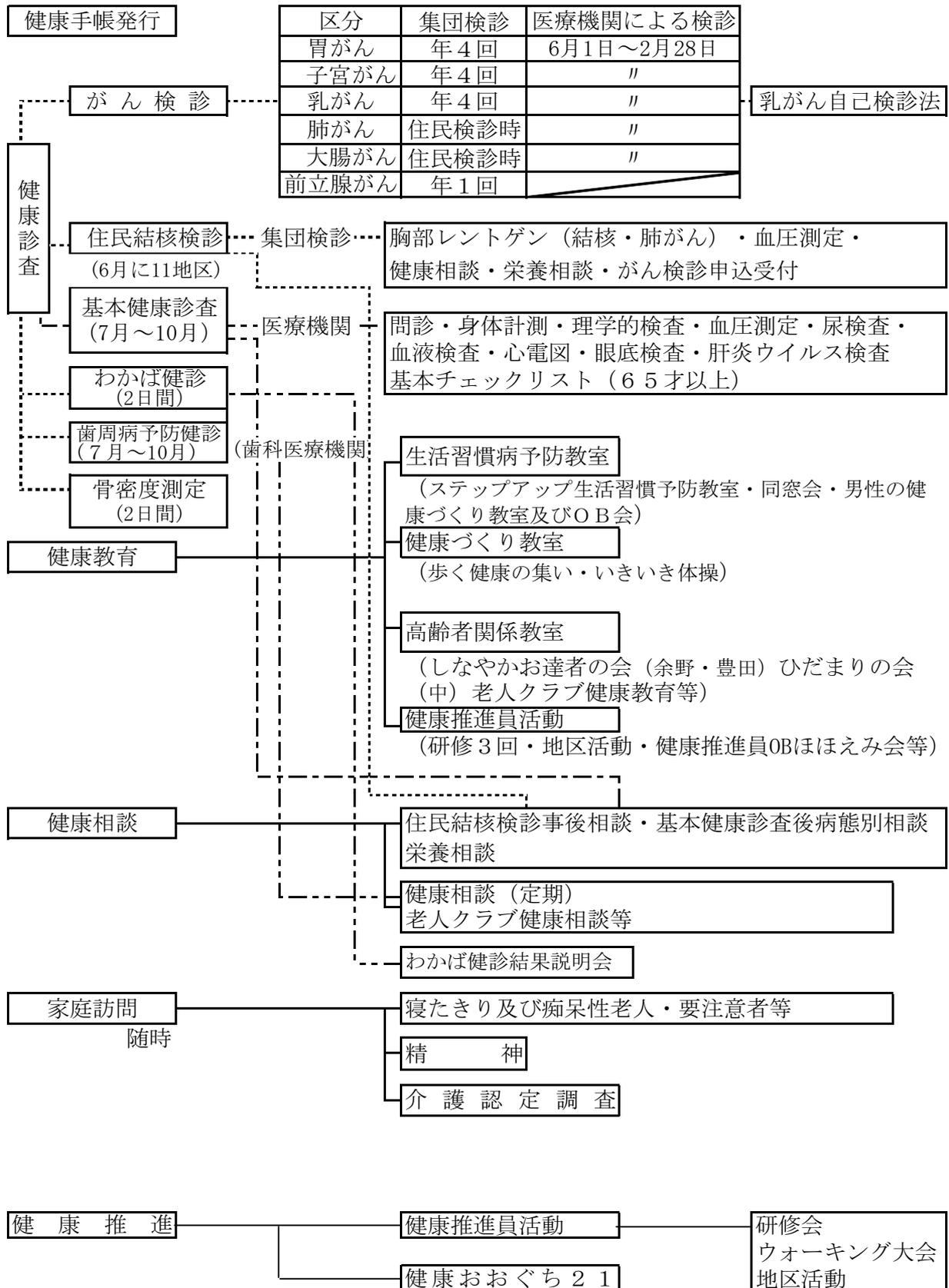
生活習慣病予防はメタボリックシンドローム対策に重点をおき、ハイリスク者を対象とした集団・個別指導の教室を実施し、生活の改善から血液データ・BMIの改善等が見られた。平成20年度の特設保健指導実施に向け、対象者が参加しやすく効果的な保健指導の方法を検討し準備していきたい。また、ハイリスクでありながら健康づくりに関する地域の資源活用が少ない退職男性への働きかけとして教室を実施。その後、自主グループが立ち上がった。町内の男性の健康づくりの拠点となるような、大きな広がりを持つよう参加者の自主性を大切にしながら支援していきたい。

20～39歳を対象としているわかば健診では若い年代の健康問題もうかがえ、新たに健診事後フォローの場としてメタボリックシンドローム予備軍と思われる対象者に勧奨し「わかば健診結果説明会」を実施。併せて、がんについても増加が著しい女性のがん対策として、機会を捉えて自己検診法・検診について啓発を行い初診者の受診を促すよう努めた。

今後も町民の健康問題のニーズをつかみ、住民の健康に対する意識の高揚やコスト面等も考慮した健康づくりの効果的な行動変容への支援と体制づくりに努めていきたい。



# 成人保健 管理体系



推進3年目・健康おおぐち21推進イベント等

## 2 健康手帳の交付

### (1) 目的

老人保健法に基づいて発行。基本健康診査・がん検診・健康教育時などに健診結果や血圧測定値等の健康状態を記入し、自らの健康への意識の高揚を図る。

### (2) 対象

ア 医療受給資格者（75歳以上の高齢者・65～69歳で法第25条該当者）

イ 医療受給資格者以外の者

（70歳以上の国民健康保険加入者、40歳以上69歳までで希望する者）

### (3) 日時

ア 毎月 月末の1週間（医療受給資格者） ※役場保険年金課で交付

イ 住民検診・がん検診・健康相談等の時

ウ その他随時

### (4) 交付状況

（単位：人）

ア	老人保健法第25条第1項の規定により、医療を受けることのできる者	162
	65～69歳の医療受給資格者	8
イ	40歳以上でア以外の者	81
ウ	40歳未満の希望者	7
合 計		258



### 3 基本健康診査

#### (1) 目的

老人保健法第16条に基づく健康診査として、生活習慣病予防及び介護を要する状態等の予防の一環として実施し、診査の結果、必要な者に対して、栄養や運動等に関する保健指導や健康管理に関する正しい知識の普及を行なうこと、医療機関への受診又は介護予防事業等への参加を勧奨することによって壮年期からの健康についての認識と自覚の高揚を図ることを目的とする。また、C型肝炎等緊急総合対策の一環として、平成14年度から5年間に限って肝炎ウイルス検診を実施し、肝炎による健康障害を回避し症状を軽減し進行を遅延させる。

#### (2) 対象

町内に在住する40歳以上の者

#### (3) 場所

大口町・扶桑町の委託医療機関

#### (4) 実施期間

7月1日～10月31日 各医療機関の診療時間内

#### (5) 内容

問診 身体計測 理学的検査 血圧測定 尿検査 血液検査 心電図 眼底検査  
生活機能に関する項目（65歳以上の者）

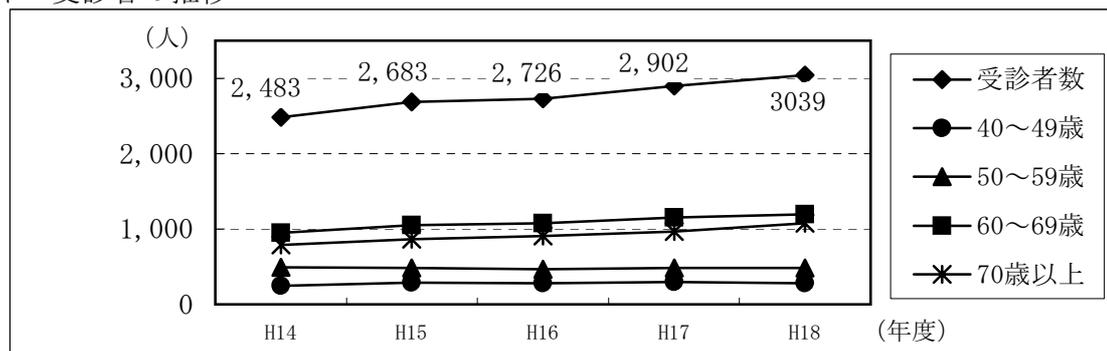
#### (6) 受診状況

##### ア 結果一覧表

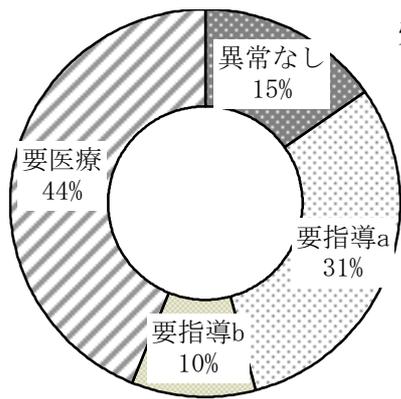
(単位：人)

区分	受診者数	基本健康診査				生活機能の著しい低下を認める者		
		異常認めず	要指導a	要指導b	要医療			
男	40歳～49歳	66	12	19	9	/		
	50歳～59歳	91	9	26	12			
	60歳～64歳	181	22	50	16			
	65歳～69歳	288	37	94	23			
	70歳～74歳	190	19	59	16			
	75歳 以上	234	23	79	33			
	小 計	1,050	122	327	109	492	45	
女	40歳～49歳	216	92	67	16	41	/	
	50歳～59歳	390	76	123	44	147		
	60歳～64歳	361	57	107	34	163		
	65歳～69歳	368	40	114	39	175		13
	70歳～74歳	251	35	79	19	118		20
	75歳 以上	403	42	111	51	199		83
	小 計	1,989	342	601	203	843	116	
合計	40歳～49歳	282	104	86	25	67	/	
	50歳～59歳	481	85	149	56	191		
	60歳～64歳	542	79	157	50	256		
	65歳～69歳	656	77	208	62	309		22
	70歳～74歳	441	54	138	35	214		25
	75歳 以上	637	65	190	84	298		114
	計	3,039	464	928	312	1,335	161	

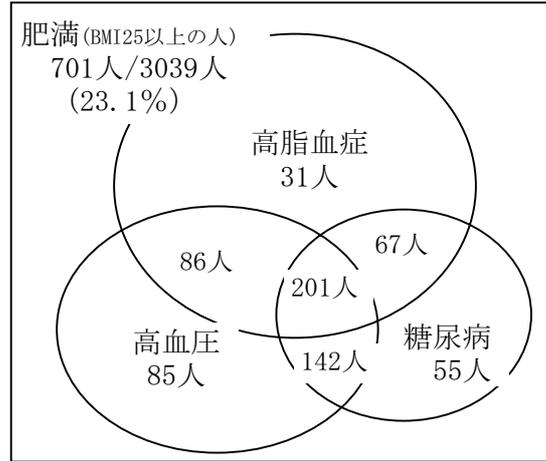
##### イ 受診者の推移



ウ 判定区分内訳



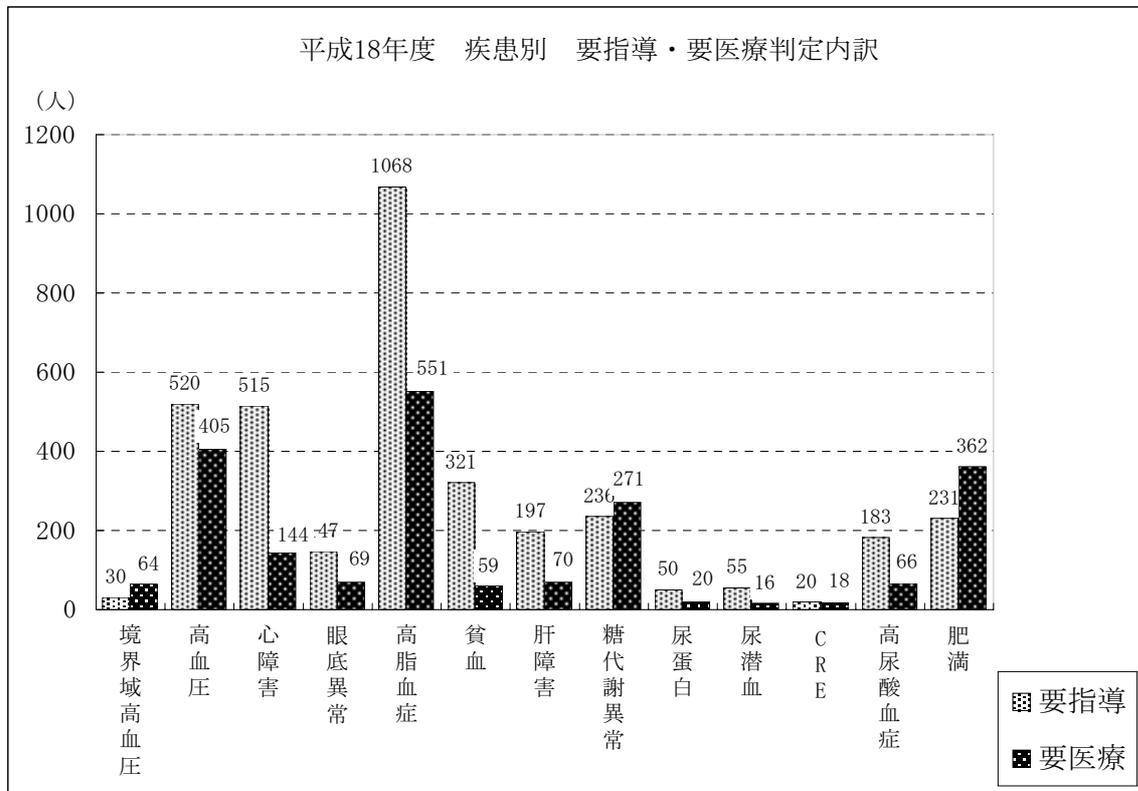
受診者数  
3,039人



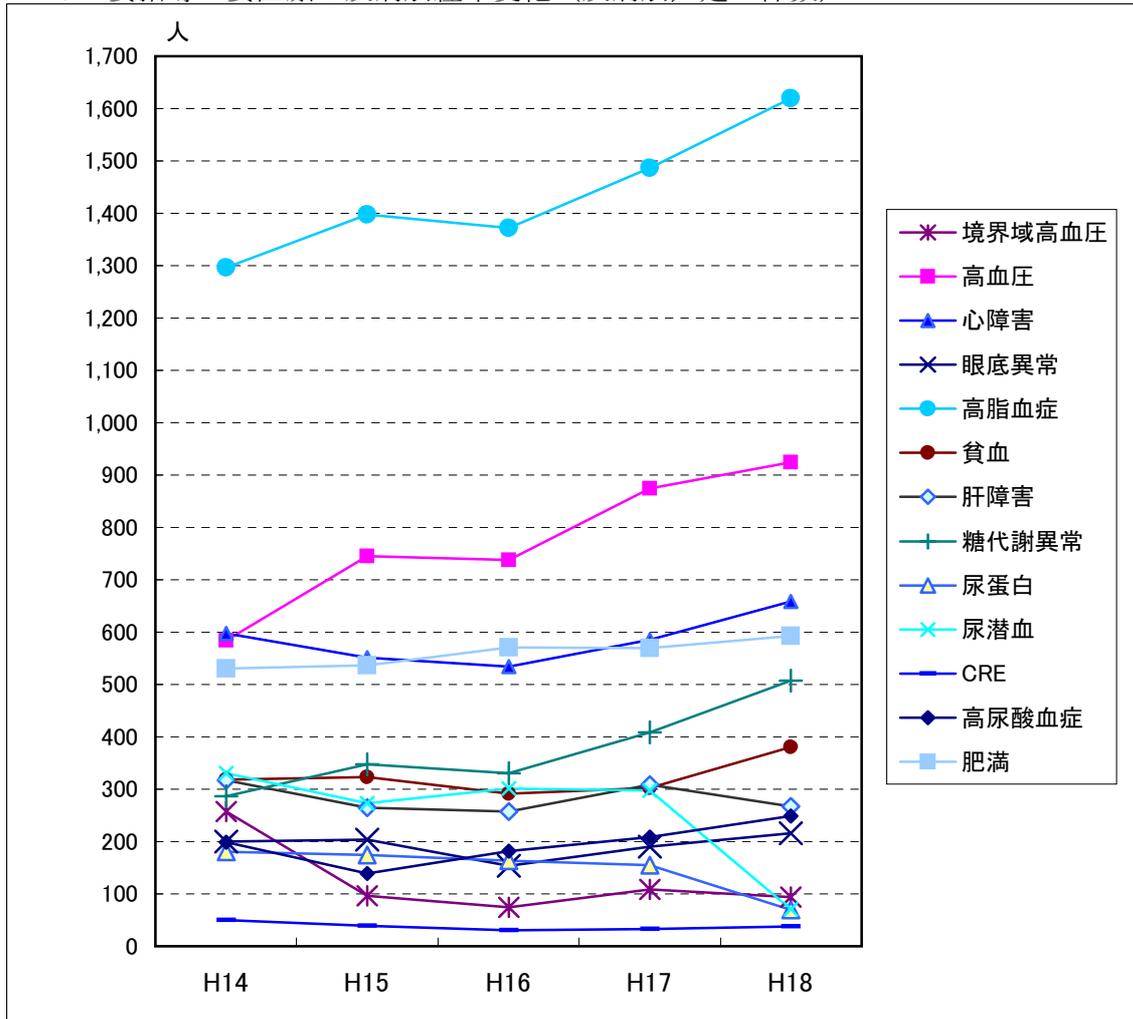
エ 要指導・要医療の疾病分類内訳 (延べ件数)

(単位: 人)

年度	区分	境界域 高血圧	高血 圧	心障 害	眼底 異常	高脂血症	貧血	肝障害	糖代 謝異 常	腎 障 害			高尿 酸血 症	肥満	計
										尿蛋 白	尿潜血	CRE			
平成14年度		257	584	598	200	1,296	318	317	286	181	330	50	199	531	5,147
平成15年度		96	745	551	204	1,397	323	265	348	175	273	39	139	536	5,091
平成16年度		74	738	534	154	1,372	292	257	331	164	301	30	182	571	5,000
平成17年度		108	875	585	190	1,487	303	308	408	155	297	33	209	570	5,528
平成18年度		94	925	659	216	1,619	380	267	507	70	71	38	249	593	5,688



オ 要指導・要医療の疾病別経年変化（疾病別／延べ件数）



※ 結果を必ず聞きに行くことを周知徹底した。

カ 肝炎ウイルス検診

基本健康診査の対象者で、節目(40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳)の方、広範囲な外科的手術を受けた方、分娩時多量の出血をされた方、基本健康診査でGPT値で要指導とされた方などに対して肝炎ウイルス検査を実施した。

(単位：人)

区分 項目	実施数	B型ウイルス		C型ウイルス	
		陰性	陽性	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染していない可能性が極めて高い	現在、C型肝炎ウイルス(HCV)に感染している可能性が極めて高い
節目の方	356	352	4	351	4
申請者 その他	10	10	0	10	0
計	366	362	4	361	4

※1名B型肝炎ウイルス検査のみ受けた人あり。

## 4 各種がん検診

### (1) 目的

がんの早期発見に努め、早期治療に結びつけるとともに、がん予防についての知識の普及啓発を行い、意識の向上を図る。

### (2) 実施状況

区分 項目	集 団 検 診	医 療 機 関
実施回数 実施機関 及び 実施場所	< 胃 > 年4回 (検診車) 保健センター < 子宮 > 年4回 (検診車) 保健センター < 乳 > 年4回 (検診車) 保健センター < 大腸 > 住民検診時、検体採取容器を配布 < 肺 > 胸部X線 (住検時) 喀痰 (住民検診時、検体採取容器を配布) < 前立腺 > 年1回 保健センター	平成18年6月1日から、平成19年2月28日までの町内委託医療機関の診療時間内
申込方法	・保健センターへ電話により申込み ・住民検診時に申込み	各医療機関の窓口にて
検診料	大腸がん：300円、胃がん：1000円 肺がん：X線のみ無料、X線+喀痰300円 乳がん検診：1,000円、子宮がん：500円 前立腺がん検診：300円	大腸がん：500円、胃がん：2000円 肺がん：X線のみ500円 X線+喀痰 1500円 子宮がん：1000円、乳がん：500円
対象者	町内在住で、勤務先等で検診を受ける機会のない方	

### (3) 検診内容

種 類	内 容
胃	胃部X線撮影
子宮	視診・細胞診
乳 (個別)	視診・触診
(集団)	視診・触診・MMG (X線検査) ・健康教育 (自己検診法について)
大腸	便潜血反応試験による2日間採便法
肺	胸部X線撮影・喀痰検査
前立腺 (集団のみ)	血液検査

※がん予防効果を高めるために、要精検者のうち受診結果が返送されない方を未受診者として把握し、受診2か月後に精検受診勧奨の通知に啓発のリーフレットを同封し郵送。

(4) 胃がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

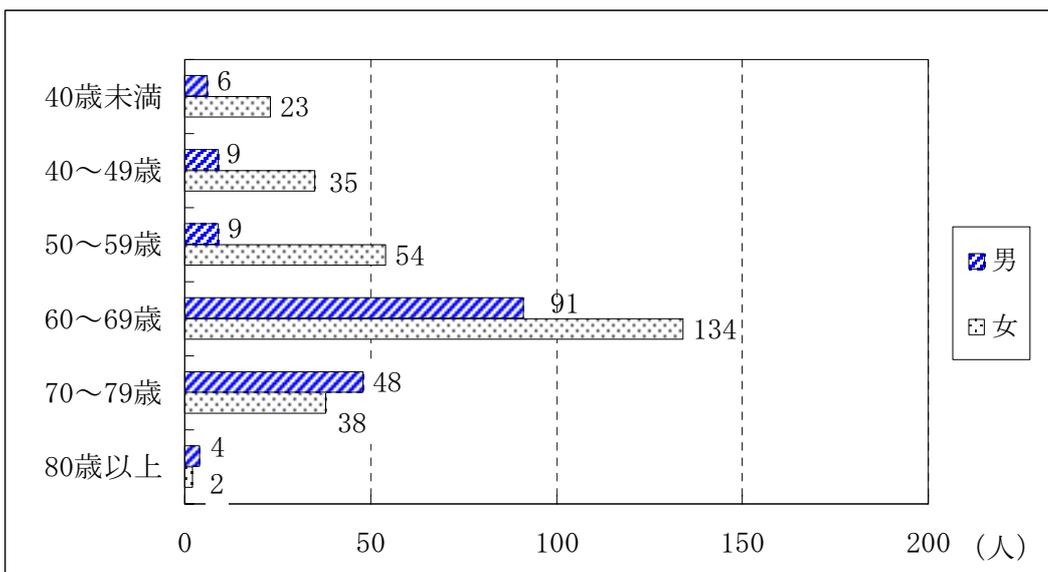
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	要観察	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
40歳以上	14	3,700	539	173	366	14.6	383	22	134	27	2	66	39
	15	3,800	582	146	436	15.3	361	40	181	33	2	106	40
	16	3,880	522	145	377	13.5	387	47	88	22	0	41	25
	17	3,980	440	169	271	11.1	320	54	66	19	1	30	16
	18	5,913	424	175	249	7.2	333	23	68	15	0	39	14

40歳未満	14	—	46	28	18	—	39	1	6	1	0	5	0
	15	—	55	27	28	—	43	2	10	5	0	4	1
	16	—	56	35	21	—	48	4	4	2	0	1	1
	17	—	36	25	11	—	30	4	2	0	0	0	2
	18	—	29	24	5	—	25	1	3	0	0	3	0

計	14	—	585	201	384	—	422	23	140	28	2	71	39
	15	—	637	173	464	—	404	42	191	38	2	110	41
	16	—	578	180	398	—	435	51	92	24	0	42	26
	17	—	476	194	282	—	350	58	68	19	1	30	18
	18	—	453	199	254	—	358	24	71	15	0	42	14

※要精検率は15.7%。精検受診率80.3%。精検受診率は上がっているが、ハイリスクの年齢で受診者数が6人減少。受診者数増加に向けた働きかけが必要。

イ 年齢別受診状況(平成18年度)



(5) 子宮がん検診  
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

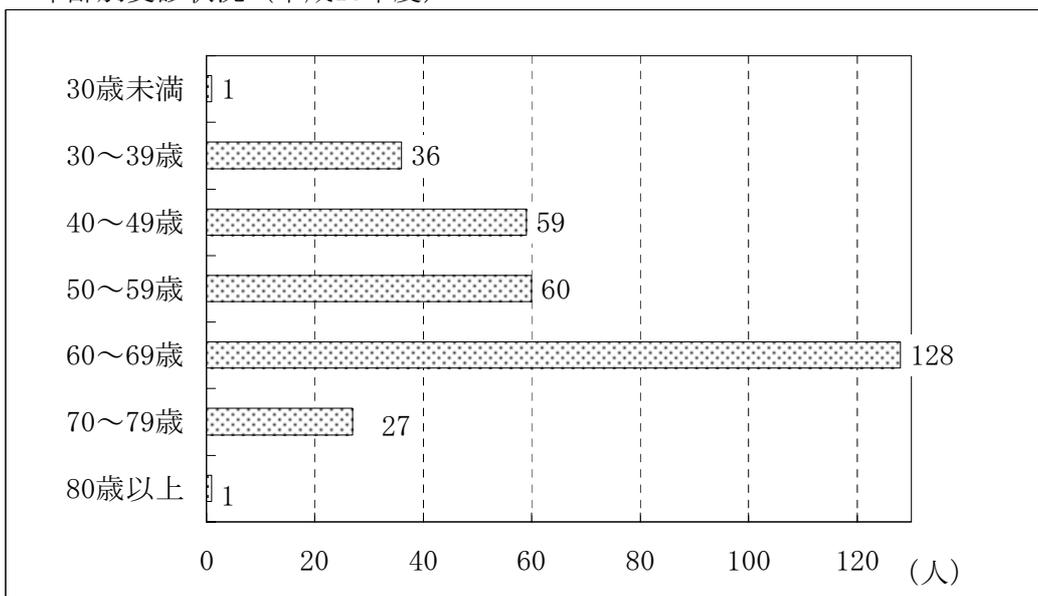
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団	医療機関			異常なし	その他の疾患	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	未把握
30歳以上	14	2,700	360	241	119	13.3	336	19	5	2	1	1	1
	15	2,770	379	245	134	13.7	335	42	2	0	0	1	1
	16	2,842	374	253	121	13.2	342	31	1	0	0	1	0
	17	2,870	329	255	74	11.5	288	39	2	1	0	1	0
	18	3,669	311	250	61	8.5	260	48	3	0	0	2	1

30歳未満	14	—	7	6	1	—	7	0	0	0	0	0	0
	15	—	10	8	2	—	8	2	0	0	0	0	0
	16	—	10	8	2	—	9	1	0	0	0	0	0
	17	—	2	2	0	—	2	0	0	0	0	0	0
	18	—	1	0	1	—	1	0	0	0	0	0	0

計	14	—	367	247	120	—	343	19	5	2	1	1	1
	15	—	389	253	136	—	343	44	2	0	0	1	1
	16	—	384	261	123	—	351	32	1	0	0	1	0
	17	—	331	257	74	—	290	39	2	1	0	1	0
	18	—	312	250	62	—	261	48	3	0	0	2	1

※要精検率は0.96%。若い世代から発症率の高いがんのため、受診勧奨の機会を今後も設けていくことが必要。

イ 年齢別受診状況(平成18年度)



(6) 乳がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

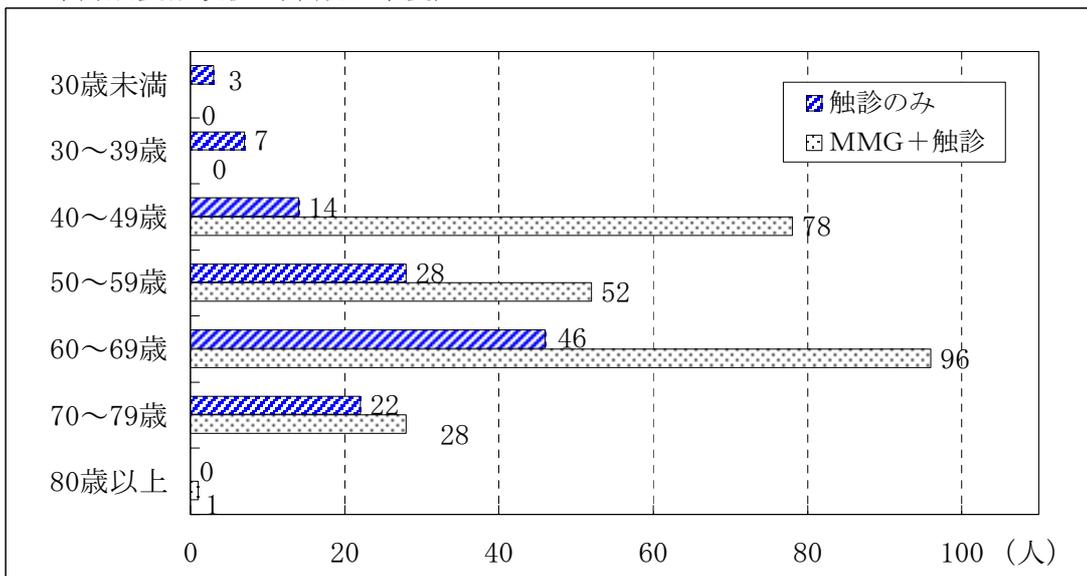
	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)			
			集団+触診(MMG)	(医療機関のみ)			異常なし	要観察	要精検	異常なし	がん疾患	がん以外の疾患	未把握
30歳以上	14	2,700	368	98	270	13.6	348	2	18	5	1	10	2
	15	2,770	410	99	311	14.8	393	7	10	3	0	3	4
	16	2,842	356	80	276	12.5	338	1	17	8	0	7	2
40歳以上	17	2,670	311	197	114	11.6	291	2	18	10	1	5	2
	18	3,669	365	255	110	9.9	339	1	25	16	0	6	3

30歳未満	14	—	8	6	2	—	7	1	0	0	0	0	0
	15	—	6	0	6	—	6	0	0	0	0	0	0
	16	—	1	0	1	—	1	0	0	0	0	0	0
40歳未満	17	—	19	0	19	—	15	0	4	1	0	2	1
	18	—	10	0	10	—	8	1	1	1	0	0	0

計	14	—	376	104	272	—	355	3	18	5	1	10	2
	15	—	416	99	317	—	399	7	10	3	0	3	4
	16	—	357	80	277	—	339	1	17	8	0	7	2
	17	—	330	197	133	—	306	2	22	11	1	7	3
	18	—	375	255	120	—	347	2	26	17	0	6	3

※ 40歳代の乳がん受診者数が26人増加するなど、ハイリスク年齢での受診者数が増加している。要精検率6.9%、精検受診率88.5%。機械検診の実施で精度の高いがん検診を行うとともに今後も自己検診法の健康教育に力を入れていきたい。

イ 年齢別受診状況(平成18年度)



(7) 大腸がん検診

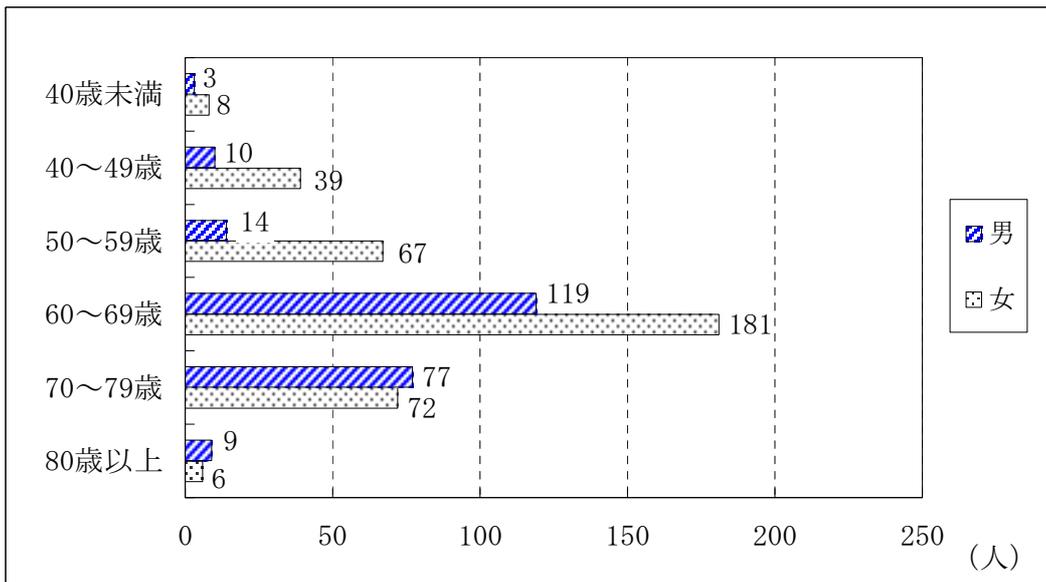
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

	年度	対象者	受診者数			受診率	結果			精検結果(再掲)				
			集団	医療機関			異常なし	要再検	要精検	異常なし	がん	がん以外の疾患	疑いがん	未把握
40歳以上	14	3,700	736	286	450	19.9	685	1	50	19	1	22	0	8
	15	3,800	768	270	498	20.2	728		40	13	0	19	0	8
	16	3,880	734	249	485	18.9	698		36	9	1	14	0	12
	17	3,980	598	280	318	15.0	566		32	10	1	14	0	7
	18	5,913	594	272	322	10.0	555		39	6	2	17	0	14
40歳未満	14	—	69	47	22	—	65	0	4	3	0	0	0	1
	15	—	82	48	34	—	80		2	1	0	0	0	1
	16	—	94	69	25	—	89		5	1	0	3	0	1
	17	—	59	39	20	—	51		8	7	0	0	0	1
	18	—	11	2	9	—	10		1	0	0	0	0	1
計	14	—	805	333	472	—	750	1	54	22	1	22	0	9
	15	—	850	318	532	—	808	0	42	14	0	19	0	9
	16	—	828	318	510	—	787		41	10	1	17	0	13
	17	—	657	319	338	—	617		40	17	1	14	0	8
	18	—	605	274	331	—	565		40	6	2	17	0	15

※40歳以下の受診者数の減少が目立つが、大腸がんが増加する60歳以上の受診者数はH17年度445人、H18年度464人と19人の増加。ハイリスク者の受診者増で、要精検率6.6%、がん発見率0.99%と健診効果が上がる傾向がみられる。

イ 年齢別受診状況(平成18年度)



(8) 肺がん検診

ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

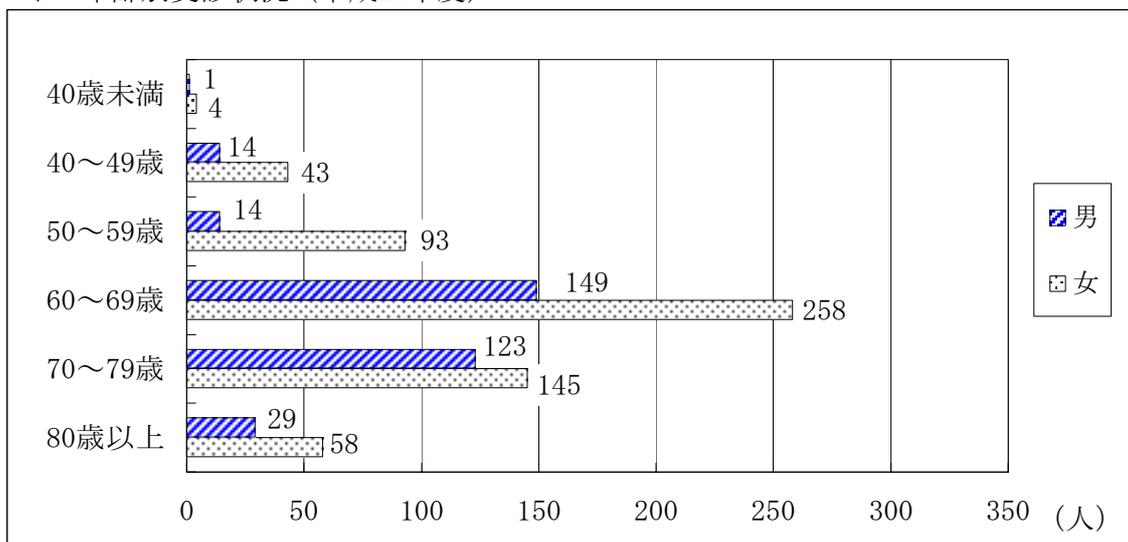
	年 度	対 象 者	受診者数				受 診 率	結 果		精検結果 (再掲)						
			集 団		医 療 機 関			精 検 不 要	要 精 検		異 常 な し	が ん	が ん の 疑 い の あ る 者	が ん 以 外 の 疾 患	未 受 診 ・ 未 把 握	
			X 線 及 び 喀 痰	X 線 の み	X 線 及 び 喀 痰	X 線 の み			肺 が ん 以 外 の 疾 患	肺 が ん の 疑 い						
40歳以上	14	3,700	1,061	64	543	126	328	28.7	999	48	14	15	0	0	11	36
	15	3,800	1,148	35	562	143	408	30.2	1,079	50	19	13	0	0	16	40
	16	3,880	1,046	19	515	107	405	27.0	989	32	25	21	2	2	22	10
	17	3,980	917	37	531	61	288	23.0	866	34	17	20	0	2	15	14
	18	5,913	926	28	546	43	309	15.7	900	16	10	10	0	0	3	13

40歳未満	14	—	95	6	83	1	5	—	95	0	0	0	0	0	0	0
	15	—	107	7	83	8	9	—	106	1	0	0	0	0	0	1
	16	—	111	3	82	7	19	—	111	0	0	0	0	0	0	0
	17	—	83	6	67	2	8	—	82	0	1	1	0	0	0	0
	18	—	5	0	0	0	5	—	5	0	0	0	0	0	0	0

計	14	—	1,156	70	626	127	333	—	1,094	48	14	15	0	0	11	36
	15	—	1,255	42	645	151	417	—	1,185	51	19	13	0	0	16	41
	16	—	1,157	22	597	114	424	—	1,100	32	25	21	2	2	22	10
	17	—	1,000	43	598	63	296	—	948	34	18	21	0	2	15	14
	18	—	931	28	546	43	314	—	905	16	10	10	0	0	3	13

※今年度から住民結核検診の対象者が40歳以上となった。男性の肺がん死亡が多いが70歳代31人受診者数増加がみられたが、60歳代19人減少。男性の受診者数は女性に比べ少ない。要精検率2.8%、精検受診率50%。

イ 年齢別受診状況 (平成18年度)

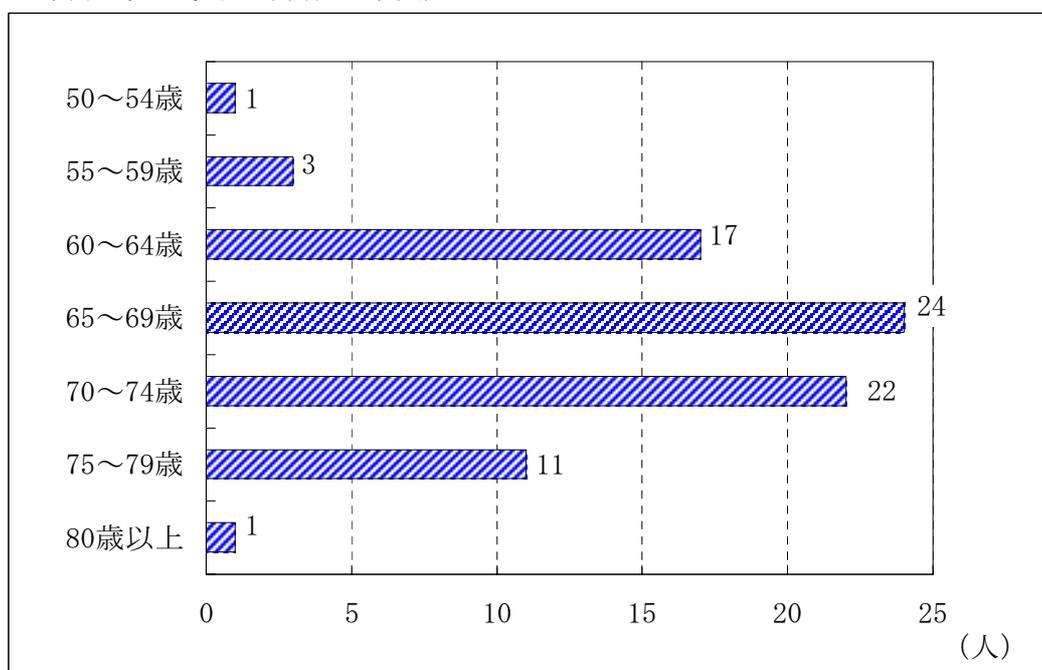


(9) 前立腺がん検診  
ア 年度別実施状況

(単位：人・%)

年度	対象者	受診者 (集団)	受診率	結果			精検結果(再掲)					
				異常なし	要再検	要精検	異常なし	が ん	が ん の 疑 い	前 立 腺 肥 大	そ の 他	未 把 握
17	1,567	68	4.3	62	0	6	2	1	0	3	0	0
18	1,597	79	4.9	72	0	7	3	3	0	1	0	0

イ 年齢別受診状況(平成18年度)



## 5 わかば健診

### (1) 目的

20・30歳代の若い年代で健診を受ける機会のない方を対象とし、生活習慣病の早期発見および、生活習慣の改善に向けた指導を行い、予防意識の向上をはかる。

### (2) 対象

町内在住の20歳代・30歳代の住民で、健診を受ける機会のない方。

### (3) 日時

平成18年8月18日（金） 午後1時～午後3時

平成18年9月13日（水） 午後1時～午後3時

### (4) 場所

保健センター2階

### (5) 検診方法及び内容

健康教育(健康おおぐち21、生活習慣病予防、乳がん自己検診法)

尿検査、身長・体重、血圧測定

### (6) 従事者

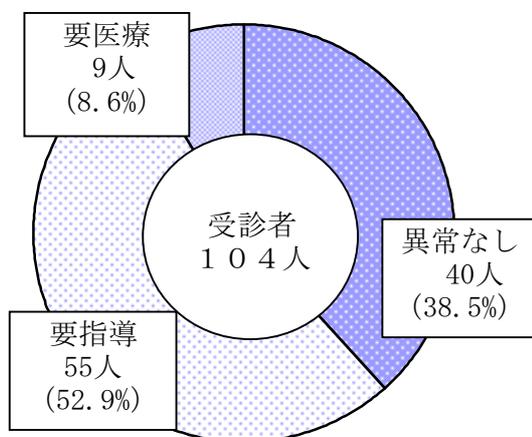
保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関

### (7) 実施結果

ア 年齢別受診者数 (定員150人)

	男			女			合計
	20歳代	30歳代	小計	20歳代	30歳代	小計	
H15	3	9	12	27	100	127	139
H16	1	4	5	21	108	129	134
H17	2	4	6	25	90	115	121
H18	4	4	8	11	85	96	104

### イ 受診結果

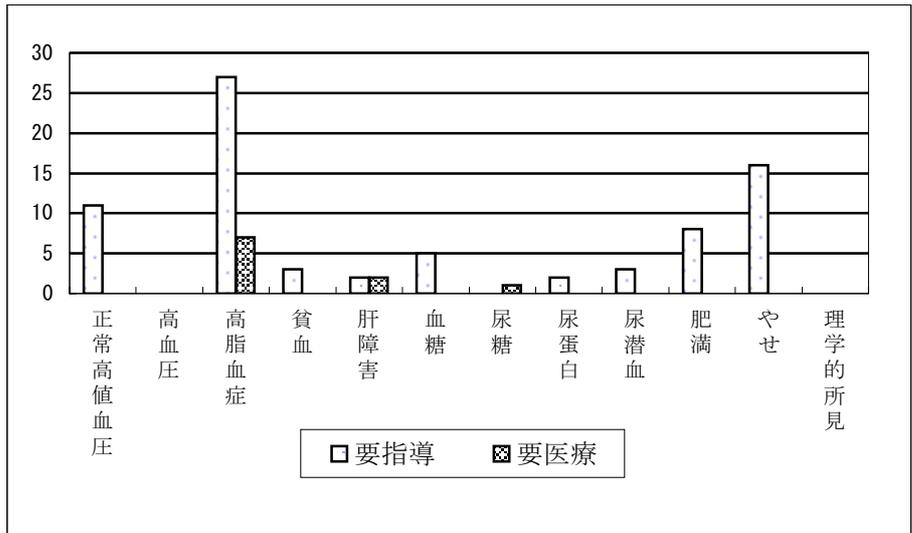


平成18年度合計内訳	
初診	再診
50	54

ウ 要指導・要医療の疾病分類(延べ数)

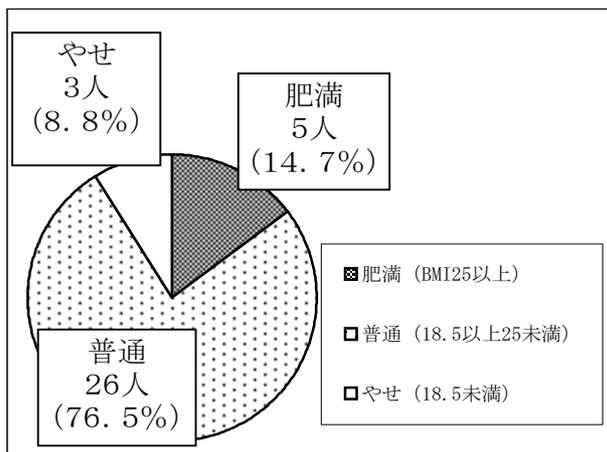
	正常高値血圧	高血圧	高脂血症	貧血	肝障害	血糖	尿糖	尿蛋白	尿潜血	肥満	やせ	理学的所見
H15	0	0	38	7	7	0	0	5	4	11	35	0
H16	0	0	29	11	2	0	0	4	3	10	25	0
H17	7	2	41	6	4	3	3	2	5	12	18	9
H18	11	0	34	3	4	1	1	2	3	8	16	0

エ 平成18年度 疾患別 要指導・要医療判定分類(延べ人数)



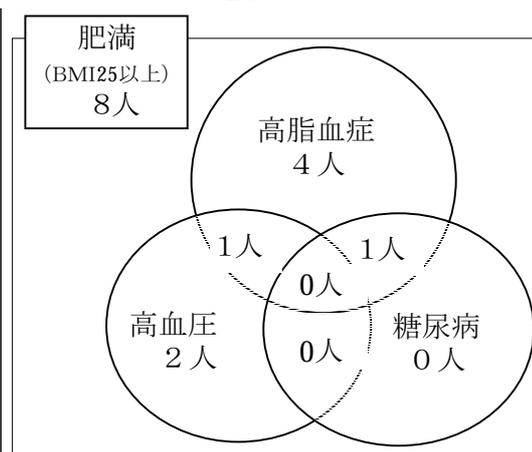
※高血圧は軽症高血圧値を含む。

オ 高脂血症要指導・要医療者の体型分類



カ メタボリック症候群予備軍

(肥満かつ、各疾患要指導 a・b 有り)



体型は高脂血症でも約8割が普通、やせで問題意識を持ちにくい。平成18年度は自分の体内で起こっていることを意識し、行動変容へつなげるきっかけとして、20・30歳代の生活習慣病予備軍にわかば健診結果説明会を企画。ハイリスク者へ個別対応でも働きかけていった。(結果は別紙参照)子育て世代の若い母親が多く受診するわかば健診の機会を活用し、健康実態を把握するとともに、健診時健康教育でのポピュレーションアプローチと事後のハイリスクアプローチを進めていきたい。平成19年度は乳がん自己検診法を超音波健診の時に実施。わかば健診では、生活習慣病予防に的を絞り効果的に啓発していきたい。

## 6 骨密度測定

### (1) 目的

自分の骨密度を知ることにより、寝たきりの原因となる骨粗鬆症の予防・早期発見に努める。また、骨粗鬆症についての正しい知識の普及と健康の保持・増進の啓発に努める。

### (2) 対象

町内在住の節目年齢の女性及び一般住民

※「節目年齢」とは、40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳を意味し、以下「節目者」とする。

### (3) 周知方法

①節目者は、基本健康診査の健診票郵送時にチラシを同封 617名

②基本健康診査対象外の節目者に個別通知 232名

③広報おおぐち及び広報無線による啓発

### (4) 日時

平成18年10月11日(水) 午前10時～午後4時

平成18年11月8日(木) 午前10時～午後4時

### (5) 場所及び定員

場所は、保健センター1階機能訓練室

定員は、各日100名(合計200名)

### (6) 方法及び内容

超音波法によるかかと部の骨密度測定 健康相談 栄養相談

### (7) 従事者

保健師 管理栄養士 看護師 事務員 委託機関(医師・ホパレーター・事務)

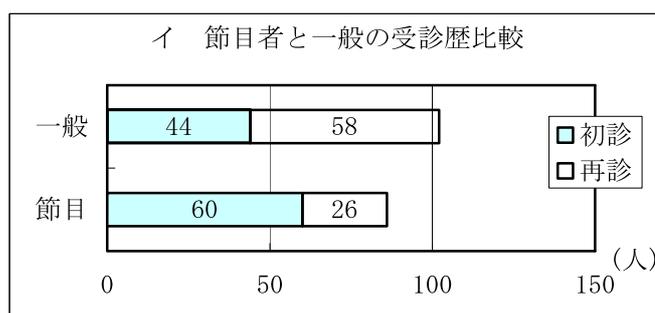
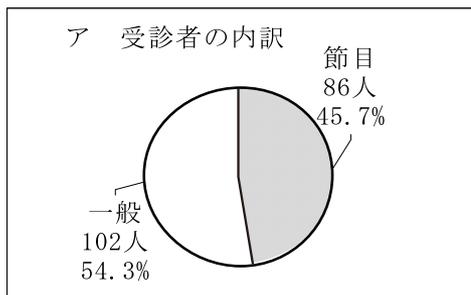
### (8) 実施結果

ア 受診者の内訳(人)

性別	節目	一般	合計
女	85	93	178
男	1	9	10
合計	86	102	188

イ 受診歴(人)

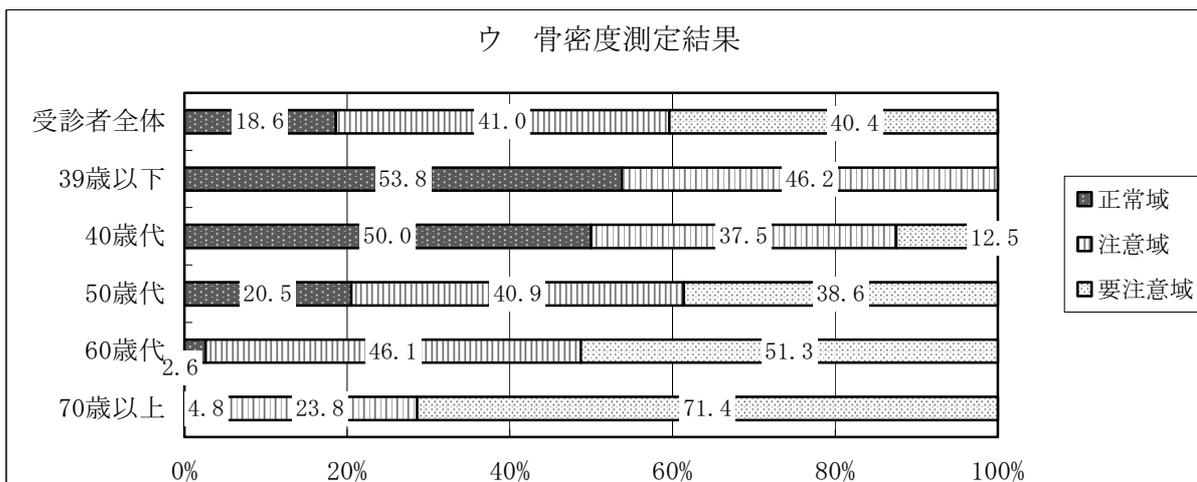
受診歴	節目	一般	合計
初診	60	44	104 (55.3%)
再診	26	58	84 (44.7%)
合計	86	102	188 (100.0%)



ウ 骨密度測定結果

( ) は、節目者再掲 (単位：人)

	受診者合計		正常域		注意域		要注意域	
39歳以下	13		7		6		0	
40歳代	32	(20)	16	(11)	12	(8)	4	(1)
50歳代	44	(27)	9	(6)	18	(12)	17	(9)
60歳代	78	(31)	2	(2)	36	(15)	40	(14)
70歳以上	21	(8)	1	(0)	5	(1)	15	(7)
合計	188	(86)	35	(19)	77	(36)	76	(31)



※節目者に積極的に勧奨したことで、全体の 45.2%が節目者であり、その中でも初めて受診する人の割合が多く、勧奨の効果があった。

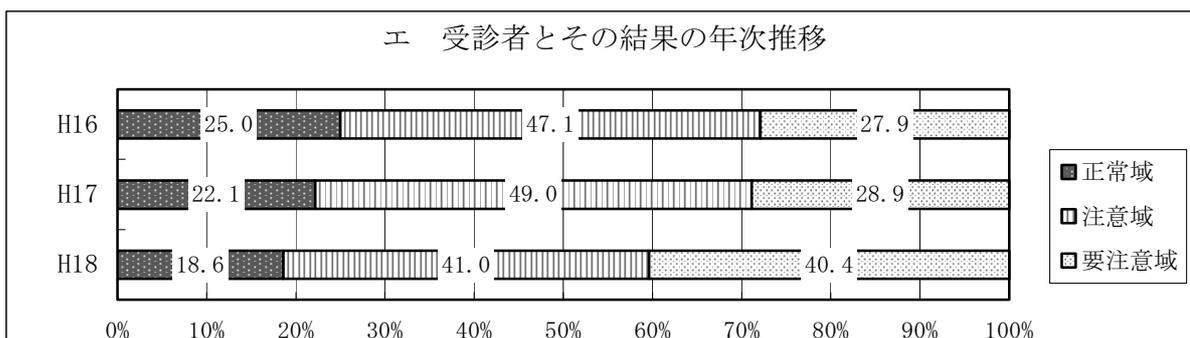
※測定結果では、年齢とともに注意域・要注意域を占める割合が増すため、若い世代からの食習慣や運動習慣等の啓発と壮年期以降の転倒予防などの啓発が必要である。

※年度毎の検査結果に大きく変化があったため、精度管理上委託先を検討し精度管理を行う。

エ 受診者とその結果の年次推移

(単位：人数)

	受診者数	正常域	注意域	要注意域
H16	204	51	96	57
H17	194	43	95	56
H18	188	35	77	76



## 7 健康教育

健康教育は、住民の健康意識の高揚、より良い生活習慣の定着を図ることにより、健康増進・疾病予防・寝たきり予防などに役立てることを目的としている。

健康おおぐち 21 計画推進 3 年目になり、さらに計画の周知をすすめて健康づくりをしやすいまちづくりを目指すとともに 5 分野の目標に沿った具体的な取り組みを推進した。

重点事業としては、基本健診で最も多く様々な生活習慣病予防のため、将来的に脳梗塞や心疾患を引き起こすリスクの高いメタボリックシンドロームを取り上げ「ステップ・アップ生活習慣病予防教室」を行い行動変容を促した。

介護予防事業の各地区への広がりを目指し、昨年度に引き続き高齢者の筋力トレーニングと集いの場として、「しなやかお達者教室」の実施地区を増やした。

### (1) 「生き生き体操教室」

#### ア 目的

体を動かす楽しさを体験する場を提供することで、運動習慣をつけるきっかけづくりとする。

#### イ 対象 住民

#### ウ 日時及び場所

平成 18 年 5 月 23 日（火）～8 月 25 日（火）（全 8 コース）

保健センター1階 多目的室

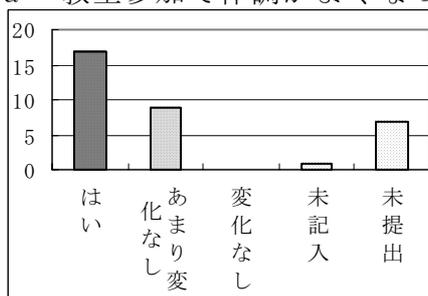
#### エ 従事者

保健師 健康運動指導士（2 名）

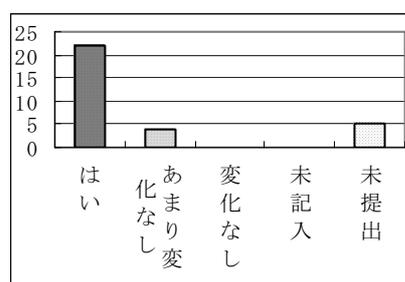
#### オ 参加状況及び結果 (ア) 参加者の平均年齢 68.2 歳

##### (イ) 参加後の体調変化

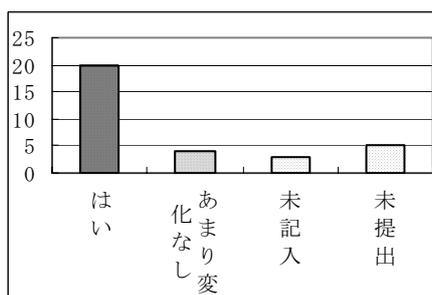
##### a 教室参加で体調がよくなった



##### b 知り合いではない人と会話したり交流する機会が増えた



##### c 運動を続けられそうですか



#### カ まとめ

参加者の効果はみられたが、運動の継続支援について教室中からの働きかけを工夫していく必要がある。

## (2)ステップアップ生活習慣病予防教室

平成9年度より個々にあった健康的な生活習慣を身につけるための実践教室として、集団と個別の指導内容を組み込んだ『ステップアップ健康教室』を行ってきた。今年度は、メタボリックシンドロームに着目し、基本健康診査や国民健康保険の人間ドック及びわかば健康診査においてリスクの重複がある対象者に教室勧奨を行なった。昨年度に引き続き、基本コースと実践コースに分けて行い、より多くの人に知識を普及するとともに、実践コースの人には個別性を重要視している。

### ア 目的

基本コース：自分の体を知り、メタボリックシンドロームを正しく理解し、自分の生活を見直す

実践コース：メタボリックシンドロームについての知識を理解した上で、自分の生活を見直し、仲間とともに個々に合った健康的な生活を身につける

### イ 対象者

<基本コース> (実践コース対象者も含む)

- ・平成17年度、基本健康診査受診者のうち血圧・血清脂質検査・血糖検査の判定で要指導 a. b が2つ以上ある者 (原則40歳～64歳)
- ・及び、平成17年度、国民健康保険の人間ドック受診者のうち血圧・血清脂質検査・血糖検査の判定でB・Cが2つ以上ある者。(原則40歳～64歳)
- ・平成17年度、わかば健康診査受診者のうちBMI25以上かつ、血圧・血清脂質検査・血糖検査の判定で要指導 a. b が2つ以上ある者

<実践コース>

- ・平成17年度、基本健康診査受診者のうちBMI25以上かつ、血圧・血清脂質検査・血糖検査の判定で要指導 a. b が1つ以上ある者 (原則40歳～64歳)
- ・及び、平成17年度国民健康保険の人間ドック受診者のうちBMI25以上かつ、血圧・血清脂質検査・血糖検査の判定でB・Cが1つ以上ある者。(原則40歳～64歳)

### ウ 日時

基本コース：平成18年6月21日、7月10日、7月26日 (全3回)

実践コース：平成18年6月～12月 (全8回)

### エ スタッフ

保健師 管理栄養士 運動指導員 医師 (あいち健康プラザ) 歯科衛生士 (江南保健所)

オ 参加者の状況

(基本コース)

参加者数 (実数)	11人	平均年齢	60.6歳
30歳代	1人	実施数	3回
40歳代	1人	平均参加者数	8人
60歳代	8人	出席率	72.7%
70歳代	1人	参加者数(延)	24人

男性 4人・女性 7人

(実践コース)

参加者数 (実数)	16人	平均年齢	61.1歳
30歳代	1人	実施数	8回
50歳代	6人	平均参加者数	15人
60歳代	6人	出席率	93.8%
70歳代	3人	参加者数(延)	120人

男性 6人・女性 10人

※後日、個別にて対応した人も参加者に含む。

カ 教室の内容

回数	内 容	参加人数
第1回 (6/7)	『さあはじめよう！まずは自分を知ることから』 ・オリエンテーション ・健康チェック ・個別目標設定	14人 (後日2名面接)
第2回 (6/21)	『メタボリックシンドロームについて知ろう！』 ・医師による講話	基本コース10人 実践コース16人
第3回 (7/10)	『脂肪を燃やす体を目指そう！』 ・自分にあった運動プログラムをつくります	基本コース 7人 実践コース15人
第4回 (7/26)	『体のためになる、かしこい食事』 ・個別栄養相談	基本コース 7人 実践コース14人
第5回 (7/31~8/4)	『自分に合った食生活プログラムづくり』 ・運動プログラムの確認	15人 (後日1名面接)
第6回 (8/23)	『無理なく運動ができていますか？』 ・運動プログラムの修正 『予防の一步！お口の中にも目を向けよう！』 ・歯周病予防の話	14人
第7回 (9/5)	『続けよう！自分にあった生活プログラム』 ・運動と食生活プログラムを続けていくためには	12人 (後日3名面接)
第8回 (12/13)	『ヘルシーパーティー』 ・調理実習 ・まとめと今後に向けて	12人 (後日2名面接)

キ 個別目標「目指す姿」の内容

- ・薬を飲まなくても総コレステロールや中性脂肪が正常になっている
- ・肥満気味の体を正常値の範囲に
- ・体重減少・体脂肪減少
- ・良い生活習慣が身につけていたら良いと思う
- ・運動が生活の中に自然に行えるように
- ・血圧が安定するように
- ・腹回りを減らしたい
- ・体が軽くなりたい
- ・腹8分目におさえた食生活を目指す
- ・カロリーについて少し頭の中に描いて食生活ができるように
- ・家族の食事にも気を配り健康食にしたい

ク 目標達成自己評価

(ア) 目標達成度とその理由「自分でたてた目標を達成できましたか？」

目標達成度	人数	理由
達成できた	3人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血圧、運動量の記録を毎日付けて、その成果を見て「ガンバリ」ました！</li> <li>・食生活日常生活のことを勉強して健康で暮らしたいから教室でお世話になりました。筋トレ毎朝実施。薄味にした。</li> <li>・コーヒーの砂糖を減らした。運動は維持する。</li> </ul>
達成できなかったが、生活に変化があった	6人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大体できたと思う。左足小指を骨折して思うように運動できないことが残念。</li> <li>・大きな目標を掲げるのではなく、生活の変化、意識変化を求め長期に取り組む姿勢を重視。</li> <li>・食事・運動に、少しずつ意識できるようになった。更年期など色々な要素が絡んでいると思うけれど、意識は持ち続けたい。</li> <li>・秋になってから果物をよく食べたりして体重が戻った。</li> <li>・運動すること、家庭でも自分で体を動かすように心掛ける。</li> <li>・体重も減って体も少し軽くなったような気はするけど、まだまだ健康には遠いと思うので達成とまではいってないと思う。運動は初めの頃はがんばっていたが、やらなくなってしまった。食生活は薄味にはするようになった。間食は減らし、ジュースもなくした。</li> </ul>
できなかった	5人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・膝痛や、風邪をこじらせ中耳炎になり現在もスッキリしない状態で運動も食事でも中断している。</li> <li>・長続きしない。寒くなり歩けなくなった。</li> <li>・運動不足を自分で分かっていると思うようにできない。食事の面でもコントロールできない。食べ過ぎてしまう。</li> <li>・腰痛になり運動をしなかった。便秘になりたくさん食べるようにしたから。</li> <li>・実行中に腰を痛めてしまった。蕁麻疹が3ヶ月間でてしまった。</li> </ul>

(イ) これからどうしていきたいと思うか

目標達成度	人数	これからどうしていきたいと思うか
達成できた	3人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して（この教室を思い出して）日々ステップアップを心掛けていきます。</li> <li>・このまま維持したい。</li> <li>・このまま続ける。生涯現役。</li> </ul>
達成できなかったが、生活に変化があった	6人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動、食生活、間食など、これからも気をつけながら生活していきます。</li> <li>・継続を心掛ける。食事と運動のバランスを考え当初目標に掲げた事を実行する週5日最低20分以上ウォーキング。腹8分目、間食はできるだけしない。</li> <li>・意識を持ち、体を動かすこと。薄味にすることなど続けていきたい。</li> <li>・食べ物が何でもおいしく食べられるように。</li> <li>・健康で生きられたら良いと思います</li> <li>・運動をもう少しがんばろうと思う。特別に時間をつくれなくても少しずつできることをやる。食事をバランスよく考えるようにする。適正体重になれるようにしたい。</li> </ul>
できなかった	5人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調が良くなったらもう一度がんばってみたいと思います。</li> <li>・色々やることは出来ないの何か1つを続ける様心掛ける。→筋トレ実施</li> <li>・もっとしっかり目標に向けて努力するしかない</li> <li>・腰も少し良くなったので、無理をしないで運動と食事に気をつけたい</li> <li>・甘いものの誘惑に誘われないこと。心身ともに健康であること。体調が良くなれば、教えていただいたプログラムを実行し、目標体重にしたい。</li> </ul>

## ケ 結果

### (ア) 体重・体脂肪・基本健康診査結果の変化

	体重	体脂肪	腹囲	総コレステロール	中性脂肪	HDL	血糖値	HbA1c
増. p d f 加	4人 (26.7%)	9人 (60.0%)	5人 (35.7%)	6人 (46.2%) 内、正常値2名	2人 (15.4%)	10人 (76.9%)	6人 (46.2%) 内、正常値1名	8人 (61.5%) 内、正常値6名
変化 なし	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	2人 (15.4%)
減少	11人 (73.3%)	6人 (40.0%)	9人 (64.3%)	7人 (53.8%)	11人 (84.6%)	3人 (23.1%) 内、正常値1名	7人 (53.8%)	3人 (23.1%)
合計	15人 (100%)	15人 (100%)	14人 (100%)	13人 (100%)	13人 (100%)	13人 (100%)	13人 (100%)	13人 (100%)
最大 減少値	-14.2kg	-13.2%	-13.1cm	-39mg/dl	-217mg/dl	-2mg/dl	-27mg/dl	-0.2mg/dl
最大 増加値	+0.9kg	+3.0%	+6.2cm	+31mg/dl	+113mg/dl	+15mg/dl	+38mg/dl	+0.5mg/dl
平均	-2.5kg	-0.4%	-1.4cm	-0.4mg/dl	-54.3mg/dl	+5.8mg/dl	+2.2mg/dl	+0.1mg/dl

## コ まとめ

例年より男性の参加者が多く、新聞やテレビ等のマスコミの影響も大きいと思われる。参加者のほとんどの人が体重やコレステロール値、中性脂肪値が減少し検査結果が良くなっているが、目標達成自己評価で「目標達成できた」人は少なかった。「目標達成できなかったが生活に変化があった」人は多い。摂取エネルギーと消費エネルギーを結び付けて考えられ、運動だけでなく食生活の自覚をする人も多いため、今後の継続に期待したい。今年も昨年に引き続き「1年後の私へ」を希望者に記入してもらい、返却方法を参加者と話し合った。1年後に同窓会を開催し、同窓会時に返却が決まった。個別相談を希望される人もいたため、同窓会に出席できない人には個別で返却する。



### (3) ステップアップ高脂血症予防教室同窓会

#### ア 目的

教室終了1年後の参加者同士の情報共有の場や、参加者自身の振り返りの場となることを目的とする。今後も生活習慣病予防のための行動（運動・食生活）を継続していくための事後フォローの一環として実施。

#### イ 対象者

平成17年度高脂血症予防教室参加者 15名

#### ウ 日時

平成18年12月15日（金） 午前10時～12時

#### エ スタッフ

保健師 管理栄養士

#### オ 参加者数

7名（男性 2名、女性 5名） 参加率 46.7%

#### カ 教室の内容

計測（身長・体重・体脂肪・腹囲）、教室（運動・食生活）の復習、座談会  
「1年後の私へ」返却、基本健康診査経年結果について

#### キ 結果

<昨年の結果と比較>

	体重	体脂肪	総コレステロール	中性脂肪
増加	4人 (57.1%)	2人 (28.6%)	7人 (53.8%) ※内、正常値2名	6人 (46.2%) ※内、正常値3名
減少	3人 (42.9%)	5人 (71.4%)	6人 (46.2%)	7人 (53.8%)
合計	7人 (100%)	7人 (100%)	13人 (100%)	13人 (100%)
最大減少値	-7.1kg	-8.3%	-56mg/dl	-307mg/dl
最大増加値	+2.4kg	+5.5%	+34mg/dl	+354mg/dl
平均	-1.4kg	-1.8%	-9.8mg/dl	-9.1mg/dl

#### ク 考察

教室終了して1年経過するが、基本健診の結果が昨年度よりさらに良くなっている参加者が半数ほどであった。教室は参加者同士の話も盛り上がり、お互いの刺激の場や振り返りの場になったと思われる。なかなか生活が変えられない参加者もいたが、これからも維持していきたいという参加者がほとんどであった。結果が昨年より悪くなっている参加者は、なぜ悪くなったのか理由が分かっている人もおり、「自己反省できた」、「再認識する機会になった」等の意見が聞かれた。参加率が46.7%というのが少し残念であるが、1年後の事後フォローの場としては、良い機会となった。

昨年度と同じアンケートを実施した結果を比較してみると、生活習慣改善行動の様子、本人の意識など、大まかな傾向が分かるため、今後の保健指導に活かしていけると良い。

#### (4) わかば健康診査結果説明会

##### ア 目的

若い世代からの生活習慣病予備軍の割合が高いため、早い段階から自分の体に向き、生活習慣を見直す機会とする。

##### イ 対象

わかば健診受診者のうち要指導・要医療の人

(理学的所見の異常者、痩せの人など生活習慣病以外の疾患は除く)

##### ウ 日時

平成 18 年 9 月 12 日 (火) 午前 10 時～11 時

平成 18 年 9 月 26 日 (火) 午後 1 時 30 分～2 時 30 分

平成 18 年 10 月 3 日 (火) 午前 10 時～11 時

平成 18 年 10 月 24 日 (火) 午後 1 時 30 分～2 時 30 分

##### エ 内容

保健師の話：検査結果の見方、病態について、これから予測される体の変化など

栄養士の話：自分の適量、手ばかり栄養法

個別健康相談 (1 人 15～30 分程度)：生活習慣の振り返り。

関心期→準備期への促し

##### オ 従事者

保健師・管理栄養士

##### カ 実施状況

参加者の状況 参加人数 19 名 (男性 2 名、女性 17 名)

<内訳 (重複あり)> 高脂血症 13 名、糖尿病 3 名、肥満 3 名、

高血圧 2 名、貧血 2 名

##### キ 結果・まとめ

今年度初めての試みであったが、集団健康教育にて一般的な知識の普及と、個別で自分の生活習慣の振り返りをしながら相談を行なえたので、この体制はよかったと思われる。申込み制であったため、興味のある人、危機感のある人が多く、生活習慣を健康的に改めたいと感じている人がほとんどであった。自分の適量がわかった、改善の余地がありそうなどの感想があがった。

## (5) 男性のための元気UPヘルシーライフ教室

### ア 目的

定年を迎える頃の男性が、①体を動かす楽しさ・栄養の知識を知り、自分の体に向け、健康づくりの意識が向上できる。②地域の人と交流を持ち新しい人間関係を築き、地域活動に目を向けるきっかけとする。

### イ 対象者

50歳以上の男性

### ウ 参加者

17人（50歳代:3人 60歳代:9人 70歳代:5人）

（内基本健康診査要指導・要医療:10人）

### エ 日時・内容（61歳男性に勧奨通知）

日 程	内 容
1月18日(木) 13:30~15:30	楽しく・筋力UPエクササイズ ～ウエスト周り・内臓脂肪に効く!!～
1月30日(火) 9:30~13:00	簡単・おいしく男の料理 サヨウナラ生活習慣病！健康的な食事
2月6日(火) 9:30~12:00	セカンドライフの生きがい探索 ～例えばこんなセカンドライフ～

### オ 従事者

保健師・管理栄養士

健康運動指導士・NPO町づくり応援隊太助

### カ まとめ

楽しく体を動かす体験、手ばかり法、地域活動をしている住民との交流から、意欲が高まり参加者同士の和ができ自主活動へつながった。今後も継続的に活動がしていけるよう支援していきたい。



(6) 歩く健康のつどい

ア 目的

手軽にできる運動として『歩くこと』を通して、健康の保持増進・生活習慣病予防に努める。

イ 対象

一般住民

ウ 従事者

保健師（健康チェック・準備体操時のみ）

エ 日時・内容

月2回（第2・4火曜日）午前9時30分～11時

時 間	内 容
AM 9:30～9:45	健康チェック 血圧測定・検尿（第2火曜日のみ）
9:45～10:00	健康おおぐち2 1元気体操
10:00～11:00	1時間ウォーキング（主に五条川沿い）

オ 参加状況（単位：回・人）

年度	実施回数	実人数	参加延人数	1回平均参加者数
17	23	22	235	10.2
18	22	27	211	9.6

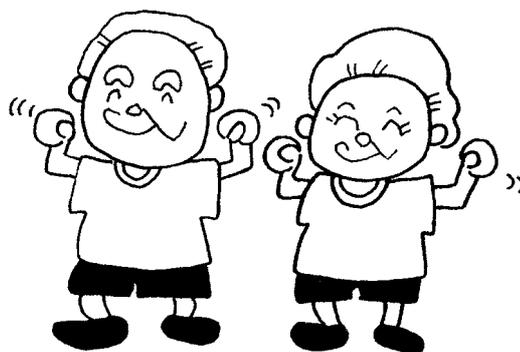
カ 健康チェック結果

血圧測定者結果（延べ人数）（単位：人）

血圧測定者 延べ数	正常域	境界域	高血圧域
211	132	61	10

キ まとめ

平成12年度から、定例以外（第1・3火曜日）の自主活動が継続されている。10月には自主活動にて町外ウォーキングを実施している。生活習慣病予防教室参加者などの、運動を始める場の一つとなっている。男性の参加者が常時おり、男性も参加しやすい形になっている。また、17年度からはメンバーの代表者、健康まつりのスタッフとして参加している。



(7) 広報『おおぐち』及び広報無線による啓発活動

ア 目的

疾病や生活習慣などに関する情報を広く住民に啓発し、広報「おおぐち」・広報無線を通じて健康意識の向上に努める。

イ 広報『おおぐち』掲載月および内容

掲 載 月	掲 載 内 容
平成 18 年 4 月号	アルコール「楽しく健康的に飲めるお酒の適量を知ろう」
平成 18 年 5 月号	食生活「毎日、野菜をたくさん食べよう」
平成 18 年 6 月号	歯「いつまでも自分の歯で食べよう」 6 月 4 日「虫歯予防デー」、6 月 4 日～10 日「歯の衛生週間」
平成 18 年 7 月号	健康おおぐち 21 啓発「ハッピー・スマッピー作り」
平成 18 年 8 月号	食生活「腹八分目で自分の適量を知ろう」
平成 18 年 9 月号	こころ「生きがいや楽しみをもとう」「ストレスとうまくつきあおう」 「がん征圧月間」 「結核予防週間」
平成 18 年 10 月号	運動「自分に合った運動習慣を身につけよう」 「食生活改善普及月間」 ・食生活改善チェックと栄養相談の紹介
平成 18 年 11 月号	食生活「塩分を減らそう」
平成 18 年 12 月号	歯「 <sup>はちまるにいまる</sup> 8020 運動コンクール表彰者発表」・表彰者の 8020 の秘訣 マタニティマークをご存知ですか？ インフルエンザの予防
平成 19 年 1 月号	運動「日常生活の中で意識して動こう」
平成 19 年 2 月号	食生活「よくかんで食べよう」
平成 19 年 3 月号	たばこ「たばこの害を知ろう」

\* 毎月、「みんなですすめる 健康おおぐち 21」と題し、健康おおぐち 21 計画推進状況や 5 分野のはじめの一步を掲載した。

\* 4 月号より日々の生活の中で健康のために気をつけていることを紹介する「私の健康」コーナーを設け、6 月号より大口俳句会・大口川柳クラブの協力により「こころ」の健康づくりの一つとして、健康俳句と健康川柳を掲載した。

ウ 広報無線

「健康おおぐち 21」の周知と内容の啓発として、随時、各分野のワンポイントアドバイスを流した（運動 4 回、食生活 5 回、こころ 4 回、たばこ 4 回、アルコール 4 回、歯 4 回）。平成 18 年 12 月から平成 19 年 2 月には「インフルエンザの予防」について、2 月には「生活習慣病予防週間」について周知した。

「広報おおぐち」掲載記事（抜粋）

広報おおぐち 平成 18 年 5 月号

広報おおぐち 平成 18 年 7 月号

広報おおぐち 平成 19 年 1 月号

(8) 要請による健康教育

事業名 (依頼団体)	実施月日	実施内容	参加人数 (スタッフ)
大屋敷区高齢者 ふれあい会 (大屋敷区)	5月7日	健診を受けよう！(基本チェックリストの説明) 「介護予防について」「頭を使った体操」	75人 (保健師)
外坪老人クラブ	5月10日	健診を受けよう！(基本チェックリストの説明) 「介護予防について」「貯筋体操」 「健康おおぐち21元気体操」「頭の体操」	45人 (保健師)
上小口 寿楽会	6月15日	健診を受けよう！(基本チェックリストの説明) 「介護予防について」 「健康おおぐち21元気体操」「貯筋体操」	40人 (保健師)
さわやか会 (秋田老人クラブ)	6月20日	健診を受けよう！(基本チェックリストの説明) 「介護予防について」 「健康おおぐち21元気体操」「貯筋体操」	54人 (保健師)
御供所老人クラブ	8月25日	「介護予防について」 「血圧測定」「握力体操」「貯筋体操」	24人 (保健師)
	3月16日	「介護予防について」 「健康おおぐち21元気体操」「筋肉体操」	25人 (保健師)
高齢者教室 「さくら大学」	毎月1回	教室開始前の元気体操 随時、健診等の啓発	毎回30人 程度
東海理化新任研修	7月13日 7月20日 7月27日	新入社員に対する「食生活改善活動」 健康おおぐち21について メタボリックシンドロームについて 手ばかり栄養法を用いた適量と外食栄養成分表示 について など	77人 (管理栄養士・保健師)
児童センター 「なかよし」	6月6日 6月13日 7月4日	母親の健康について 女性のがんについて、乳がん自己検診法 生活習慣について 親子バランスチェック	51人 (保健師)
南小学校	9月8日	元気体操の指導	383人 (保健師)
ほほえみ会 (健康推進員OB会)	2月15日	「健康推進員活動の効果・大口町の現状・生活改善」 「健康な生活ができる食生活・野菜を食べよう」 旬の野菜レシピを使った調理実習	15人 (保健師・管理栄養士)
さわやか会 (秋田老人クラブ)	3月28日	「介護予防について」 「健康おおぐち21元気体操」 「筋力体操」「頭の体操」	64人 (保健師)

## (9) 健康教育実績

(単位：回・人)

区分 事業	事業名	対象	回数	参加延人員
年間計画による事業	ステップアップ生活習慣病予防教室	一般住民	7	128
	ステップアップ高脂血症予防教室(同窓会)	一般住民	1	7
	生き生き体操	一般住民	8	185
	男性のための元気UP&ヘルシーライフ教室	50歳以上の男性	4	50
	歩く健康のつどい	一般住民	22	211
	乳がん検診時健康教育	成人女性	8	255
	わかば健診時健康教育	20歳から39歳	2	121
	わかば健康診査結果説明会	20歳から39歳	4	18
	ふれあいまつり時健康まつり	一般住民	1	600
	ウォーキング大会	一般住民	1	374
	住民検診時体力測定	一般住民	11	299
	町民体育祭	一般住民	1	100
	健康クラブ「笑顔21」	一般住民	12	120
要請による事業	健康推進員地区活動 ※1	地区住民	12	295
	ほほえみ会健康教育	ほほえみ会員※2	1	15
	老人クラブ	老人クラブ員	7	327
	高齢者教室「さくら大学」	高齢者	12	360
	南小学校元気体操指導会	南小学校教諭・生徒	1	383
	児童センター「なかよし」時	成人女性(母親)	3	51
	東海理化新任研修時	東海理化社員	3	77
合計		—	121	3,976

※1 保健師・管理栄養士が携わった活動のみ

※2 「ほほえみ会」は、第1・2・3期健康推進員のOB会

(10) 生活習慣病予防教室のあゆみ

年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
動機 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H9年度から集団・個別方式で行っている「ステップアップ教室」のテーマを基本健診で最も異常の多い高脂血症にし、生活習慣改善を運動実践に重点を置いて実施。</li> <li>・高齢者は筋力トレーニングいきがい活動を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病予防のための生活習慣改善に再び重点をおき、対象者の幅を広げ実施。</li> <li>・年代別の健康問題やニーズに合わせ生活習慣病予防教室を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度同様、糖尿病に重点を置いた。教室の名称に「予防」を加え、要医療・要指導以外の関心のある方にも対象を広げた。</li> <li>・高齢者対象、筋力トレーニング、心身ともに健康的なライフスタイルのヒントになるよう講義。</li> <li>・生活能力チェックで運動の動機付けを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本健診で最も多高脂血症を取り上げた。基本コース(全3回)、実践コース(全8回)で、本人の行動ステージに合わせ2コースに分けた。前者では、啓発を後者では行動変容・継続までを目標に実施した。</li> <li>・楽しく体を動かすきっかけづくりとして教室実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度よりメタボリックシンドロームの方の生活習慣改善をめざす。</li> <li>・生活改善の継続支援の為教室のOB会を実施</li> <li>・楽しく体を動かすきっかけづくり</li> </ul>
内容	<p>「元気アップ教室～高脂血症編～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6回コース、高脂血症予防の栄養知識と運動実技「元気はつらつ教室」</li> <li>・65歳以上対象、6回1コース、筋力トレーニングと「健康」をテーマとしたグループ学習。</li> <li>「魅力アップ講座」</li> <li>・20歳・30歳代健康づくり、3回1コース、運動、栄養、休養について講義と実技を実施。</li> </ul>	<p>「ステップアップ糖尿病教室」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8回コース、生活習慣の見直し、栄養・運動の実践へ集団・個別方式で実施。</li> <li>「元気はつらつ教室」</li> <li>・65歳以上対象、6回コースで筋力トレーニングと食生活、おしゃべり、歯の講義。</li> <li>「健康ライフセミナー」</li> <li>・50～60歳代対象、3回1コース、運動実技と健康管理、生き方、生活情報等の講義。</li> <li>「魅力アップ教室」</li> <li>・20～30歳代を対象に、3回1コースで運動実技とメイク法、食生活、カラーコーディネート講義。</li> </ul>	<p>「ステップ・アップ糖尿病予防教室」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8回コース、生活習慣の見直しと、栄養・運動の実践へ集団・個別方式で実施。</li> <li>「元気・はつらつ教室」</li> <li>・65歳以上対象、6回コースで筋力トレーニングと、高齢期のライフスタイルについての講義、歯・食生活の講義と実習を取り入れた教室を実施。</li> <li>「元気はつらつでいましょう会」</li> <li>・生活能力チェック・歯の健康教育を3地区で実施</li> </ul>	<p>「ステップ・アップ高脂血症予防教室」</p> <p>基本コース:全3回(実践コースの2・3・4と合同で実施。医師・運動指導士・管理栄養士の講演から学ぶ。)</p> <p>実践コース:全8回(集団個別方式で、学びを生活レベルに掘り下げて行動変容につなげていった。参加者の10年後の目指す姿に寄り添い実施。終了後、継続支援実施。)</p> <p>「生き生き体操教室」</p> <p>国保の補助事業として実施。速めのテンポで楽しい会話を交えた体操。元気体操も実施。</p>	<p>「ステップ・アップ生活習慣病予防教室」前年度と同じ2コース。メタボリックシンドロームに対象者を絞り前年度カリキュラムを生かし実施。運動実践の支援では生活の中に運動を取り込みやすいよう媒体を工夫。</p> <p>「ステップ・アップ高脂血症予防教室同窓会」17年度の受講者の事後フォロー。間食、水分摂取をゲーム感覚で学びなおし、基本健診結果を振り返りお互いの頑張り発表。</p> <p>「生き生き体操教室」昨年好評の為実施したが脱落者も多く運動強度の調整が必要。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報に生活習慣病予防チェックや食習慣チェックを掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報に、好評であった元気はつらつ教室の様子を紹介</li> <li>・健康おおぐち21検討部会に、元気アップOB会の代表者2名参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報で健康おおぐち21推進に関する健康教育を掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報の「みんなで進める健康おおぐち21」のページに健康教育掲載。</li> <li>・広報無線にてワンポイントアドバイスを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングマップの中に動機付けとなる教育内容を盛り込む</li> <li>・広報・広報無線での健康教育も継続</li> </ul>

## 8 健康相談

健康相談事業は、住民が抱えている健康問題に対して、生活習慣改善を中心に実施している。定例の健康相談（毎週金曜日）に加えて、随時電話相談や健康相談を行い、より住民の健康的な生活を支援できるよう努めている。

### (1) 健康相談

#### ア 目的

健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

#### イ 対象

一般住民

#### ウ 日時及び場所

毎週金曜日 午前9時30分から11時30分 保健センター 相談室  
随時

#### エ 内容

血圧測定 尿検査 日常生活相談 栄養相談（希望者のみ）等

#### オ 従事者

保健師 管理栄養士

#### カ 実施状況

	実施回数	延べ相談者数	栄養相談（再掲）
毎週金曜日	23回	33人	0人
随時	29回	39人	0人

<相談者内訳>

相談者内訳		血圧域区分			
39歳以下	40歳以上	正常域	境界域	高血圧域	未実施
1人	71人	31人	26人	12人	3人

### (2) 電話相談・面接

#### ア 目的

電話相談・面接を通して日常生活の不安を取り除き、健康の保持増進につなげる。

#### イ 対象

一般住民

#### ウ 従事者

保健師 管理栄養士

エ 実施状況

(ア) 電話相談 330 件

(イ) 面接相談 36 件

<内訳>

<内訳>

内 容	件 数
幼 児	124 件
予 防 接 種	73 件
乳 児	66 件
精 神	20 件
生活習慣病関係	16 件
妊 婦	11 件
長期療養児	6 件
難 病	1 件
そ の 他	13 件

内 容	件 数
生活習慣病関係	12 件
妊 婦	6 件
乳 児	4 件
幼 児	3 件
精 神	3 件
予 防 接 種	2 件
産 婦	1 件
結核要観察	1 件
そ の 他	4 件

栄養電話相談（再掲） 1 件

栄養面接相談（再掲） 7 件

(3) 住民検診時健康相談

ア 目的

健康相談を通して日常生活を見直し、健康の保持増進につなげる。

イ 対象

住民検診受診者

ウ 日時及び場所

6 月 27 日から 6 月 30 日までの住民検診実施期間 10 地区会場と保健センター

エ 内容

検診結果（胸部レントゲンを除く）説明 健康手帳の発行  
健康管理台帳を参考にした保健指導および日常生活相談 栄養相談  
（必要に応じて医療機関の受診勧奨または事後相談を勧める）

オ 従事者

保健師 管理栄養士

カ 実施状況

実施回数	相談者数（栄養相談再掲）
11 回	406 人（13 件）

※1 会場を 1 回とする。

<内訳>

内訳		血圧域区分			
39 歳以下	40 歳以上	正常域	境界域	高血圧域	未実施
0 人	406 人	250 人	110 人	46 人	0 人

<栄養相談内容（重複あり）>

- ・高脂血症 5人      ・高血圧 1人      ・肥満 1人
- ・糖尿病 5人      ・貧血 2人      ・夏バテ 1人

(4) 住民検診後の事後相談

ア 目的

健康状態を把握し、必要に応じて医療機関の受診を勧奨する。

イ 対象

住民検診の結果、血圧や尿検査の再検査が必要と認めた者

ウ 日時及び場所

住民検診後のがん検診時      がん検診会場（保健センター）

エ 内容

血圧測定 日常生活に関する相談

オ 従事者

保健師

カ 実施状況

実施回数	相談者数	血 圧 域 区 分			
		正常域	境界域	高血圧域	未実施
5回	182人	112人	38人	16人	16人

※半日のがん検診を1回とする。

(5) 医師による健康相談

ア 目的

健康状態をより具体的に正しく把握し、必要な場合受診を勧奨する。

イ 対象

一般住民

ウ 日時及び場所

平成18年11月7日（火） 午後1時30分～2時30分

保健センター 相談室

エ 内容

血圧測定 日常生活や治療に関する相談

オ 従事者

医師 保健師

カ 相談内容

相談者	内容
34歳（男）	高脂血症について

(6) 健康教育時健康相談

教室名	実施回数	延べ人数
歩く健康の集い	22回	211人
ステップアップ生活習慣病予防教室	7回	117人
ステップアップ高脂血症予防教室（個別相談）	6回	15人
男性のための元気UPヘルシーライフ教室	4回	46人
わかば健診事後	4回	18人
生き生き体操	8回	180人
ひだまりの会（中小口）	23回	183人
しなやかお達者教室（余野）	22回	163人
しなやかお達者教室（豊田）	19回	176人
老人クラブ	2回	54人
健康推進員地区活動	2回	35人
ふれあいまつり時（健康まつり）	1回	32人
国際フォーラム時	1回	15人
合計	121回	1,245人

(7) 骨密度測定時の事後健康相談

内容	回数	延べ人数
健康相談	4回	187人

※半日を1回とする。



## 9 介護予防事業

要介護の発生を予防または、要介護状態になるのを遅らせるために効果のある教室を実施する。

### (1) しなやかお達者教室（豊田地区）～新地区の立ち上げ～

#### ア 目的

教室に参加することにより、筋力低下や転倒を防ぎ、身体機能全般の維持・向上を図る。また、仲間同士の交流等により心身の活性化を図る。

#### イ 対象者の選定・教室勧奨方法

豊田地区の75歳以上の方で（要介護認定をうけている方を除く）民生委員が「やや虚弱」と思われる対象者を選定

80歳以上は、保健師が訪問にて現状を把握し教室を勧奨

75～79歳は民生委員に教室の紹介をしてもらい、参加見込みのある方に保健師が訪問

（その他、広報にて教室開催の周知し募集もおこなう）

\*訪問件数：39件（79歳以下：6名 80歳以上：33名）

#### ウ 実施日時

平成18年10月31日～平成19年1月30日

全12回 \*毎週火曜日 午前10時～11時30分

#### エ 会場 豊田学共施設

#### オ 参加者 14名

1回平均8.5人

参加者平均年齢：80.4歳

最高齢者：84歳（継続者の内）

#### カ スタッフ 看護師2名（訪問看護ステーションハートフル大口に委託）

保健師2名 運動指導員

ボランティア（民生委員2名・健康推進員3名・一期一会荘スタッフ）

#### キ 実施内容

- ① 保健師による体調チェック（血圧・自覚症状・1週間の様子等）
- ② しなやかおたっしや教室の歌・今月の歌
- ③ 21元気体操
- ④ 上腕・握力体操（にぎにぎ・ボールを使って レクリエーションを兼ねて）
- ⑤ 椅子に座っての筋力トレーニング  
（8種目：腹筋・背筋・内転筋・前脛骨筋・大腿四頭筋・外転筋群  
下腿三頭筋・上腕二頭筋） \*段階を踏んで回数を増やす
- ⑥ レクリエーション（ボールを用いて2人ペアでのボールの受け渡し等）
- ⑦ クールダウンの体操 愛知県「元気体操」

- ⑧ さよならの歌
- ⑨ 終了時の体調チェック（希望者は血圧測定）

\* スタッフカンファレンス

効果測定のため、日常生活体力測定（1回目と11回目）を実施

\* 配慮したこと等

- ・ 教室開始前と終了時に体調の確認をし、体調にあわせての実施を促した
- ・ 教室中に水分補給をするよう給水タイムをもった（お茶は各自持参）
- ・ メニューの実施方法の理解が難しい人には声掛けをおこなったり、スタッフが参加者の間に入ったりし、個々への配慮をおこなった

ク 評価方法

① 体力測定

- ・ 5 m 全力歩行・最大一步幅（健脚度）
- ・ 握力（上腕筋力）
- ・ 開眼片足立ち（バランス能力）
- ・ 長座体前屈（柔軟性）
- ・ 足指間圧力（下肢筋力）

② 日常生活状況（アンケート・聞き取りにて）

ケ 結果

① 身体状況

ほとんどの参加者が、血圧の薬を内服しており、教室中の血圧は安定していた。

② 体力測定

実施者数 教室 1回目（10月）：12名 教室11回目（1月）：7名

日常生活活動効果判定平均値（5名） \*両方を実施した5名についての比較

実施日	5 m 歩行	最大一步幅		握力			開眼片足立ち		足指間圧力		長座体前屈 (cm)
	時間 (秒)	右脚 (cm)	左脚 (cm)	右 (kg)	左 (kg)	平均 (kg)	右足支持 (秒)	左足支持 (秒)	右 (kg)	左 (kg)	
1回目 (10/30)	4.48	66.5	69.3	16.3	16.1	16.2	12.6	10.6	1.56	1.82	7.56
11回目 (1/31)	4.48	72.4	70.4	15.8	14.2	15.0	15.4	8.8	1.9	1.46	7.19
変化	0	5.9	1.1	0.5	1.9	1.2	2.8	1.8	0.34	0.36	0.37
P値	0.5	0.07	0.39	0.21	0.07	0.1	0.06	0.19	0.17	0.2	0.43

・ Wilcoxon の符号付順位検定 \*P<0.05

③ 日常生活状況（アンケートにて）

\* 教室最終回に実施：8名分

	楽になった 変わった	変わらない	以前より楽	わからない
歩くことが楽になった	5	3	0	0
歩く距離が増えた	3	5	0	0
階段の昇り降りが楽になった	1	5	0	0
立ち座りが楽になった	2	6	0	
外出回数が増えた	4	3		0
普段の生活が変わった	2	6		
生活が明るく前向きになった	6	1		
交友の輪が広がった	8	0		0
他の参加者と話をするようになった	8	0		0

\*階段は昇らない(2)

\*減った(1)

\*思わない(1)

### コ 考察

教室終了後もほぼ全員の参加者が継続を希望されており、2～3月は計7回実施した。

教室参加当初と比べて、参加者の表情がにこやかになり、参加者同士の交流が自然に行なわれていたり、歌詞カードを配るなどの役割にも積極的に動かれるようになった。

参加者の選定から教室終了まで民生委員の協力もあり、毎回2～3名の参加をいただき、参加者にとっても心強く、また民生委員にとっても誘った方の様子を確認でき、教室の意義を感じていただけたように思う。

今後、民生委員等と連携を図り、またボランティアの育成・支援をしながら地域に根付いた活動へ発展できるような取り組みが重要だと思われる。

### (2) ひだまりの会(中小口)・しなやかお達者の会(余野・豊田)

ア 目的 しなやかお達者教室(豊田地区)と同じ

介護予防地域支援事業の一般高齢者施策として実施

イ 対象者 高齢者

ウ 日時及び場所

毎月 第2・4金曜日 午前9時30分～12時 中小口地区コミュニティーセンター

毎月 第2・4月曜日 午前9時30分～12時 余野区学習等共同利用施設

毎月 第2・4火曜日 午前9時30分～12時 豊田地区学習等共同利用施設

※豊田地区は12回の教室終了後、参加者、ボランティアからの継続希望があり、自主活動として平成19年2月から7回実施。

エ 内容

中小口地区

時 間	内 容
9:00～ 9:30	会場準備
9:30～ 9:45	事前打ち合わせ
9:45～10:15	健康チェック（血圧測定）
10:15～10:40	歌（ひだまりの会の歌・今月の歌）・みんなの体操・鳴子体操
10:40～11:20	生きがい活動（遊びりテーション・作業療法等）
11:20～11:30	お茶タイム 後教室終了
11:30～12:00	カンファレンス（反省と次回予定）

余野地区

時 間	内 容
9:00～ 9:30	会場準備
9:30～ 9:45	事前打ち合わせ
9:45～10:15	健康チェック（血圧測定）
10:15～10:40	歌（ひだまりの会の歌・今月の歌）・みんなの体操・鳴子体操
10:40～11:20	生きがい活動（遊びりテーション・作業療法等）
11:20～11:30	お茶タイム 後教室終了
11:30～12:00	カンファレンス（反省と次回予定）

オ 従事者

中小口：運動指導士(各2回/年)・保健師・ボランティア

余 野：運動指導士(各2回/年)・保健師

豊 田：運動指導士・保健師・看護師・民生委員・ボランティア

カ 参加状況

地 区	回数	参加実人数		参加延人数		平均参加者数	
		対象者	ボラン ティア	対象者	ボラン ティア	対象者	ボラン ティア
余 野	23回	15人	2人	224人	5人	9.7人	0.2人
中小口	23回	7人	8人	111人	113人	4.8人	4.9人
豊 田	7回	17人	8人	55人	21人	7.9人	3人

※豊田地区はしなやかお達者の会終了後の回数・参加者を計上

キ 年齢別区分

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
中小口	—	5人	1人	1人	7人
余 野	1人	8人	6人	—	15人
豊 田	—	9人	9人	—	18人

## ク まとめ

中小口：今年度は自主活動化し運営の主体はボランティア中心とし、参加者の健康管理を看護師が実施した。保健センターは主に後方支援と体力測定での事業評価をした。会が開始され6年が経ち、ボランティアや参加者の意識や意欲が共に高まっている。アイデアやノウハウを生かすことで、今後は下肢の筋力トレーニングを取り入れながら、元気で長生きできる場づくりを目指していきたい。

余 野：筋力トレーニング主体で実施してきたことにより、筋力トレーニング効果が一人一人に見られ、効果を個別に返すことで新たなやる気へとつながっている。会場設定、運営も参加者主体で進められている。下肢筋力の向上による転倒予防や会話や交流の場として、参加者相互に気遣い楽しく温かく励ましあう和が地域の中で広がりつつある。



# 10 保健師活動報告

常勤・非常勤・課長職等

所屬機関		大口町保健センター				<input checked="" type="checkbox"/> 地域保健部門 <input type="checkbox"/> 地域福祉部門等					
保健師数		実人員 5人		実働 5人		報告期間					
時間外勤務(再掲)		○ 単位		○ 単位		<自> 18年4月 <至> 19年3月					
別掲	常勤以外		○ 単位		II 家庭訪問		III 面接	IV			
	課長職		○ 単位				被指導人員	電話			
I 業務内容		種別		被指導人員		率		被指導人員	電話		
		単位数		率		実		延	被指導人員		
		* 感染症		0	0	0	00%		0		
		結核		0	0	0	00%		0		
		結核要観察		0	0	0	00%		0		
管理	調査研究	0	00%	精神障害	0	0	0	00%		0	
	地区管理	518	220%		虐待	0	0	0	00%	0	
保	家庭訪問	142	60%	その他	0	0	0	00%	0	20	
	健康相談	203	88%		その他	0	0	0	00%		
健	保健指導	33	15%	心身障害	18歳未満	1	1	0	04%		
	デイケア	0	00%		18~39歳	8	8	0	29%	0	
福	健康診査	507	218%		40歳以上	22	29	0	104%		
	健康教育	481	205%	慣生活習	39歳以下	2	2	0	07%		
社	地区組織活動	39			40歳以上	40	40	0	143%	61	237
	事	機能訓練	0	00%	難病		0	0	0	00%	0
業		予防接種	59	25%	* 母子保健	長期療養児	2	2	0	07%	0
	会	その他	33	14%		乳児	新生児	17	15	0	54%
会議		160	68%	未熟児			6	5	0	18%	2
コ	会議以外	26	1.1%	その他		84	78	0	279%	4	
	研修企画	8	03%	幼児	27	24	0	88%		73	
研	実習指導	32	14%	妊婦	0	0	0	00%	0		
	医療監視等	0	00%	産婦	74	65	0	232%	0		
業	業務管理	0	00%	家族計画	0	0	0	00%	0		
	業務連絡・事務	33	14%	D V	0	0	0	00%			
研	研修参加	89	38%	公害保健	0	0	0	00%			
	その他	24	10%	原爆被爆者健康診断要指導者	0	0	0	00%			
計	計	2350	100%	その他	0	0	0	00%	0		
				その他	0	0	0	00%			
V コーディネート		会議		会議以外							
		個別	地域	個別	地域						
						その他	13	11	0	39%	
延課題件数	結核	0	0	0	0	計		296	280	0	100%
	精神	0	0	0	0	(家庭訪問再掲)					
	老人	0	0	0	15	実					
	母子	0	0	30	23	延					
	難病	0	0	0	0	*	エイズ	0	0		
	障害児(者)	0	0	10	8		児童	0	0		
その他	0	0	0	24	(再掲)	高齢者	0	0			
計	0	0	40	70	**	その他	0	0			
延関係機関(者)数	医師会等	0	0	1	2	虐待予防		4	5		
	医療機関	0	0	13	11						
	福祉関係機関	0	0	34	12						
	保健関係機関	0	0	17	11						
	教育関係機関	0	0	0	11						
	その他	0	0	1	0	不在件数		2	件		
計	0	0	66	52	不明件数		0	件			

注  
★会議は地域保健部門以外の者が計上する

## 11 栄養士活動報告

区 分		業 務 内 容	件数	人員	時間	%	
栄 養 指 導 業 務	母 子	健康相談	個別指導、電話相談など	52	148	91	4.9
		家庭訪問		0	0	0	0.0
		健康教育	各種健診・栄養教室など集団指導	45	717	105	5.7
		業務推進	各事業の計画・準備・片付け・評価、献立作成、情報収集、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ、乳幼児健診等の受付・計測・カンファレンス、通知作成、事務連絡等			263	14.2
		小 計	母子保健関係小計	97	865	459	24.8
	成 人 ・ 老 人	健康相談	個別指導、電話相談など	35	70	68	3.7
		家庭訪問		0	0	0	0.0
		健康教育	各種栄養教室の集団指導、各種健康教室など	16	230	47	2.5
		業務推進	各事業の計画・準備・片付け・評価、献立作成、情報収集、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ、事務連絡等			215	11.6
		小 計	成人保健関係小計	51	300	330	17.8
	地 区 組 織 ・ 依 頼 等	養 成	栄養教室など	8	161	30	1.6
		育 成	健康推進員活動・各自主活動等の事前うち合わせ	10	27	16	0.9
		業務推進	地区組織等による活動に関する準備・片付け・評価、献立作成、資料作成及び配布、スタッフうち合わせ等			63	3.4
		小 計	地区組織・依頼等小計	18	188	109	5.9
	小 計	健康相談		87	218	159	8.6
		家庭訪問		0	0	0	0.0
		健康教育	地区組織等の養成・育成を含む	79	1,135	198	10.7
		業務推進				541	29.2
	調 査・研 究	健康おおぐち21推進及び関係会議、事業の統計、保健活動のまとめ等			274	14.8	
会 議	会議全般（子どもの健康に関する連絡会・企業との連携・課内業務検討等）			24	1.3		
研 修	研修全般（市町村保健行政栄養士連絡会等の研修会・職員研修等）			26	1.4		
栄養業務関係事務	栄養業務に関する事務、業務報告、報告書など			565	30.6		
集団給食管理				0	0.0		
栄養指導業務等小計	栄養指導業務及び関係事務等			1,787	96.6		
そ の 他	栄養業務以外（主に、文書管理・各検(健)診事務等）			62	3.4		
合 計	総活動時間数			1,849	100.0		

\*9月までは正規職員、以降育休のため臨時職員

## 12 家庭訪問

### (1) 介護保険認定調査訪問

平成12年度4月介護保険導入後、福祉課とともに介護保険の申請をした人に対し認定調査を行っている。健康課が主に更新、変更分、福祉課が新規分の調査を行なう。

ア 対象 40歳以上の介護保険対象者で、常時介護や支援が必要と思われ、介護保険の認定を申請した人

イ 申請窓口 福祉課

ウ 申請人数 延人数584人（新規 105人、更新 436人、変更 43人）  
実人数418人

エ 健康課の訪問 延人数 486人

オ 介護認定調査者の状況(実人員) 平成19年3月31日現在

#### (ア) 地区別 (単位：人)

地区	健康課分	福祉課分	全体
秋田	48	5	53
豊田	60	6	66
大屋敷	60	11	71
外坪	25	2	27
河北	33	9	42
余野	52	17	69
上小口	40	11	51
中小口	29	4	33
下小口	86	13	99
垣田	27	3	30
さつきヶ丘	19	4	23
町外	7	1	8
計	486	86	572

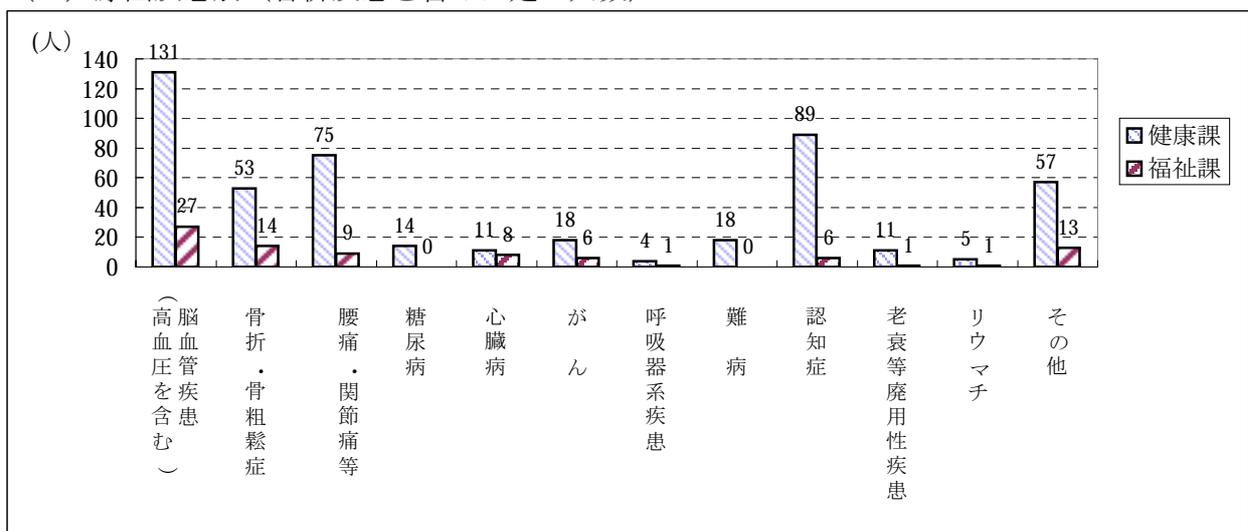
#### (イ) 性別 (単位：人・%)

性別	健康課分	福祉課分	全体
男	164 (33.7)	36 (41.9)	200 (35.0)
女	322 (66.3)	50 (58.1)	372 (65.0)
計	486 (100.0)	86 (100.0)	572 (100.0)

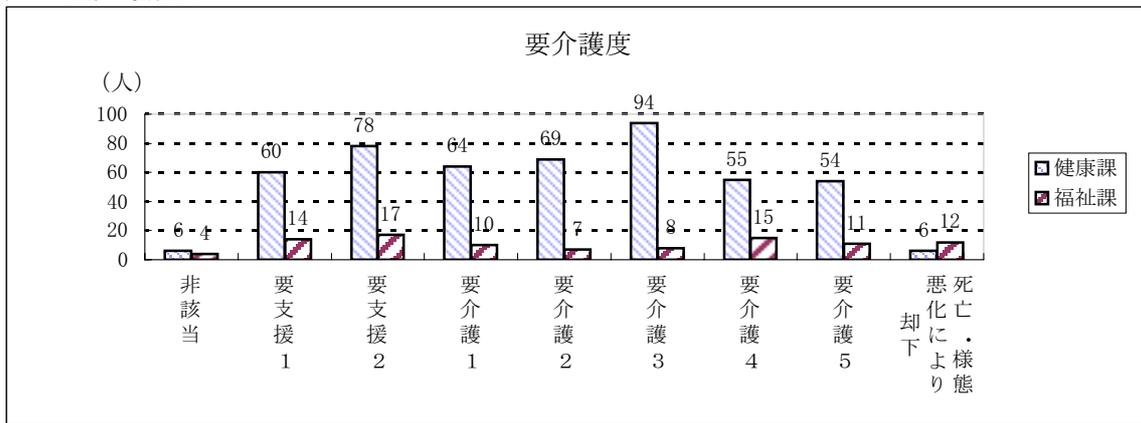
#### (ウ) 年齢別 (単位：人・%)

年齢	健康課分	福祉課分	全体
40～49歳	3 (0.6)	0 (0.0)	3 (0.5)
50～59歳	14 (2.9)	6 (7.0)	20 (3.5)
60～64歳	17 (3.5)	6 (7.0)	23 (4.0)
65～69歳	30 (6.2)	8 (9.3)	38 (6.6)
70～79歳	128 (26.4)	29 (33.7)	157 (27.5)
80～89歳	199 (40.9)	29 (33.7)	228 (39.9)
90歳以上	95 (19.5)	8 (9.3)	103 (18.0)
計	486 (100.0)	86 (100.0)	572 (100.0)

#### (エ) 原因疾患別 (合併疾患を含めた延べ人数)



(オ) 要介護度別



(カ) 治療中の疾患 (単位：人)

疾患名	健康課分	福祉課分	疾患名	健康課分	福祉課分
高血圧	161	16	精神疾患(安定剤含む)	37	3
脳血管疾患	128	32	パーキンソン病	20	2
腰痛・関節痛等	39	16	リウマチ	23	1
心臓病	64	14	泌尿器	6	5
糖尿病	65	14	白内障・緑内障	13	1
認知症	28	13	癌	21	9
腎臓病	6	0	服薬なし	51	2
骨粗鬆症	33	17	その他	98	17
呼吸器疾患	18	1			

(キ) 介護者別 (単位：人)

介護者	健康課分	福祉課分	全体
嫁	134	15	149
配偶者	127	28	155
息子又は娘	136	28	164
孫又は孫娘	2	2	4
その他	87	11	98
なし	0	2	2
計	486	86	572

(ク) 療養場所別 (単位：人)

療養場所	健康課分	福祉課分	全体
自宅	336	55	391
施設	80	4	84
入院	70	27	97
計	486	86	572

(2) その他の訪問 (単位：人)

	実人員	延べ人数
健康診査の要指導者	16	16
閉じこもり予防	5	5
介護家族者	40	46
寝たきり者	2	2
認知症老人	3	3
その他(精神障害等)	1	1
計	67	73

健康診査の要指導者への訪問は、国保重複・多受診者で基本健診の結果が要指導の者や、がん検診の要精検者に対し訪問を行なった。

精神障害者(疑いを含む)への訪問は、福祉課の精神保健福祉士と連携を図り訪問を実施した。

## 4 齒科保健活動

# 1 歯科保健事業の取り組み

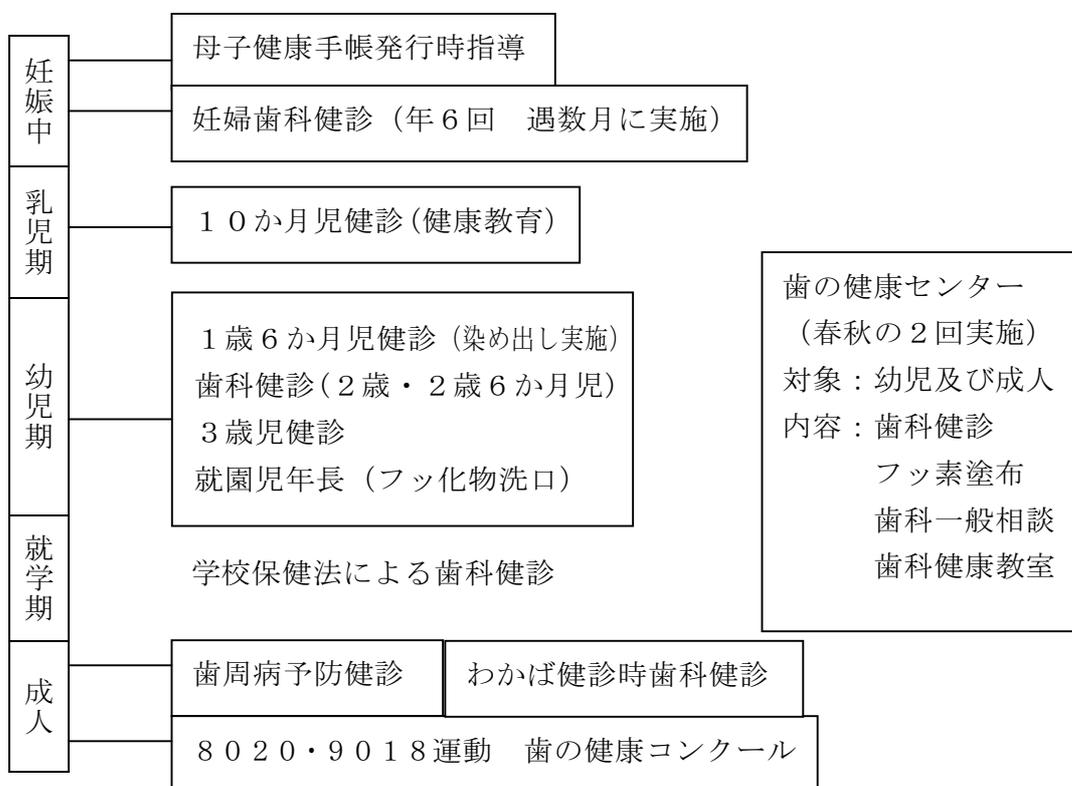
食事を十分に咀嚼し、健康で豊かな生活を維持するには、妊娠期からの歯科保健への取り組みが重要である。

妊婦歯科健診は、20・30歳代の歯周疾患の早期発見につながっていると同時に、胎児期の歯牙形成と食事の大切さを学び、子育てが始まる前の虫歯予防について学ぶ機会となっている。

また、歯は生えてから3年が虫歯になりやすく、食生活・生活リズム・正しい歯みがきが虫歯予防のポイントであるため、1歳6か月児健診・歯科健診・3歳児健診で歯科衛生士の健康教育と個別指導に力を入れフッ素塗布も実施し予防効果をあげている。18年度から、10か月児健診時に集団で「歯の手入れを始めよう」ということで歯科衛生士による健康教育を実施している。

成人歯科保健事業では、節目年齢の方へ歯周病予防健診、20代・30代の方へわかば健診を実施し、歯科健診と歯周疾患の予防を中心に歯科指導を行った。春秋に実施される歯の健康センターでの成人の参加者も増え、8020運動の歯の健康コンクールも定着し、表彰式を「ふれあいまつり2006」時に行い啓発効果をねらった。今後も健康おおぐち21の歯の目標である「いつまでも自分の歯で食べよう」「いつまでも明るく歯を出して笑おう」に向け、健康と歯のつながりを意識した取り組みを継続していきたい。

## 歯科保健管理体系



\* 必要、要請に応じ随時健康教育実施

## 2 幼児期歯科健康診査

### (1) 目的

歯牙が形成される乳幼児期に、歯の大切さと正しい衛生習慣を身につけるとともに、歯科健診・フッ素塗布を行ない、虫歯予防に努める。

### (2) 対象

1歳6か月児・2歳・2歳6か月児・3歳児

### (3) 日時

1歳6か月児健診時歯科健診 毎月第3火曜日 午後1時40分～  
 歯科健診(2歳・2歳6か月児対象) 毎月第3水曜日 午後1時00分～  
 3歳児健診時歯科健診 毎月第1水曜日 午後1時40分～

### (4) 内容

健康教育(ブラッシング法、生活リズムを整えて虫歯予防を)・健診  
 染め出し(3歳児健診を除く)・フッ素塗布・ジアミン銀塗布・個別指導

### (5) 従事者

歯科医師・歯科衛生士・保健師

### (6) 結果

#### ア 1歳6か月児健診時歯科健診

(単位：人・%・本)

種別 年度	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ 素 塗 布 者 数	塗銀		その他の要指導		
			O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他		
									総 数	一 人 あ た り						
14	261	252	71	176	5	0	0	5(2.0)	11	0.04	248	1	4	6	30	46
15	273	265	46	215	4	0	0	4(1.5)	14	0.05	261	4	14	1	27	53
16	246	239	34	202	3	0	0	3(1.3)	10	0.04	237	1	4	5	29	38
17	238	231	54	175	2	0	0	2(0.9)	3	0.01	230	1	2	2	27	60
18	212	205	46	152	7	0	0	7(3.4)	20	0.10	202	3	6	2	12	35

#### イ 歯科健診

(単位：人・%・本)

種別 年度	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ素 塗布 者数	塗銀		その他の要指導				
		O1	O2	A	B	C	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			処置 歯数	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他			
								総 数	一 人 あ た り								
14	320	66	220	24	9	1	34(10.6)	101	0.3	12	319	29	61	77	36	20	
15	376	120	229	24	3	0	27(7.2)	56	0.1	17	373	6	11	41	82	53	
16	374	143	198	26	3	4	33(8.8)	91	0.2	17	367	11	20	17	68	83	
17	320	101	211	6	1	1	8(2.5)	26	0.1	2	320	1	1	10	58	57	
18	345	95	231	14	3	2	19(5.5)	61	0.2	2	344	5	11	11	72	81	
内 訳	2歳	176	38	131	6	1	0	7(4.0)	20	0.1	2	176	2	4	5	35	47
	2・6歳	169	57	100	8	2	2	12(7.1)	41	0.2	0	168	3	7	6	37	34

ウ 3歳児健診時歯科健診

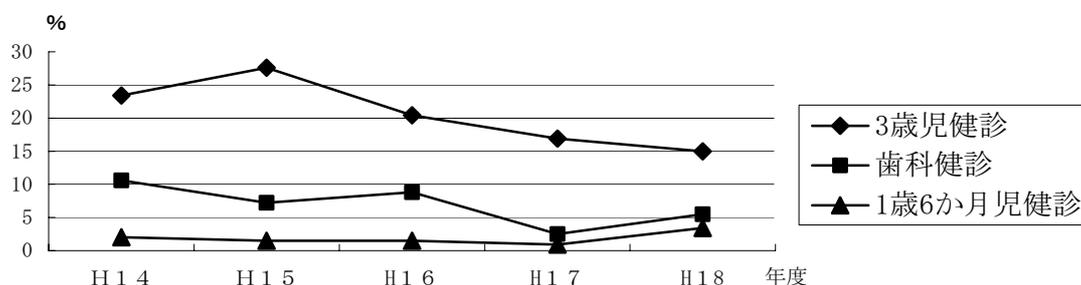
(単位：人・%・本)

種別 年度	対象者	受診 児数	受診結果					虫歯罹患状況			フッ 素塗 布者 数	塗銀		その他の要指導			
			O	A	B	C1	C2	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			処置 歯数	人	本	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他
									総数	一人あ たり							
14	268	248	187	36	22	0	3	58(23.4)	245	1.0	29	244	20	53	32	60	34
15	252	250	181	42	20	1	6	69(27.6)	285	1.1	28	237	14	58	20	48	32
16	242	230	183	32	13	1	1	47(20.4)	143	0.6	14	226	6	19	24	53	38
17	249	236	192	31	9	1	3	44(18.6)	137	0.6	20	236	5	6	8	30	48
18	244	232	197	24	8	0	3	35(15.0)	133	0.6	11	227	2	4	6	24	37

エ 年度別幼児期歯科健診実施状況(1歳6か月児健診・歯科健診・3歳児健診を合計)(単位：人・%・本)

種別 年度	受診 児数	虫歯の型別分類				虫歯罹患状況			フッ 素塗 布者 数	塗銀		その他の要指導			
		O (1,2)	A	B	C (1,2)	虫歯有病 者数(率)	虫歯本数			処置 歯数	人	本	指しゃ ぶり	歯列 咬合	その 他
							総数	一人あ たり							
14	820	720	65	31	4	100(12.2)	357	0.4	41	811	50	89	115	126	100
15	891	791	70	23	7	100(11.2)	355	0.4	45	871	24	83	62	157	138
16	843	760	61	16	6	83(9.8)	244	0.3	31	830	18	43	46	150	159
17	787	733	39	10	5	54(6.9)	166	0.2	24	786	7	9	20	115	165
18	782	721	45	11	5	61(7.8)	214	0.3	13	773	10	21	19	108	153

オ 健診別虫歯保有率の推移



染め出しを取り入れるなどの取り組みにより、虫歯保有率は低下している。3歳児健診では虫歯保有率が前年度より減少している。しかし、1歳6か月児、2歳、2歳6か月児で増加した。又、年齢があがるにつれ虫歯の本数は増加している。大口町では、1人が多数歯の虫歯を保持し、虫歯のある子とない子が2極化しているという現状にある。歯みがきだけでは限界があるため今年度、生活リズムを整えることの必要性を指導に取り入れた。歯科健診の受診率は2歳73.9%、2歳6か月児67.4%だった。数字からみると定着してきていると思われるが、この時期、虫歯の本数は増える傾向にあるので、全員受診を目指し、体の1部の歯という視点で19年度から対象を2歳3か月児とし、母子保健と歯科保健の両面から虫歯予防に取り組んでいく。

<う蝕罹患型>

- O1：う歯がなく、かつ口の中の状態がよいもの
- O2：今う蝕はないが、将来う蝕になりそうなもの
- A：上顎前歯部のみ、または臼歯部にう蝕のあるもの
- B：上顎前歯部及び臼歯部にう蝕のあるもの
- C：下顎前歯部にう蝕のあるもの
- C1：下顎前歯部のみう蝕のあるもの

### 3 妊婦歯科健康診査

#### (1) 目的

妊娠中は生活の変化やホルモンの影響などで虫歯になりやすく歯肉炎や口内炎もおきやすいため、妊婦の歯肉炎や虫歯の予防と早期発見に努める。

乳歯の質を決めるこの時期に歯科健診を受け、歯科保健について学習する機会をもうけ、生まれてくる子どもの虫歯予防の啓発とする。

#### (2) 対象 妊婦

#### (3) 日時 遇数月の第2金曜日 午後1時30分～3時30分（年6回）

#### (4) 内容

- ・ビデオ「おなかの中から始まる丈夫な歯育て」
- ・歯科検診                      ・ブラッシング指導（染め出し）                      ・歯の健康づくり得点
- ・講話 母と子の虫歯予防について

#### (5) 従事者

歯科医師 歯科衛生士 保健師

#### (6) 参加者の状況

##### ア 参加者数 (単位：人)

年 度	14	15	16	17	18
初産婦	54	50	45	32	22
経産婦	24	15	25	11	25
計	78	65	70	43	47

##### イ 健診結果 (単位：人・本)

区分 年度	受診者数	1人平均 健全歯数	1人平均 未処置歯 数 (D)	1人平均 喪失歯数 (M)	1人平均 処置歯数 (F)	1人平均 DMF歯 数	歯周疾患	
							あり	なし
16	70	18.4	0.7	0.2	9.5	10.4	49	21
17	43	18.1	0.9	0.8	9.8	11.5	25	18
18	47	17.3	1.1	0.1	9.7	11.0	25	22

##### ウ 歯周コード (単位：人)

0	1	2	3	4
4	18	12	13	0

##### エ 認知度 (単位：人・%)

	知っている	知らない
8020 運動	30(63.8)	17(36.2)
喫煙と歯周病	9(19.1)	38(80.9)

##### オ 判定結果 (単位：人)

異常なし	要指導	要精検	不明
10	14	21	2

## 4 わかば健診時歯科健診

### (1) 目的

20・30歳の若い年代から歯周疾患の早期発見と予防に努める。歯の健康に関し  
学び、正しいブラッシングの方法を身に付ける。

### (2) 対象

町内住民 20歳～39歳までの方

### (3) 日時

平成18年8月18日(金)

平成18年9月13日(水) いずれも午後1時～3時

### (4) 実施内容

歯科健診(2回目受診者)・ブラッシング指導(今年度初めての者)

### (5) 従事者

歯科医師 歯科衛生士 保健師

### (6) 歯科健診受診者状況 (単位：回・人)

区分 年度	実施 回数	受診者数			年齢別	
		総数	男	女	20歳代	30歳代
17	2	58	4	54	6	52
18	2	50	1	49	0	50

### (7) 診査結果

#### ア 歯牙・歯周診査結果

(単位：人・本)

受診者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯数	平均 現在歯数	平均 健全歯数
50	23	35	11.4	28.6	16.1

#### イ 歯周コード

(単位：人)

受診者数	0	1	2	3	4
50	15	0	32	3	0

#### ウ 総合判定

(単位：人)

受診者数	異常なし	要指導	要精検
50	2	18	30

ウ 8020運動、喫煙と歯周病の関係認知度 (単位：人・%)

	年度	知っている	知らない	
8020運動	17	50 (86.2)	8 (13.8)	未記入 1名
	18	45 (90.0)	4 (8.0)	
喫煙と歯周病の関係	17	18 (31.0)	40 (69.0)	未記入 2名
	18	26 (52.0)	22 (44.0)	

エ 自覚症状 (アンケートより 複数回答) (単位：人・%)

項目	回答者数
歯ぐきが腫れることがある	11 (22)
歯がしみることがある	15 (30)
歯ぐきから血がでることがある	10 (20)
口臭が気になる	10 (20)
歯の間に食物がはさまる	16 (32)
歯が痛むことがある	2 (4)
義歯が合わない	0 (0)
特に問題なし	13 (26)
その他	3 (6)

オ 普段気をつけていること (アンケートより 複数回答) (単位：人・%)

項目	回答者数
1日1回時間をかけて磨く	19 (38)
フッ素入りの歯磨剤を使用している	21 (42)
デンタルフロス、歯間ブラシを使用している	8 (16)
かかりつけ歯科医がいる	18 (36)
定期的に歯科の健康診査を受ける	11 (22)
歯の治療は早めに受けるようにしている	13 (26)
定期的に歯石除去を行なっている	14 (28)
その他	5 (10)

8020運動、喫煙と歯周病の関係の認知度が増加した。  
フロス使用状況が低いので補助具使用をすすめ、口腔清掃のレベルアップをはかる。

## 5 歯周病予防健診

### (1) 目的

成人歯科保健に対する意識を高め、歯周疾患の早期発見と予防に努める。  
歯の健康に関して学び、正しいブラッシングの方法を身につける。

### (2) 対象

平成18年10月31日までに満40・45・50・55・60・65・70歳の節目になる者

### (3) 日時・場所

平成18年7月1日～10月31日 町内歯科医療機関

### (4) 実施内容

口腔内及びその周辺診査・保健指導

### (5) 相談者状況

(単位：回・人)

区分 年度	実施 回数	相談者数			年 齢 別					
		総数	男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
16	2	15	1	14	0	1	5	4	5	0
17	2	14	4	10	0	0	2	3	5	4
18	期間中	総数	男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
		22	5	17	0	0	5	7	6	4

### (6) 診査結果

#### ア 歯牙・歯周診査結果

(単位：人・本)

相談者数	未処置の う歯のある者	歯周疾患の ある者	平均 処置歯本数	欠損補綴歯本数 (処置歯の再掲)	平均健全歯 数
22	10	22	13.4	29	8.0

\*欠損補綴歯…失われた歯を人工歯で補ったもの

#### イ 自覚症状

(アンケートより複数回答)(単位：人)

項 目	回答 者数
歯ぐきが腫れる	6
歯がしみることがある	5
歯ぐきから血がでる	4
口臭が気になる	3
歯の間に食物がはさまる	12
歯が痛むことがある	4
義歯が合わない	1
特に問題なし	5

#### ウ 普段気をつけていること

(アンケートより複数回答)(単位：人)

項 目	回答 者数
1日1回時間をかけて磨く	8
フッ素入りの歯磨剤を使用	4
デンタルフロス、歯間ブラシを使用	3
かかりつけ歯科医がいる	9
定期的に歯科の健康診査受診	3
歯の治療は早めに受ける	8
定期的に歯石除去をしている	2
その他	0

オ 残存歯数 (人・本)

	人数	平均本数
40歳代	5	27.2
50歳代	7	27.1
60歳代	6	23.8
70歳代	4	25.2
計	22	24.5

カ 歯周コード (単位：人)

	0	1	2	3	4
40歳代	0	1	2	2	0
50歳代	0	2	3	2	0
60歳代	0	1	2	3	0
70歳代	0	0	2	1	1

キ 8020運動、喫煙と歯周病の関係認知度 (人・%)

	知っている	知らない
8020運動	21 (95.5)	1 (5.0)
喫煙と歯周病の関係	6 (29.0)	15 (71.4)

未記入 1名

ク 総合判定 (単位：人)

相談者数	異常なし	要指導	要精検
22	3	4	15

(7) その他 歯の健康づくり得点集計・結果

妊婦歯科健診、わかば健診、歯周病予防健診、8020表彰、健康まつり、健康教育時に実施した。大口町の歯の健康状態の傾向を年代ごとに把握し、健康教育に役立て、歯の健康増進につなげていくことを目的としている。

ア 実施人数

妊婦歯科健診 47人 わかば健診 103人 (男8人)

健康教育「なかよし」23人 歯周病予防健診 15人 (男5人) 6人未提出

8020表彰 9人(男2人) 健康まつり 75人(男16人)

イ 歯の健康づくり得点で16点以上の者 (単位：人・%)

事業名	40歳未満		40歳以上	
	男	女	男	女
妊婦歯科健診		16		
わかば健診	2	28		
健康教育なかよし		6		
健康まつり	1	6	7	24
歯周病予防健診			2	4
8020表彰			2	6
合計	3 (30.0)	56 (31.1)	11 (52.4)	34 (49.3)

ウ 各項目で0点の者

( 単位：人)

事業名 項目	40歳未満						40歳以上					
	妊婦 歯科	わかば		なかよし	ま健康 つり		予歯 防周 病		08 表彰 2		ま健康 つり	
		男	女		男	女	男	女	男	女	男	女
歯ぐきがはれる	1	1	24	6	1	2	1	3	1	0	1	13
歯がしみる	6	1	40	11	1	8	2	3	1	0	4	10
趣味はありますか	11	2	36	6	2	6	1	3	0	0	1	10
間食をよくしますか	22	4	60	16	1	10	1	7	0	2	5	16
かかりつけの歯医者さんがある	13	4	29	8	2	4	2	6	1	0	2	12
歯の治療は早めに受ける	15	5	41	15	1	7	1	5	1	0	4	11
歯ぐきから血がでる	13	4	39	10	1	7	0	4	0	1	5	1
はみがきを1日2回以上	5	2	11	3	0	4	1	3	1	2	3	10
自分のはぶらしがありますか	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
たばこを吸いますか	0	3	4	1	1	3	0	0	0	0	2	2

妊娠期は口腔内の状態もバランスをくずしやすいため、口の中がすっきりせず間食が多くなる傾向がある。口腔内に自覚症状はあるが、歯科医院へ行くのが遅い、定期健診も行けない状況が伺える。理由として、結婚して大口町に来たばかりでかかりつけの歯科医院がない、小さい子がいるため自分のことは後回しになっている。

20代・30代の若い世代の傾向として、歯周病の初期症状がすでにみられる。データーが子育て中の女性が多数のため、子供と一緒に間食をする習慣がある、自分のことが後回しとなり口腔管理が疎かになりがちになる、自分の時間がなかなかつくれずストレスが多いのも口腔内の状態を悪くしていると考えられる。

40歳以上は母数が少ないため傾向としては見えにくいだが、間食をする習慣がある、歯磨きの回数が少ない、歯医者に行くのが遅い、歯周病の初期症状がある。母数を増やして傾向をみるために、老人クラブ等の集まり等で実施していきたい。

8020表彰者の方はやはり得点も高く理想的な生活習慣を送っている。この結果を生かし、若い年代に歯の大切さを啓発していきたい。

## 6 歯の健康センター

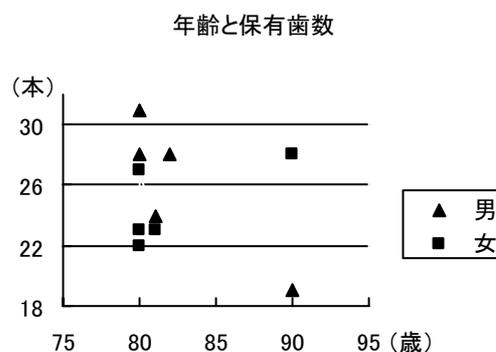
- (1) 目的 歯科保健に対する意識の向上と低年齢児のう蝕の予防、ならびに成人のう蝕・歯槽膿漏による歯の喪失の予防に努める。
- (2) 対象 幼児・成人
- (3) 日時 平成18年 6月 4日(日) 午前9時～11時30分  
平成18年10月29日(日) 午前9時～11時30分
- (4) 従事者 歯科医師 歯科衛生士 歯科助手 保健師
- (5) 内容 歯科健診 フッ素塗布 一般歯科相談 歯科健康教育
- (6) 受診状況 (単位：人)

実施年度	実施回数	受診者総数	受診者内訳	
			幼児	成人
平成14年度	2	667	581	86
平成15年度	2	642	551	91
平成16年度	2	537	463	74
平成17年度	2	390	315	75
平成18年度	2	371	294	77

## 7 はちまるにいまる きゅうまるいちほち 8020・9018運動 歯の健康コンクール

- (1) 目的  
生涯を通じた歯の健康づくりの一環として、80歳以上で20本以上の歯がある方・90歳以上で18本以上の歯がある方を表彰し、歯科保健への認識を高める。
- (2) 対象 町内在住の80歳以上の方、90歳以上の方
- (3) 審査方法 歯科医院において審査・歯周病予防健診時
- (4) 表彰日時 平成18年11月4日(土)「ふれあいまつり2006」にて
- (5) 表彰者 10名(男性4名 女性6名)
- ※ 今年度も老人クラブにも呼びかけることにより、対象者に周知した。
- ※ 表彰者の紹介を広報おおぐちに掲載した。
- ※ 応募者10名(表彰者10名 8020 8名 9018 2名)

	平均年齢(歳)	平均保有歯数(本)	平均健全歯数(本)	歯周コード(値・人)				
				0	1	2	3	4
8020	80.4	25.8	11.3	1	1	3	2	1
9018	90.0	23.5	12.5	1	1	0	0	0



## 5 健康推進事業

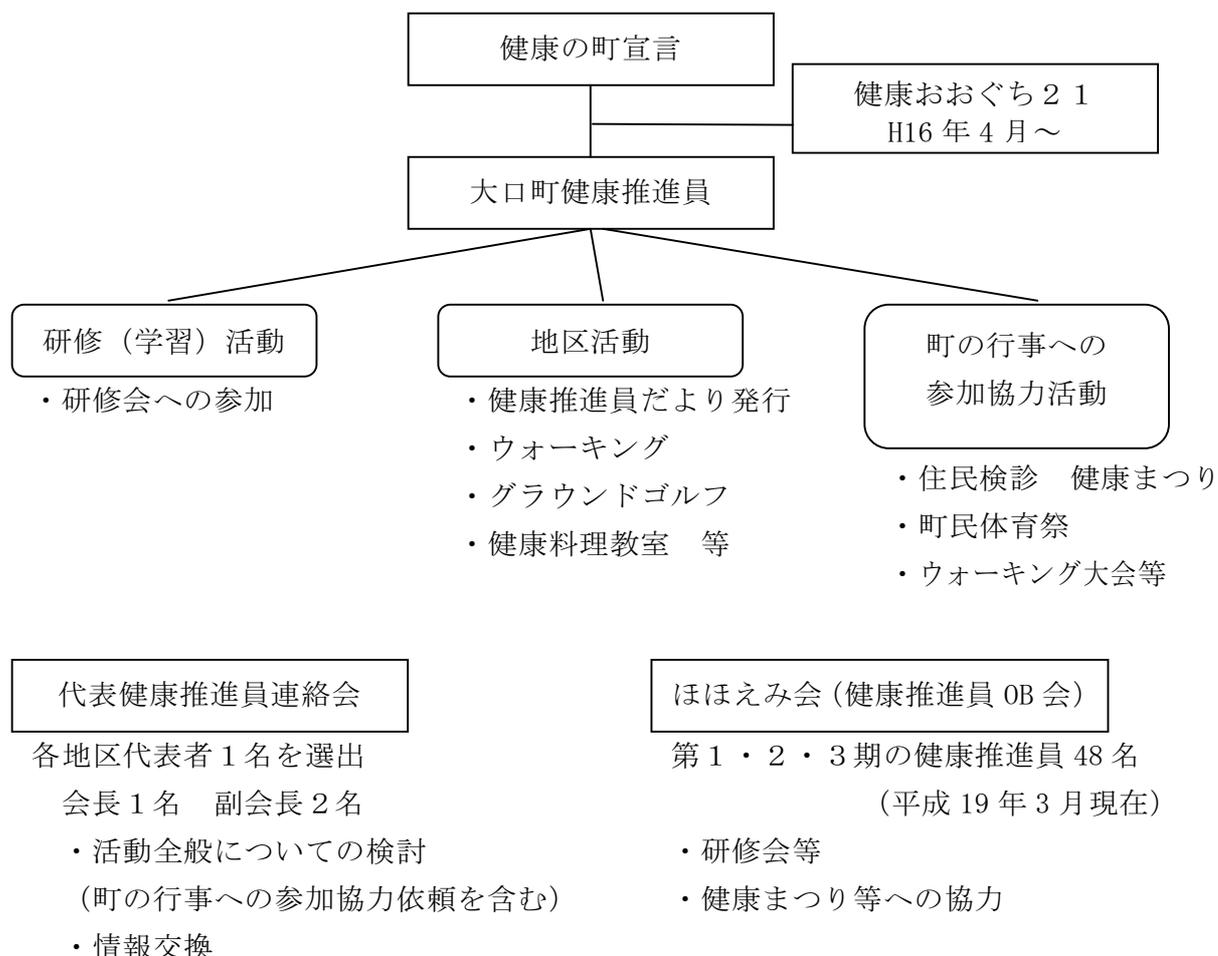
# 1 健康推進員活動

平成5年12月議会において「大口町健康の町宣言」が議決された。平成7年6月には、健康の町宣言事業の一環として、健康で幸せな生活を送るために、地区住民の健康意識を高め、地区活動を積極的に推進することを目的として、健康推進員制度が設置された。

健康推進員数は概ね100世帯に1名とし、平成16年度からの第4期健康推進員は61名でスタートした。

今年度は、第4期3年目にあたり「みんなですすめる健康な地域づくり！」を目標にかかげ、研修をしながら健康づくりのための地区活動を積極的に展開してきた。

第4期健康推進員は、平成15年度に策定した大口町健康づくり計画「健康おおぐち21」の推進と同時に健康推進活動がスタートし「健康おおぐち21」の推進と共に歩み忙しく過ぎた3年間であったが、着実に健康づくりは町づくりと捉えた「健康おおぐち21」推進の底力となっている。



(1) 健康推進員研修会実施状況

(単位：人)

実施月日	内 容	講 師	参加人数
平成 18 年 5 月 17 日 (水)	大府市健康づくり推進員協議会との交流会 大府市 36 人 (代表者のみ参加)	—	11 (代表者のみ)
6 月 5 日 (月)	「みんなですすめよう 介護予防のための地域づくり」パート I ・18 年度の保健センターの事業計画 ・地域包括支援センターについて	愛知県立看護大学 講師 松岡広子	42
8 月 28 日 (月)	「みんなですすめよう 介護予防のための地域づくり」パート II	保健師	34
9 月 5 日 (火)	講演 「新しい禁煙法 リセット禁煙」について ～たばこの健康被害から 住民の健康を守る環境づくり～	リセット禁煙 研究会代表 医師 磯村毅	22
平成 19 年 1 月 23 日 (火)	健康推進員視察研修会 春日井市緑化植物園 散策 北名古屋健康づくり推進員との交流会		46
3 月 27 日 (火)	第 4 期健康推進員 終了式		55

(2) 健康推進員全体活動

(単位：人)

実施月日	内 容	参加人数
平成 18 年 10 月 8 日 (日)	町民体育祭 実行委員のメンバーとして行事の運営に参加	22
11 月 5 日 (日)	健康まつりの一環としてウォーキング大会 各地区から多目的広場までウォーキングコースを 設定し実施	382
11 月 5 日 (日)	大口町ふれあいまつり 2006 にて 健康まつり (健康おおぐち 2 1 推進)	550

\*健康おおぐち 2 1 推進のための作業部会「健康クラブ笑顔 2 1」へ健康推進員代表として、16 年度から 3 名、17 年度は 2 名、18 年度は 2 名が参加し健康おおぐち 21 を推進していく原動力となっている。

(3) 代表健康推進員連絡会実施状況

実施月日	主な内容
平成18年 4月6日(木)	18年度代表健康推進員連絡会役員選出 18年度計画について
6月12日(月)	住民検診について 健康おおぐち21推進について 基本健康診査について 地区活動の情報交換
8月4日(金)	ふれあいまつり・ウォーキング大会について 基本健康診査・がん検診の受診勧奨 研修会について(介護予防・たばこ・視察研修)
9月20日(水)	ふれあいまつり・ウォーキング大会について
10月20日(金)	健康まつり・ウォーキング大会について (参加者数・お弁当数の確認当日のスケジュールと 役割分担)
11月6日(月)	健康まつり・ウォーキング大会について (反省及び意見・感想) 第4期健康推進員のまとめについて 第4期健康推進員終了式について
平成19年 1月15日(月)	視察研修について 第4期健康推進員終了式について(内容・役割分担)
3月6日(火)	第4期健康推進員終了式について 18年度健康推進活動実績報告

(4) 地区自主活動の状況

地区	活動状況
秋田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドゴルフ練習 (毎週月曜日に実施・夏冬の4か月は休み) 毎回20~25人 (延約550人)</li> <li>・気軽に出来る手足運動 50人</li> <li>・秋田区盆踊り大会時綿菓子作り(8月) 健康推進員参加</li> <li>・大口町ウォーキング大会(11月) 52人</li> <li>・紅葉ウォーキング 87人</li> <li>・秋田区春季グラウンドゴルフ大会(3月) 54人</li> </ul>

豊田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会「ガンなんて恐くない」 15人</li> <li>・豊田区親睦ハイキング（牧歌の里） 32人</li> <li>・盆踊りの練習（2回） 50余人</li> <li>・豊田区盆踊り（2日間） 100余人</li> <li>・大口町ウォーキング大会（11月） 30人</li> <li>・「自然を感じる 壁掛け作り」（12月） 20人</li> <li>・気持ちが若返るカラー講座（2月） 40人</li> <li>・新旧打ち合わせ 10人</li> </ul>
大屋敷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回） 推進員5人</li> <li>・活動内容の検討と反省（不定期） //</li> <li>・健康推進員だより発行（年4回） //</li> <li>・ステップアップダンス（毎月2回、第1・3土曜日） 10～18人</li> <li>・ゴキブリ団子作り（5月） 30人</li> <li>・高齢者を讃える会（踊り披露）（5月） 10人</li> <li>・地区盆踊りの練習（7月から盆まで7回） 25～35人</li> <li>（延200人）</li> <li>・盆踊り大会打ち合わせ（区会） 1人</li> <li>・地区盆踊り大会（ポップコーン作り）（8月） 720人</li> <li>・盆踊り大会反省会（区会） 5人</li> <li>・ウォーキング大会（9月）（足助香嵐溪） 41人</li> <li>・大口町ウォーキング大会（11月） 33人</li> <li>・栄養実習「高脂血症に良い食事」メタボリックシンドローム（あなたのおなか周り何センチ・・・）（2月） 21人</li> </ul>
外坪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回） 毎回約30～35人</li> <li>・グラウンドゴルフ練習（毎月2回） 42人</li> <li>・親善グラウンドゴルフ大会（4月） 3人</li> <li>・外坪老人クラブ参加 25人</li> <li>・栄養教室「骨元気のカルシウム料理」（6月） 延200人</li> <li>・盆踊りの練習（4回） 約300人</li> <li>・地区盆踊り大会協賛（8月） 43人</li> <li>・大口町ウォーキング大会（11月） 31人</li> <li>・グラウンドゴルフの方との親睦会 48人</li> <li>・18年度ミニグラウンドゴルフ大会（3月）</li> </ul>
河北	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教室（二ツ屋学共）（毎週木曜日） 毎回5人</li> <li>・グラウンドゴルフ（毎週水曜日・毎月第2・4日曜日） 毎回55人</li> <li>・健康教室「生活体力チェック」（7月） 10人</li> <li>・河北ウォーキング～鞍馬から貴船へ京都・木の根道～ 37人</li> <li>・大口町ウォーキング大会（11月） 9人</li> <li>・河北区グラウンドゴルフ大会 60人</li> </ul>

余 野	・健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回）	11人
	・健康推進員行事計画（年1回）	
	・健康推進員だより発行（年7回）	
	・健康リズム体操（月2回）	15人
	・グラウンドゴルフ大会（5月）	60人
	・明治村ウォーキング（6月）	26人
	・余野夏まつり協賛（8月）	900人
	・余野推進ウォーキング大会（9月）（妻籠・馬籠）	48人
	・大口町ウォーキング大会	53人
	・犬山ウォーキング（11月）（成田山・善光寺）	18人
	・健康リズム体操研修会	17人
・健康料理教室（高脂血症予防）（2月）	28人	
上小口	・グラウンドゴルフ大会・元気体操（4月）	48人
	・老人会と元気体操（6月）	35人
	・盆踊り練習（3回）（7月・8月）	30人
	・盆踊り・仮装大会参加（8月）	推進員5人
	・パークアリーナ小牧にてあいち応急手当講習会	31人
	・丹羽消防署にて普通救命講習会実施	13人
	・区文化祭及びウォーキング大会（11月）	推進員5人
	・グラウンドゴルフ大会（犬山桃太郎公園）（11月）	32人
	・区忘年会参加（12月）	4人
	・名古屋ドーム研修会	5人
	・熊野古道・ツヅラト峠ウォーキング	35人
	・地域安全パトロール（夜）	
	・健康推進員定例会（毎月）	
中小口	・グラウンドゴルフ 毎週月曜日（1・8・12月は休み）	延 460人
	・エアロビクス 火曜日	延 675人
	・料理教室「血液サラサラの料理」（5月）	23人
	・グラウンドゴルフ大会 （中小口・垣田）（7月）	37人
	・地区盆踊り大会協賛（8月）	延 600人
	・大口町ウォーキング（11月）	45人
	・ウォーキング会（錦秋の南木曾・旧中山道の散策）	40人
	・元気体操とエアロビクスとの交歓会	20人
	・グラウンドゴルフ大会（3月）	23人
	・健康推進員打ち合わせ会（年5回）	

下小口	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康推進員定例会（活動内容の検討と反省）（毎月1回） 10人</li> <li>ダンベル体操（月4回） 7～10人</li> <li>グラウンドゴルフ（毎週2回） 30人</li> <li>料理教室「夏野菜たっぷり 動脈硬化予防」（7月） 25人</li> <li>下小口盆踊り練習会（毎週火曜日） 20～30人</li> <li>下小口グラウンドゴルフ大会（11月） 61人</li> <li>下小口ウォーキング大会「堀尾跡公園まで往復」（3月） 78人</li> <li>大口町ウォーキング大会（11月） 94人</li> </ul>
垣田	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康推進員定例会（活動内容の検討と反省） 4人</li> <li>ナイトウォーキング（4～3月）（火・木・土） 5～6人</li> <li>グラウンドゴルフ練習（4～3月）（月・水） 8～10人</li> <li>垣田グラウンドゴルフ大会（5月） 13人</li> <li>グラウンドゴルフ交流会（中小口と）（7月） 14人</li> <li>大口町ウォーキング大会（11月） 20人</li> <li>垣田区健康づくり教室（ダイヤ会と合同で）（11月） 20人</li> <li>区ウォーキング大会（犬山・さらさくら健康館）（3月） 17人</li> </ul>
さつきヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナイトウォーキング（4～12月）（毎週木曜日） 平均12～15人</li> <li>あいち健康プラザウォーキングと研修（5月） 25人</li> <li>大口町ウォーキング大会（11月） 25人</li> <li>料理教室（バランスのとれたおいしい料理）（3月） 23人</li> </ul>



(5) 健康推進員OB会「ほほえみ会」の活動

平成10年5月に発足された第1期健康推進員OB会は49名でスタートし、健康に関する研修会を1～2回とウォーキングを実施し、仲間との友好を深めていた。平成16年4月には、第2期・第3期健康推進員OBも加わり、会員48名となっている。

現役時代につちかった健康に対する目で地区を越えた幅広い視点での健康を考えていけるよう、「食」「運動」の2部構成で活動を展開している。今年度も、「健康まつり」時に癒しのお茶コーナーを提供する等の活動を通して、少しずつではあるが、自分たちの活動を町全体へ発信していけるよう努力を重ねている。

<活動状況>

運 動

実 施 月 日	内 容	参加人数
9月28日(木)	リトルワールド(一日世界旅行)ウォーキング	15人

食

実 施 月 日	内 容	参加人数
平成19年 2月16日(木)	栄養実習 「野菜を食べよう！」 ～体にやさしい野菜たっぷり料理～	15人

全 体

実 施 月 日	内 容	参加人数
11月5日(日)	「健康まつり」 癒しの抹茶席コーナー	20人
平成19年 3月30日(金)	総会 役員選出・年間計画について	16人

## 2 「健康おおぐち21」計画推進

平成15年度に「健康づくりの主役は住民」「健康づくり＝町づくり」と捉え、大口町の健康づくり計画「健康おおぐち21」を住民と町職員が共に考え策定した。

推進3年目の今年度も、「健康おおぐち21推進作業部会」の「健康クラブ『笑顔21』」とともに、住民と行政が協働で計画を推進してきた。今年度は、たばこと歯の分野に重点を置き、公共施設の喫煙実態調査の実施や、健康まつりでのたばこに関するアンケートやクイズの実施、禁煙相談、歯科相談や歯科に関する啓発コーナーを充実させた。また、ウォーキングマップを完成させ、ウォーキング大会で周知した。

### (1) 平成18年度「健康おおぐち21」推進実施状況

分野	計画推進内容
周知 ・ 啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>*ふれあいまつりの中で健康まつり実施（幅広い年齢層が参加できる内容）</li> <li>*ハッピー・スマッピーを広めよう（3箇所の児童センターでマスコット作成教室実施）</li> <li>*私の健康・健康川柳・俳句の活用（広報掲載）</li> <li>*広報無線によるワンポイントアドバイス</li> <li>*広報誌への掲載（「みんなですすめる健康おおぐち21」コーナー）</li> </ul>
運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>*ウォーキングマップの作成と周知</li> <li>*町民ギャラリーにて「ウォーキングマップ」の紹介</li> <li>*健康おおぐち21「元気体操」の周知</li> <li>*老人クラブ健康教育 テーマ「介護予防」「元気体操」の実施</li> </ul>
食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>*大口町の旬の野菜の効用とレシピを作り、広める（広報・広報無線・れんげまつり時・若いお母さん方へ（健診時・保育園））</li> <li>*「子どもの健康」に関する連絡会との連携（「早起き・早寝・朝ごはん！」を共通テーマに実施予定）</li> <li>*町民ギャラリーにて「食生活」の活動を掲示</li> <li>*企業との連携（町内企業の新入社員教育時に「食生活」の健康教育実施）</li> </ul>
こころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>*あいさつ運動</li> <li>*「健康イベント」時での啓発、世代間交流など</li> <li>*笑顔の写真展（2/26～3/16 町民ギャラリーにて） 応募数 93点、川柳 8点</li> </ul>

たばこ・酒	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 町内公共機関等の禁煙・分煙促進のための実態調査（担当課への面接調査）</li> <li>* 愛知県の受動喫煙防止対策推進事業（「たばこダメダス」）の普及</li> <li>* 健康まつり時、たばこコーナーに重点を置き実施 薬剤師会の協力</li> <li>* 健康まつり時、断酒会の参加</li> </ul>
歯の健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 健康推進員の地区活動</li> <li>* わかば健診時歯科健診を実施・歯周病予防健診を医療機関委託で実施</li> <li>* 8020・9018 表彰を「ふれあいまつり」で実施</li> <li>* 健康まつり時、歯のコーナーに重点を置き実施 歯科医師会の参加</li> </ul>

\*平成19年度中間評価に向けての準備

(2)「健康おおぐち21」計画推進の経過

実施年月日	内 容
平成18年4月10日	健康クラブ笑顔21① ・「健康おおぐち21」計画推進について 3年目の方向性
5月 8日	健康クラブ笑顔21② ・「健康おおぐち21」推進活動について
6月 1日	健康おおぐち21推進連絡会① ・17年度の取り組み状況報告 ・18年度の活動についてグループで話し合い (食生活・運動(ウォーキングマップ)・たばこ・イベント)
6月12日	健康クラブ笑顔21③ ・健康おおぐち21推進連絡会の報告 ・ウォーキングマップ作成状況 ・たばこ(受動喫煙防止対策)について
6月23日	健康づくり推進協議会①
7月10日	健康クラブ笑顔21④ ・健康おおぐち21の推進活動について (ウォーキングマップ・旬の野菜情報・たばこの研修)
8月 7日	健康クラブ笑顔21⑤

実施年月日	内 容
9月 5日	健康おおぐち21推進連絡会② ・講演会「新しい禁煙法 リセット禁煙について」～たばこの健康被害から住民の健康を守る～ 磯村毅先生 意見交流会「きれいな空気の町づくり」のための今後の取り組み
9月11日	健康クラブ笑顔21⑥ ・イベントについて・町制100周年記念表彰時発表について
9月14日	健康クラブ笑顔21⑦ ・大口町生誕100周年記念式典での発表について
10月 1日	大口町生誕100周年記念式典 ・健康クラブ笑顔21表彰と発表
10月 2日	健康クラブ笑顔21⑧ ・ふれあいまつりについて
10月13日	健康クラブ笑顔21⑨ ・ふれあいまつり時の内容の検討について
10月30日	健康クラブ笑顔21⑩
11月13日	健康クラブ笑顔21⑪ ・ふれあいまつり反省会 ・笑顔の写真展について
11月28日	ふれあいまつり2006「健康まつり」反省会 (出席者：笑顔21・歩く会・ほほえみ会・若歩会・太極拳)
12月11日	健康クラブ笑顔21⑫ ・たばこの実態調査 ・旬の野菜レシピ試作 ・笑顔の写真展準備 ・ウォーキングマップの活用
1月12日	健康クラブ笑顔21⑬
1月29日	長久手町すこやかメイト交流会 (健康クラブ笑顔21：11人 長久手町：19人)

実施年月日	内 容
2月 9日	健康クラブ笑顔21⑭ ・たばこ：学共施設の実態調査のまとめ ・笑顔の写真展準備
2月19日	健康クラブ笑顔21⑮ ・たばこ対策 ・国際交流フォーラムについて
2月21日	たばこ対策について勉強会 アドバイザー：磯村毅先生
3月19日	健康クラブ笑顔21⑯ ・18年度の取り組み報告 ・19年度の取り組みにつて
3月24日	国際交流フォーラム参加
随時	<p>&lt;計画推進に向けての会議等実施状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 大口町健康づくり推進協議会 計 1回</li> <li>* 健康おおぐち21推進連絡会 計 2回</li> <li>* 健康クラブ笑顔21 計 16回</li> <li>* 運動部会 計 14回</li> <li>* 食生活部会 計 18回</li> <li>* ころろ・たばこ部会 計 5回</li> <li>* 周知・啓発部会 計 2回</li> </ul>



## (3) 評価

## ア 運動分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成18年度 (21アンケート 結果より)
●自分の健康維持・増進に必要な運動	●体力テストを受け、自分の体力を確認している人の割合の増加	未把握	全体 100%	全体 24.5%
●自分にあった運動習慣を身につけよう	●運動不足だと思う人の割合の減少	20～64歳 74.5% 65歳以上 未把握 40～49歳(男)80.7% 30～39歳(女)91.0% 20～29歳(女)91.6%	20～64歳 60%以下 65歳以上 60%以下 60～64歳 50%以下 40～49歳(男) 70%以下 30～39歳(女)80%以下 20～29歳(女)80%以下	20～64歳 83.7% 65歳以上 64.7%
●日常生活の中で意識して動こう	●屋内も含めた日常生活の中でこまめに動き一日平均一万歩以上(90分以上)歩く人の割合の増加(歩行に困難がない人の場合)	20～64歳 25.6% 65歳以上 未把握 60～64歳 31.5% 40～49歳(男) 20.3% 30～39歳(女) 20.9% 20～29歳(女) 18.4%	20～64歳 30%以上 65歳以上 35%以上 60～64歳 35%以上 40～49歳(男)25%以上 30～39歳(女)25%以上 20～29歳(女)25%以上	20～64歳 12.6% 65歳以上 5.9%
	●屋内も含めた日常生活の中でこまめに動き平均3000歩以下(30分以下)しか歩かない人の割合の減少(歩行に困難がない人の場合)	20～64歳 24.0% 65歳以上 未把握 60～64歳 18.4% 40～49歳(男) 31.2% 30～39歳(女) 25.1% 20～29歳(女) 34.1%	20～64歳 20%以下 65歳以上 15%以下 60～64歳 15%以下 40～49歳(男)20%以下 30～39歳(女)20%以下 20～29歳(女)25%以下	20～64歳 40.7% 65歳以上 32.4%

イ 食生活分野の指標・目標値

目 標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成18年度 (21アンケート 結果より)
●毎日野菜 をたくさん 食べよう	●漬物以外の 野菜を毎食 (1日3食) 意識して食 べる人の増 加	20~29歳 29.0% 30~39歳 36.8% 40~49歳 46.7% 50~59歳 51.5% 60~64歳 58.4% (全体 48.0%)	→ 全体 55%以上	全体 73.6%
●塩分を減 らそう	●煮物などの 味付けを 「甘からい ほう」と自 覚する人の 減少	20~64歳 43.4% (男45.5% 女42.0%) 65歳以上 63.6% (男64.1% 女63.1%)	→ 20~64歳 40%以下 65歳以上 55%以下	20~64歳 52.6% 65歳以上 54.5%
●腹八分目 で自分の 適量を知 ろう	●適正体重を 維持するた めの食事内 容・量を知 っている人 の増加	20~29歳 21.3% 30~39歳 29.5% 40~49歳 34.9% 50~59歳 45.3% 60~64歳 48.4% (全体 39.6%)	→ 全体 50%以上	
	●BMI 25 以上の人の 割合の減少 (30~59歳 の男性と 40~64歳 の女性)	30~39歳 18.0% 40~49歳 20.7% 50~59歳 21.6%	→ 男性 20%以下	基本健康 診査受診者 男性 25.5%
		40~49歳 18.0% 50~59歳 20.7% 60~64歳 21.6%	→ 女性 17%以下	基本健康診 査受診者 女性 21.8%
	●BMI 18.5未満 の女性の割 合の減少 (20~49歳 の女性)	20~29歳 27.4% 30~39歳 19.9% 40~49歳 12.4%	→ 女性 10%以下	基本健康診 査受診者 9.3% わかば健診 受診者 14.6%

エ たばこ・アルコール分野の指標・目標値

目標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成18年度 (21アンケート 結果より)
●喫煙は決められた 場所で	●禁煙・完全 分煙を実施 している施 設やイベン トの増加	未把握	100%	
●たばこの 害を知ろ う	●喫煙による 健康被害を 知っている 人の増加	肺がん 94.5% ぜんそく 53.0% 気管支炎 61.1% 心臓病 28.0% 脳卒中 17.6% 胃潰瘍 16.5% 妊娠に関する異常 72.7% 歯周病 14.5%	100%	肺がん 57.5% ぜんそく 33.1% 気管支炎 37.2% 心臓病 27.2% 脳卒中 24.9% 胃潰瘍 12.8% 妊娠に関する異常 25.8% 歯周病 13.3%
●喫煙者を 減らそう	●喫煙者を減 らす	たばこを吸っている人 男 51.2% 女 10.5%	たばこを吸っている人 男 10%以下 女 2%以下	男 27.0% 女 3.3%
	●妊婦の喫煙 率を減らす	H14 3.5% (母子健康手帳発行時 9/257人)	母子健康手帳発行時 0人	3.4%
●楽しく健 康的に飲 めるお酒 の適量を知 ろう	●節度ある飲 酒量を知っ ている人の 割合の増加	64.1%	100%	54.5%

オ 歯分野の指標・目標値

目標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成18年度 (21アンケート 結果より)
●いつまで も自分の 歯で食べ よう	●自分の歯が 60歳で24 本以上ある 人の増加	H14・15調査 60歳～64歳 39.6%	60歳～64歳 50%以上	60～64歳 42.9%
	●8020運動 を知ってい る人の増加	H13調査 20歳～64歳 49.7%	100%	95.0%
	●自分の歯が 80歳で20 本以上ある 人の増加	未把握	30%以上	
●いつまで も明るく、 歯を出し て笑おう	●歯の健康得 点が16点 以上の人の 割合の増加	未把握	56%以上	38.2%

※健康おおぐち21アンケートを、住民検診・がん検診・「健康ウォーク&元気まつりII」時に実施。回答数 847名

ウ こころ分野の指標・目標値

目標	評価指標	15年度現状値	目標値	平成18年度 (21アンケート結果より)
●あいさつ ができる ようにな ろう	●誰かとあい さつしてい る人の割合 の増加	未把握	100%	94.3%
●家族や地 域の中で 交流をも とう	●地域の人と つき合いが ない人の割 合の減少	H13 20~64歳 あまりない人 24.0% ほとんどない人 15.7%	あまりない人 14%以下 ほとんどない人 7%以下	
	●最低一日1 回きちんと した食事を 家族等2人 以上でとる 人の割合の 増加	全体：75.7% 20~29歳 64% 30~39歳 59.5%	全体：85%以上 20~29歳 70%以上 30~39歳 65%以上	
●自分なり の規則正 しい生活 を身に付 けよう	●目が覚めた 時に、疲労 感が残るこ とがある人 (週3回以 上) の割合の減 少	31.7%	0%	18.3%
●ストレス とうまく つきあお う	●ストレスが 大きくて、 逃げ出した いと思っ ている人の 割合の減少	よくある 6.5% ときどきある 31.1%	よくある 3.2%以下 ときどきある 15%以下	
●生きがい や楽しみ をもとう	●趣味をもっ ている人の 割合の増加	20~64歳 61.0% 65歳以上 78.6%	20~64歳 80%以上 65歳以上 90%以上	

#### (4) 公共施設喫煙実態調査

##### ア 目的

たばこ分野の目標「1. 喫煙は決められた場所で」に基づき、受動喫煙防止の観点から大口町公共施設の実態調査を行った。

また健康日本21あいち計画においては、受動喫煙対策の禁煙、分煙施設の認定制度「たばこダメダス」を推進している。

##### イ 対象

町役場をはじめとする学校、保育園、各地学共等の施設34箇所

##### ウ 調査方法

健康クラブ笑顔21のメンバーが各施設所轄の担当責任者等に面接し、喫煙状態を聴き取り調査し、出来るところは現況確認をする(資料1)。

##### エ 調査期間

平成18年10月～平成19年2月

##### オ 調査結果

別紙のとおり

##### カ 「たばこダメダス」の認定数

平成18年5月1日現在、禁煙施設認定数は4施設であったが、調査時に啓発した結果、15施設(公共施設10施設、医療機関5施設)となった(平成19年3月30日現在)。

##### キ まとめ

今回、健康クラブ笑顔21のメンバーが聴き取り調査をし、たばこに対する関係者の考えや意見を聞くことにより、「健康は勿論、火災防止の点からも町が方向性と姿勢を示してもらえると進めやすい。」「単独では難しい。」など今後の健康おおぐち21のたばこに対する取り組みの方向性が示唆された。19年度は計画の見直しの年であり、受動喫煙防止に対する対策を検討していきながら推進していきたい。

オ 調査結果

施設名	健 21 認識	建物内での喫煙は？						敷地内での喫煙 は？			標 示	保 所 認 定	認 定 申 請	メ モ
		禁 煙	分 煙	部 禁	時 禁	自 由	灰 皿	禁 煙	指 定	自 由				
役場庁舎	○		○							○	なし	なし		不完全な分煙
役場庁舎	○		○				有				なし	なし		不完全な分煙
健康文化センター	○	○							○		あり	あり		
中央公民館	○	○					有納		○		なし	なし	考	タバコ自販機あり
福祉会館	○	○					有納		○		なし	なし	考	出入口に灰皿あり
町民プール	○		○				有		○		なし	なし	考	一部屋喫煙OKあり
町民会館	○	○							○		なし	なし	考	
町民ランド	○	○							○		なし	なし	考	
ふれあいの森	○								○		なし	なし	考	
テニスコート管理棟														
テニスコート														
北小学校	○	○							○		なし	なし	否	現地面接調査必要
西小学校	○		○											現地面接調査必要
南小学校	○		○											現地面接調査必要
大口中学校	○	○									なし	なし	否	現地面接調査必要
大口北中学校	○		○											現地面接調査必要
給食センター														
中保育園	○	○					なし	○			なし	なし	希望	2007年1月24日認定
西保育園	○	○					なし	○			なし	なし	希望	2007年1月24日認定
北保育園	○	○					なし	○			なし	なし	希望	2007年1月24日認定
南保育園	○	○					なし	○			なし	なし	希望	2007年1月24日認定
西児童館	○	○					なし	○			なし	なし	希望	2007年1月24日認定
北児童館	○	○					なし	○			なし	なし	希望	2007年1月24日認定
南児童館	○	○					なし	○			なし	なし	希望	2007年1月24日認定
秋田学共	○			○			ある			○	なし	なし		廊下等に灰皿
豊田学共	○	○					なし		○		なし	なし	希望	2007年3月30日認定
大屋数学共	○					○	あり		○					会議中は禁煙
外坪学共	×			○			ある			○	なし	なし		廊下に灰皿あり
河北学共	×			○			ある			○	なし	なし		廊下に灰皿あり
二ツ屋学共	○					○	ある			○				自由喫煙
余野学共	○			○			ある			○	なし	なし		廊下、事務室で喫煙

施設名	健 21 認識	建物内での喫煙は？						敷地内での喫 煙は？			標 示	保 所 認 定	認 定 申 請	メ モ
		禁 煙	分 煙	部 禁	時 禁	自 由	灰 皿	禁 煙	指 定	自 由				
上小小学共	○					○	ある			○				自由喫煙
下小小学共	○			○			ある			○	なし	なし		廊下に灰皿あり
竹田学共	○			○			ある			○	なし	なし		廊下に灰皿あり
中小公民館分館	×					○	ある							トイレ前に灰皿あり
さつきヶ丘 公民館分館	○	○					ある		○		ある	なし	希望	2007年3月23日認定
垣田公民館分館	○					○	ある			○				県住宅公社の建物
萩島集会場	○					○	ある			○				自由喫煙

## 喫煙実態調査の依頼

健康のおおぐち21シンボルマーク



ハッピースマッピー

健康クラブ笑顔21  
「健康おおぐち21作業部会」

大口町 様

### 喫煙実態調査ご協力をお願い

2004年3月「健康日本21」「健康日本21あいち計画」の地方版として「健康おおぐち21」が行政をはじめ専門家、諸団体、住民参加の中で策定されました。そして9ヵ年計画期間の2年半が経過しました。本年度は目標5分野（運動、食、こころ、酒タバコ、歯）の一つである、たばこについて受動喫煙防止を重点にした環境づくりが急がれます。

昨年の2月には「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」の発効で、たばこ対策について国際的な取り組みの一步が踏み出されました。過日の世界禁煙デー（5/31）には県内で「世界禁煙デー」のキャンペーンが愛知県職員及びボランティア団体により街頭で繰り広げられ、また、全庁で1週間の終日禁煙の実施などが取り組まれました。

こうした動きの中「健康の町宣言」の町の名に恥じない環境を作り上げるための活動にご理解とご協力をお願いいたします。

記

#### 調査内容

①「健康おおぐち21」にタバコの項目があることをご存知でしたか？  
はい ・ いいえ

②建物内での喫煙について  
禁煙 部分禁煙 時間帯禁煙 分煙 自由

③敷地内での喫煙について  
禁煙 指定した場所、施設 自由

④保健所の受動喫煙防止対策事業「たばこダメダス」の認定を受けられましたか？  
受けている 受けていない 今後受けたい

⑤今後はどのようにお考えですか？  
(禁煙以外にお答えの施設)

参 考  
尾北地区内での禁煙施設数（江南保健所認定）  
江南市90 岩倉市50 犬山市12 扶桑町9 大口町6

(5) 健康おおぐち21推進イベント

ア 目的

健康おおぐち21の推進として、より多くの人へ計画の周知と健康づくりのきっかけとなるよう今年度は、ふれあいまつり2006の中で「健康まつり」として実施。

イ 日時

平成18年11月5日(日) 午前10時～午後3時

ウ 場所

健康文化センター 1階

エ スタッフ 合計 120人 健康課 9人

健康クラブ笑顔21 11人(内5人は、健康推進員)・健康推進員 55人

ほほえみ会 20人・太極拳 30人・若歩会 8人・歩く会 1人

オ 内容及び参加者数

全体の参加者 約550人

	内 容	参加者数
全 体	クイズラリー	235人
	21アンケート	168人
運 動	ウォーキング大会	386人
	体力測定	237人
	歩幅測定(ウォーキング大会会場分も含む)	450人
	生活能力チェック	51人
	足指間力チェック&足指ゲーム	47人
	健康おおぐち21「元気体操」&太極拳(2回実施)	約100人
食生活	旬の野菜料理実演&試食(カブ)	95人
	〃 (きのこ)	136人
	カードバイキング	36人
	味噌汁の試飲	100人
こころ	薬草茶・ハーブティー	377杯
	抹茶	300杯
たばこ	スモーカーライザー	43人
	ニコチンチェック	150人
	禁煙相談	10人
	たばこ害クイズ	300人
	たばこ害アンケート	150人
	薬の相談	1人
アルコ ール	アルコールパッチテスト	278人
	断酒相談	1人
歯	歯科相談	40人
	歯の16得点	100人

	口臭測定	67人
	咬合測定	67人
	歯並ベゲーム	120人
	唾液潜血反応	46人
測 定	健康チェックコーナー（保険年金課）	
	脳年齢チェック	111人
	右脳・左脳バランスチェック	104人
	重心動揺測定	121人
	お肌年齢	202人
	血管年齢測定	191人

#### カ たばこ害アンケート結果

アンケート実施数	喫煙者	吸っていたがやめた	喫煙していない	未記入
145人	16人	8人	117人	4人

#### たばこの害を知っていますか？（知っている人の割合）

	がん	脳卒中	心臓病	歯周病	胃潰瘍	ぜん息・気管支炎	妊娠への影響
喫煙者	81.3%	56.3%	62.5%	37.5%	31.3%	62.5%	56.3%
非喫煙者	78.4%	55.2%	54.4%	45.6%	28.8%	68.0%	69.6%

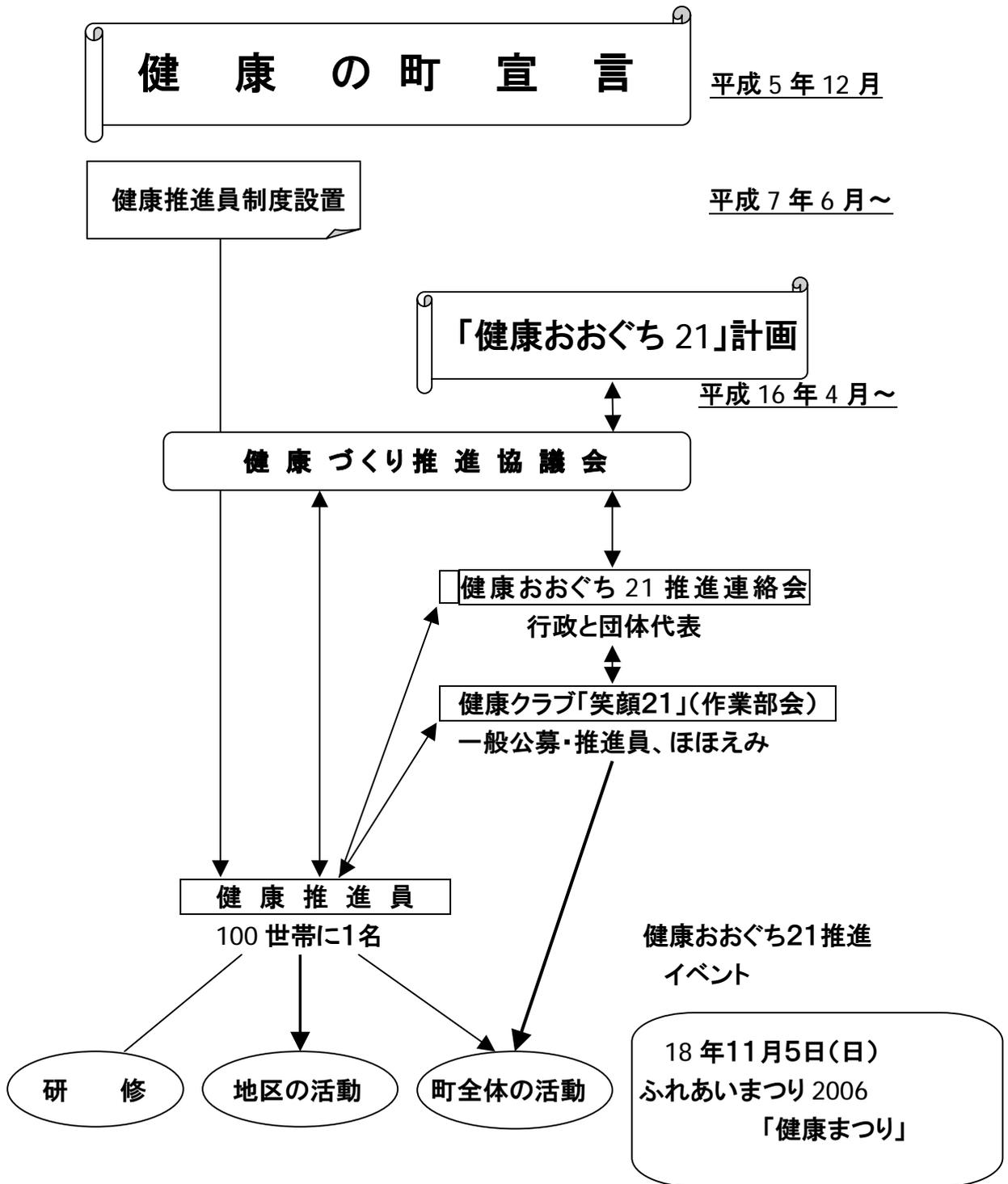
喫煙者	喫煙場所が決まっている人（場所が外の人）	75.0%（18.8%）
	禁煙に挑戦したことがある人（今も禁煙したいと思っている人）	62.5%（80.0%）

非喫煙者	たばこの煙で嫌な思いをしたことがある人	76.0%
	家族の中に喫煙者がいる人	41.6%
	家族の中に喫煙者がいる人のうち、喫煙場所が決まっている割合（そのうちその場所が外の割合）	57.7%（32.7%）

嫌な思いの声として、くさい、ご飯がまずくなる、煙でのどが痛くなる、会社の会議中がつらい、赤ちゃんに煙がくるなどの意見があった。



# 「健康推進員活動と健康おおぐち21」



## 6 感染症予防事業

# 1 予防接種

今日では感染症の流行が急速に減少し、予防接種によって獲得した免疫が感染症の流行を抑制していることが忘れられてしまいがちであるが、予防接種により社会全体の免疫水準を維持するためには、予防接種の接種機会を安定的に提供し一定の接種率を確保することが重要である。

本町では、予防接種法の改正に基づきより安全で有効な接種を実施するため、平成7年度からBCG及びポリオ以外の予防接種を個別予防に切り替えた。平成13年11月の法改正では、65歳以上の高齢者等を対象としたインフルエンザ予防接種が二類疾病として市町村の行なう予防接種に追加され、従来の定期接種は一類疾病とされた。

平成9年度からは電算システムにより、未接種者に対する接種勧奨を行ない、接種率の向上に努めている。

平成18年4月予防接種法の改正により、麻しん・風しん予防接種が混合ワクチン（MRワクチン）になり2回接種となった。なお同年6月予防接種法の一部改正に伴い、年長児に麻しん・風しん混合（MR）第2期の予診票を送付し勧奨を行なった。

## （1）個別接種実施体制

就学前の乳幼児に対しては出生届時に保険年金課において、転入者については保健センターで予防接種予診票綴と「予防接種と子どもの健康」を交付し、就学児の接種対象者については、その都度学校を通じて予防接種予診票を配付し、予防接種を受けるよう周知している。

インフルエンザ予防接種は、対象者に個別通知で予診票を送付し、委託医療機関にて一部負担金（1,000円）を支払い、接種を受けるよう周知している。

### ◆ 予防接種会場 ◆

予防接種の種類	接種方法	接種会場
三種混合（百日せき・ジフテリア・破傷風）	個別接種	大口町・扶桑町 江南市・犬山市の 委託医療機関（予約制）
二種混合（ジフテリア・破傷風）		
麻しん・風しん混合（MR）		
麻しん		
風しん		
日本脳炎		
インフルエンザ	集団接種	保健センター
ポリオ（急性灰白髄炎）		
BCG		

\*平成18年4月より江南市・犬山市の委託医療機関でも個別接種が可能となる。

◆ 個別接種の種類と接種期間 ◆

対象	種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳幼児	三種混合 麻しん・風しん (MR)	←—————→											
	麻しん 風しん 日本脳炎												
小学生 6年生	二種混合	7/20~8/31											
小学生 4年生	日本脳炎*	←—————→ (転入者・接種もれ者)											
65歳 以上等	インフルエンザ	11/1~12/28											

\*平成18年度より年間を通じて接種できるようになった。

\*日本脳炎予防接種は平成17年5月30日から引き続いて、積極的接種勧奨を差し控えている。

(2) 定期接種

		対象年齢	標準的な接種年齢	回数	間隔
ジフテリア 百日せき 破傷風	沈降精製 DPT ワクチン	1期初回 生後3月~90月未満	生後3~12月	3回	3~8週
		1期追加 生後3月~90月未満	1期初回接種(3回) 後、12~18月	1回	1期初回接種終了後、6か月以上の間隔をおく
	DT ワクチン	2期 11歳~13歳未満	小学校6年(12歳)	1回	
麻しん 風しん	乾燥弱毒性麻しん 風しん(MR) ワクチン	1期 生後12月~24月未満		1回	
	又は 単独ワクチン	2期 5歳以上7歳未満の 者であって就学前の 1年間		1回	

	対象年齢	標準的な接種年齢	回数	間隔
日本脳炎	1 期初回 生後 6 月～9 0 月未満	3 歳	2 回	1～4 週
	1 期追加 生後 6 月～9 0 月未満	4 歳	1 回	1 期初回接種終了後概ね 1 年おく
	2 期 9～12 歳	小学校 4 年 (9 歳)	1 回	
ポリオ (急性灰白髄炎)	生後 3～9 0 月未満	生後 3～1 8 月	2 回	6 週以上
インフルエンザ	6 5 歳以上等の方		1 回	—

(3) 実施状況

ア 三種混合

第 1 期初回

(単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者			完了者接種率 (B/A)
		1 回目	2 回目	3 回目(B)	
1 7 年度	2 8 3	2 4 4	2 4 5	2 3 9	8 4 . 5
1 8 年度	2 8 0	2 4 6	2 5 0	2 3 9	8 5 . 4

第 1 期追加

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
1 7 年度	3 4 1	2 5 2	7 3 . 9
1 8 年度	3 2 2	2 3 2	7 2 . 0

イ 二種混合

第 2 期

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
1 7 年度	2 4 5	2 0 7	8 4 . 5
1 8 年度	2 4 4	2 1 1	8 6 . 5

ウ 麻しん・風しん混合 (MR)

第 1 期

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
1 8 年度	2 6 0	2 3 0	8 8 . 5

第 2 期

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
1 8 年度	2 5 0	2 2 1	8 8 . 4

エ 麻しん (単位：人・%)

	対象者		被接種者	完了者接種率
17年度	272		224	82.4
18年度	第1期	—	0	—
	第2期	—	3	—

オ 風しん (単位：人・%)

	対象者		被接種者	完了者接種率
17年度	392		346	88.3
18年度	第1期	—	2	—
	第2期	—	6	—

カ 日本脳炎

第1期初回 (単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者		完了者接種率(B/A)
		1回目	2回目(B)	
17年度	256	60	23	9.0
18年度	249	0	0	0

第1期追加 (単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
17年度	273	35	12.8
18年度	236	0	0

第2期(小学4年生) (単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
17年度	214	99	46.3
18年度	276	0	0

キ ポリオ (単位：人・%)

	対象者(A)	被接種者		完了者接種率 (B/A)
		1回目	2回目(B)	
17年度	279	231	240	86.0
18年度	248	238	210	84.7

ク インフルエンザ(65歳以上の高齢者等) (単位：人・%)

	対象者	被接種者	完了者接種率
17年度	3,529	2,409	68.3
18年度	3,715	2,433	65.5

## 2 結核予防

### (1) BCG接種

- ア 対象年齢 生後6か月未満  
(ただし、生後6か月までの期間で医学的に接種が不適当とされた乳児は、1歳に達するまでの期間)
- イ 接種回数 1回
- ウ 接種方法 保健センターでの集団接種

### (2) 実施状況

(単位：人・%)

	対象者	被接種者	接種率
17年度	256	249	97.3
18年度	254	252	99.2

\* 百日ぜきに罹患のため生後6か月時に接種した児1名含む。



(2) 住民（結核）検診

ア 目的

全地区において、検診、健康相談を行い、結核やその他の疾病の予防、早期発見、健康保持に関する知識の普及、健康増進の啓発を行う。

イ 対象

40歳以上で、会社、学校等に勤務していない方  
 （今年度より、結核予防法の改正に伴い40歳以上の方が対象となる）

ウ 日時

6月27・28・29・30日

エ 内容

胸部レントゲン検査（結核・肺がん検査）  
 （希望者のみ、がん検診申込受付・健康相談・血圧測定・体力測定）

オ 従事者

保健師 管理栄養士 事務員 委託機関（医師を含む）

カ 実施状況

(ア) 年度別年齢別受診者状況 (単位：人)

年度 \ 年齢	受診者数	15～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
14	721	18	78	52	110	278	185
15	711	12	81	45	109	278	186
16	635	14	87	43	78	265	148
17	641	8	65	39	68	295	166
18	574			28	67	276	203

(イ) 胸部レントゲン検査 (単位：人)

	X線間接撮影
16年度	635
17年度	641
18年度	574

※平成16年度より、簡易体力チェック（片足立ち・イスからの立ち上がり・握力）を実施（299名）。

(ウ) 胸部レントゲン検査結果（異常所見ありの内訳）

結果	人数
要観察者	17名
要精検者	9名 肺炎・気胸などの疑い 2名 その他 1名 肺がんを否定できない 6名
計	26名

※ 要観察者とは異常所見を認めるが精査を必要としない者

※ その他（気管狭窄の疑い）

## 7 救急医療

# 1 救急医療の取り組み

地域住民が事故や急病など緊急の場合に、適切な医療がより早く受けられるような救急医療体制については、だれもが安心して日常生活を送るための基盤として、社会的要請が強い。

大口町においては、在宅当番医制による第一次救急医療体制、病院群輪番制による第二次救急医療体制により救急医療を実施している。

## 2 第一次救急医療

休日における救急患者の初期医療に対応するため、扶桑町・大口町の医療機関において在宅当番医制により実施している。

### (1) 実施医療機関

扶桑町 14 医療機関  
大口町 7 医療機関

### (2) 実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
日数	6 (2)	7 (3)	4 (1)	6 (2)	4 (2)	6 (1)	6 (3)	6 (1)	8 (2)	8 (4)	5 (2)	5 (1)	71 (24)

※ ( ) 内は、大口町の医療機関分  
診療時間 9:00~12:00  
14:00~17:00

## 3 第二次救急医療

第一次救急医療機関の後方病院として、入院又は緊急手術等を要する救急患者に対する医療を確保するため、尾張北部二次救急医療圏（犬山市、江南市、岩倉市、扶桑町、大口町）において病院群輪番制による第二次救急医療体制により救急医療を実施している。

### (1) 実施医療機関

4 医療機関

### (2) 実施日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
休日	6	7	4	6	4	6	6	6	8	8	5	5	71
夜間	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

## 8 調査・研究等

## 1 学生実習指導

公衆衛生の視点を持った保健師、栄養士、看護師を育成するため、地域で行われている公衆衛生看護・栄養活動を学ぶ場として実施している。多岐にわたる役割の中で、生活の基盤となる公衆衛生の実践を学び、臨床と地域の連携を進めていく上でも大切な場となっている。また学生指導を通して、日々行っている保健活動を改めて見直す機会となっている。

学 校 名	養成課程	実習生数（人）	実習期間
尾北看護専門学校	看護師	2	9月11日～15日
		2	10月2日～6日
		3	11月13日～17日
		3	11月20日～24日
愛知県立看護大学	保健師	3	7月10日～20日

※学生は母子保健・成人保健及び住民と共同で進める健康づくりの取り組みを見学し、また対象者の特徴にあわせた媒体作成、健康教育、地区把握等を学ぶ

## 2 発表等

実施年月日	内 容	場所及び発表者
10月1日(日)	大口町誕生100周年記念式典時まちづくり発表会 「健康おおぐち21の活動について」	大口町民会館 健康クラブ笑顔21
11月10日(金)	平成18年度新任期保健師保健指導研修にて発表 「地域住民を支え、育てる家庭訪問の楽しさと難しさ」出席者：新任期保健師50名、助言者8名	愛知県東大手庁舎 保健師

# 保健活動のまとめ

平成19年6月発行

編 集 大 口 町 保 健 セ ン タ ー  
丹羽郡大口町伝右一丁目35番地  
電 話 0587(94)0051  
F A X 0587(94)0052

発 行 大 口 町